

ノ賞牌ヲ佩用セシム

勳等ヲ分ツテ八級ト爲ス

勳一等

右ニ叙スル者ハ一等賞牌ヲ賜フ

勳二等

右ニ叙スル者ハ二等賞牌ヲ賜フ

勳三等

右ニ叙スル者ハ三等賞牌ヲ賜フ

勳四等

右ニ叙スル者ハ四等賞牌ヲ賜フ

勳五等

右ニ叙スル者ハ五等賞牌ヲ賜フ

勳六等

右ニ叙スル者ハ六等賞牌ヲ賜フ

勳七等

右ニ叙スル者ハ七等賞牌ヲ賜フ

勳八等

右ニ叙スル者ハ八等賞牌ヲ賜フ

從軍牌

從軍牌ハ將卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セス凱旋ノ後從軍セシ徴ニ之ヲ賜フ

一 賞牌及從軍牌ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ用ユルコトヲ得ス

從軍牌佩用式

一 賞牌ハ勳一等ニ限リ必ス勳二等ノ牌ト共ニ兩箇ノ牌ヲ佩ヘシ其他二等以下ハ一個ヲ佩ルヲ規則トス譬ハ三等ノ牌ヲ佩ル者勳二等ニ叙スルトキハ管テ佩ル所ノ三等牌ヲ止メ

二等牌ノミ佩ルカ如シ

一 賞牌ハ禮服ノトキ佩ヘシ平服ニハ佩フヘカラス平服ニハ略綬ヲ左襟見返ノ鈕穴ニ掛ク其表トス

一 一等賞牌ハ幅廣キ綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ斜ニ佩フ

一 二等賞牌ハ右肋ノ邊ヘ綬ヲ不用針ニテ狹ニ佩フ

一 三等賞牌ハ綬ヲ領ニ纏ヒ喉下ニ佩フ

一 四等以下ノ賞牌及從軍牌ハ左肋ノ邊ヘ左ニ列シ佩フ
(以下圖式略ス)

○第二款 外國勳章佩用願手續

明治十一年六月
第十五號布告

明治八年(十一月)第百七十一號布告外國勳章佩用免許願手續左ノ通改正候條此旨布告候事

外國勳章佩用願手續

- 一 內國人ニシテ外國政府ヨリ勳章ヲ受ケ之ヲ佩用セント欲スル者ハ左ノ手續ヲ以テ賞勳局正副總裁ヘ宛願出其佩用免許狀ヲ受ヘシ
- 一 皇族及勅委任官ハ外務省ノ副狀ヲ受ケ直ニ賞勳局ヘ願出ヘシ
- 一 判任官以下ハ奉職廳華族ハ宮内省士族以下ハ地方廳ヲ經テ願出其奉職廳若シハ宮内省地方廳ハ其趣ヲ具シ外務省ノ副狀ヲ併セ賞勳局ヘ進達スヘシ
- 一 佩用願人ハ前條出願ノ節其外國ヨリ受領シタル勳章勳記ヲ前ノ手續ヲ以テ賞勳局ヘ差出シ其檢閱ヲ受ケヘシ其願書面ニハ勳章ヲ受領シタル事由ヲ詳記スヘシ

○第十八章 恩給

○第一款 官吏恩給令附則

明治十八年三月
第十五號達

官吏恩給令附則左ノ通相定候條此旨相達候事

官吏恩給令附則

第一條 本令第二條第三條及第四條ニ該ル者退官スルトキハ同時ニ其恩給願書(第一書式)及證據書類ヲ本屬長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ係ル者ハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル長官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條 本令第十條第十一條第十二條第十三條及第十四條ニ該ル者ハ其扶助料願書(第二書式)及證據書類ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ

第三條 恩給願書若クハ扶助料願書ヲ受領セシ長官ハ查察ノ上轉給願書ヲ除クノ外其計算書(第三書式)ヲ製シ本令第二十條ニ據リ該書類ヲ太政官ニ進達スヘシ

第四條 恩給願書ニ添フヘキ證據書類ハ左ノ如シ

- 一 履歷書
 - 二 戶籍寫
 - 三 診斷書(負傷若クハ罹病者ニ要ス)
 - 四 見証々書(第四書式)(公務ニ依リ負傷シタル者ニ要ス)
- 第五條 本令第四條ニ掲クル最下金額十分ノ七迄ノ増給差等ハ左ノ如シ
- 一 二肢ヲ亡シ或ハ兩眼ヲ盲スル者 十分ノ七
 - 二 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受ケシ者 十分ノ六
 - 三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フ者 十分ノ五
 - 四 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受ケシ者 十分ノ四

第一類 官吏恩給令附則

五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者

十分ノ三

六 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受ケシ者

十分ノ二

第六條 本令第三條ニ掲グル公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負フトハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ失フニ等シキ者ニ限ル

第七條 公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ負傷シ恩給ヲ受ケタル者仍ホ重症ニ趨キントキ

左ノ期限内ニ出願スレハ査覈之上更ニ増加恩給ヲ下賜スヘシ

一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ二ヶ年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者及之ニ等シキ者ハ三ヶ年

第八條 前條ニ當該シ増加恩給ヲ願ハントスル者ハ其願書(第五書式)ニ診斷書及恩給証書ヲ添ヘ之ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ

第九條 年齢六十歳未満ト雖モ滿十五年以上奉職シ服務紀律違犯ノ故ニ非スシテ論旨退官ノ者若クハ非職滿期免官ノ者ハ本令第二條廢官廢廳ノ例ニ依ル

第十條 官吏滿五年以上奉職ノ後本官ヲ免シ直ニ御用掛或ハ准官吏等ニ採用ノ者ハ其際恩給或ハ本令第二十九條ノ一時賜金ヲ給セス其御用掛或ハ准官吏退職ノトキニ於テ前官ニ對スル恩給若クハ一時賜金ヲ下賜ス但御用掛或ハ准官吏奉職中自己ノ便宜ニ依リ其職ヲ辭スル者及服務紀律ニ違ヒ論旨退職ノ者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免

職ノ者ハ恩給或ハ一時賜金支給ノ限ニ在ラス

第十一條 奉職年數ハ月ヲ以テ計算スヘシ但退官同月内ニ再任セシ者ハ其月ヲ二ヶ月ニ算スルヲ得ス

第十二條 非職中ノ年月ハ奉職年數ニ算入スヘシ但官吏非職條例第七條ニ該ル者ニシテ非職俸ヲ受ケサルノ年月ハ之ヲ除算ス

第十三條 本令第七條第二項ニ掲グル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一ヶ月分ニ相當スル金額ヲ云フ

第十四條 本令第二十九條及第三十條ノ一時賜金ハ非職中退官或ハ死去スル者ト雖モ其本俸ノ額ニ照シテ之ヲ支給ス

第十五條 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ服務紀律ニ違ヒ論旨退官ノ者及懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官ノ者再ヒ任官スルコトアルモ其前官年數ハ之ヲ通算セス

第十六條 公務ニ依リ死去ノ者アルトキハ其事實ヲ保證シタル書面(見證人アレハ其証書ヲ添ヘ)及履歷書又恩給ヲ受クルノ期ニ達シタル者死去セントキハ其履歷書ヲ本屬長官ヨリ遺族ニ下附スヘシ

第十七條 扶助料願書ニ添フヘキ證據書類ハ左ノ如シ

- 一 死者履歷書 (在官中死去シタルトキニ要ス)
- 二 戸籍寫

三 恩給證書 (轉給ノトキニ要ス)

四 醫師ノ死亡届書若クハ檢案書 (公務ニ依リ死去シタルトキニ要ス)

五 本局長官保證書 (公務ニ依リ死去シタルトキニ要ス)

第十八條 本令第十三條及第十四條ニ掲クル癡疾又ハ不具ノ者扶助料ヲ願ハントスルトキハ前條書類ノ外仍ホ其診斷書ヲ添フヘシ

第十九條 本令第十條ニ掲クル恩給年額四分ノ二以内ノ差等ハ公務ニ依リ死去セシ者ノ寡婦ニハ四分ノ二其他ノ寡婦ニハ四分ノ一トス

第二十條 本令第十條ニ掲クル恩給ヲ受クヘキ期ニ至ルトハ奉職滿十五年以上ヲ云フ

第二十一條 扶助料ヲ受タル寡婦其支給ヲ止メラルトキハ轉シテ之ヲ繼嗣ノ孤兒ニ給ス

第二十二條 扶助料ヲ受タル寡婦死去シテ孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受タル孤兒死去シ仍ホ其亡夫或ハ亡父ノ父母又ハ祖父母アルトキハ本令第十二條ノ例ニ依ル

第二十三條 本令第十三條ニ掲クル母及祖母癡疾又ハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハス他ニ之ヲ奉養スル者ナキトキハ同條但書父及祖父ノ例ニ依ル

第二十四條 恩給或ハ扶助料ノ出願ヲ許可セシトキ恩給許可令ハ本局長官ヲ經テ直ニ本人ニ下附シ扶助料許可令ハ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下附ス

恩給證書ハ總テ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下附ス

第二十五條 本令第十六條第二項ニ掲クル請願ノ期限ハ恩給證書受領ノ日ヨリ三月トス其期限ヲ過ルモノハ受理セス

第二十六條 本籍地方廳ニ於テ本令第二十五條ノ出願ヲ許可シタルトキハ直ニ大藏省ニ届出テ且本人移任ノ地方廳ニ通牒スヘシ

第二十七條 恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルトキハ本令第十八條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノトキハ本令第十九條ニ準ス

第二十八條 恩給若クハ扶助料ヲ受タル者本令第十一條第二項第十八條第三項第四項ニ該ルトキハ其本籍地方廳ヨリ直ニ恩給局ニ届出ツヘシ

本令第十八條ニ掲クル再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クルトハ准官吏以上ヲ云フ

第二十九條 恩給若クハ扶助料ヲ下賜シ又ハ其支給ヲ止メ若クハ停メタル時ハ恩給局ヨリ之ヲ大藏省及會計檢査院ニ通牒スヘシ

官吏恩給令附則諸書式

第一書式 甲

恩給願書

某 儀

何年何月間奉職能在候處(年齢六十歳以上ノ老体ト相成退官出願候ニ付御許

△廢官廢
應免官ノ
者ハ元ノ
官名應名
ヲ記スヘ

可ノ上ハ(何々)(何々)相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段奉願候也
年月日
官 氏 名 印

本屬長官宛

第一書式乙

恩給願書

何年何月間奉職罷在候處何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ(何ノ部
ニ何ノ傷痰ヲ負ヒ)(何々)爾來治療仕候得共遂ニ(何々)(何々)退官相願候ニ
付御許可ノ上ハ(相當ノ恩給)(相當ノ恩給並ニ增加恩給)下賜度證據書類相添
此段奉願候也

年月日

官 氏 名 印

本屬長官宛

第二書式甲

扶助料願書

夫(父)氏名儀

明治何年何月ヨリ恩給下賜相成居候處(何年何月間奉職罷在候處)何年何月何
日死亡仕候ニ付某へ相當ノ扶助料下賜度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

何族(平民)

故何某寡婦(孤兒)

年月日

氏 名 印

同 親族(後見人)

氏 名 印

同 親族

氏 名 印

地方長官宛

戶長 氏 名 印
郡(區)長 氏 名 印

第二書式乙

扶助料願書

何年何月間奉職罷在候處何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ(何ノ部
夫(父)官某儀

第一類 官吏恩給令附則

ニ何ノ傷疾ヲ負ヒ(何々)何年何月何日死亡仕候就テハ某へ相當ノ扶助料下賜度証據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地
何族(平民)
故何某寡婦(孤兒)

氏 名 印

同 親族(後見人)

氏 名 印

同 親族

氏 名 印

地方長官宛

戸長 氏 名 印
郡(區)長 氏 名 印

第二書式丙

扶助料願書

故官氏名寡婦

某 儀

明治何年何月ヨリ扶助料下賜相成居候處何年何月何日(復籍)(再婚)(何々)仕候ニ付更ニ某へ扶助料轉給相成度證據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地
故何某孤兒

氏 名

同 親族(後見人)

氏 名 印

同 親族

氏 名 印

地方長官宛

戸長 氏 名 印
郡(區)長 氏 名 印

第三書式

明治四年
八月以前
ノ任官ナ

恩給計算書

官 氏 名

何年何月何日生
明治何年何月何年何月

第一類 官吏恩給令附則

レハ四年
八月ノ官
ヲ茲ニ記
ス
寡婦孤兒
扶助料計
算書ナレ
ハ本額四
分ノ二若
クハ一此
年額若干
圓

何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
任	任	任	任	退
何官	何官	何官	何官	官

何年何ヶ月

何年何ヶ月

通計何年何ヶ月

滿何年(前官)(現官)俸給二百四十分ノ若干

此年額若干圓

明治何年何月

何官廳
取調主任

官氏名

印

第四書式

見證々書

見證ノ實況及其理由ヲ極テ詳悉スルヲ要ス

右明治何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒ候ヲ某何ノ際見認候也

官氏名

見證人 屬籍職業 氏

名印

年月日

明治何年何月何年何ヶ月

同

同

同

同

第五書式

增加恩給願書

某儀

何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒ候ニ付何年何月何日退官御許可ノ上恩給下賜ノ處該傷痍漸次重症ニ變シ(何々)候ニ付

增加額(下賜)(變更)相成候様御詮議ヲ被達度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

何族
元何官

年月日

氏名印

地方長官宛

戸長

氏名印

郡(區)長

氏名印

○第二款 文官傷痍疾病等差例

明治十八年三月
第十六號達

官吏恩給令附則第五條傷痍疾病等差例左ノ通相定候條右ニ據リ取調候儀ト可心得此旨相達候事

文官傷痍疾病等差例

公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附則第五條ニ掲ケル各項ニ該當スル者ニ等差ヲ付スルコト概テ左ノ如シ
第一條 偏眼又盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ癢スル

者ハ第四項トス

第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス

第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ癢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼暗味シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス

第五條 咀嚼言語ノ兩機ヲ併セ癢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

第六條 咀嚼ノ用ヲ癢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第五項其輕キ者ハ第六項トス

第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス

第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項若クハ第五項トス

第九條 神経痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十條 言語ノ機能ヲ癢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケテレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十一條 胃腸膀胱等ニ癢管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第十二條 膀胱爾尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十三條 陰莖或ハ睪丸ヲ全失スル者ハ第三項トス

第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏睪丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス

第一類 文官傷痍疾病等差例

- 第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨クル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全廢スル者ハ第一項トス
- 第十七條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六項トス
- 第十九條 一手ニ於テ四肢以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ廢スル者ハ第五項トス
- 第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス
- 第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス

- 第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
 - 第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
 - 第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス
 - 第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス
 - 第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス
 - 第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨アル者ハ第六項トス
- 第三款 陸軍恩給令 明治十七年六月第十號達 官省院廳府縣
- 明治十六年(九月)第三十七號達陸軍恩給令中左ノ通更正候條此旨相達候事
- 第十六條中(尙ホ檢閱監軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ移ス)ヲ(所管長官ヨリ之ヲ陸軍卿ニ呈ス)ニ更ム
- 第四十三條中(檢閱監軍部長ヲ經テ)ノ九字ヲ刪ル
- ▲明治十八年一月第四號(官省院廳府縣へ)達
- 明治十六年(九月)第三十七號達陸軍恩給令中左ノ通追加候條此旨相達候事
- 第十條一項中 (疾病)ノ上ニ(傷痍ヲ受ケ若クハ)ノ八字ヲ加フ

同 條三項中 (傷瘕)ノ下ニ(若クハ疾病)ノ五字ヲ加フ
第十一條中 (疾病)ノ上ニ(傷瘕若クハ)ノ五字ヲ加フ

○第四款 海軍恩給令 明治十七年九月 官省院廳府縣
第七十六號達

明治十六年(九月)第三十八號達海軍恩給令中左ノ通改正候條此旨相達候事
第三條中(掌砲上長水兵上長)ヲ(兵曹上長)ニ(掌砲長水兵長)ヲ(兵曹長)ニ改ム第三十
二條中(四上長四長)ヲ(三上長三長)ニ改ム

▲明治十八年一月第五號(官省院廳府縣)通

明治十六年(九月)第三十八號達海軍恩給令中左ノ通追加及改正候條此旨相達候事

第十條一項中 (疾病)ノ上ニ(傷瘕ヲ受ケ若クハ)ノ八字ヲ加フ

同 條二項中 (傷瘕)ノ下ニ(若クハ疾病)ノ五字ヲ加フ

第十一條中 (疾病)ノ上ニ(傷瘕若クハ)ノ五字ヲ加フ

第四十九條二項中 (除隊)ヲ(免役)ト(免除)ヲ(退職退役)ト改ム

乙號表面 (退役)ノ上ニ(退職及)ノ三字ヲ加フ

○第五款 武官傷瘕疾病等差例 明治十七年七月海軍省丙
第一百十九號(海軍一般)達

海軍恩給令中傷瘕疾病等差例並傷瘕區分左ノ通相定候條此旨相達候事

傷瘕疾病等差例

戰鬪及ヒ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷瘕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ恩給令第二十條ニ該當スル者ニ等差ヲ附スルノ概テ左ノ如シ

(參看) 明治十六年九月第三十八號達海軍恩給令抄出

第二十條 戰鬪及ヒ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷瘕ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩

給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失

フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

一 眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者

二 前項ニ等シキ傷瘕ヲ受ケシ者

三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者

四 前項ニ等シキ傷瘕ヲ受ケシ者

五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者

六 前項ニ等シキ傷瘕ヲ受ケシ者

第一條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併ヒ瘕スル

者ハ第四項トス

第二條 兩耳ヲ聾スルハ第四項トス

第一類 武官傷瘕疾病等差例

- 第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
- 第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼暗昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス
- 第五條 咀嚼言語ノ兩機ヲ併セ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
- 第六條 咀嚼ノ用ヲ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障碍アル者ハ第五項其輕キ者ハ第六項トス
- 第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス
- 第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項乃至第五項トス
- 第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十條 言語ノ機能ヲ癱スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十一條 胃腸膀胱等ニ癱管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
- 第十二條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十三條 陰莖或ハ辜丸ヲ全失スル者ハ第三項トス
- 第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏辜丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス
- 第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨ケル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全癱スル者ハ第一項トス

- 第十七條 一上肢ヲ失スル者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ癱スルモ全肢ノ用ヲ癱スルニ至ラサル者ハ第六項トス
- 第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒著若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ癱スル者ハ第五項トス
- 第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス
- 第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
- 第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ合セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス

第一類 武官傷痍疾病等差例

第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕量ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項ト

ス
第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス

第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス

第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス

第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

恩給令第四十九條第一項第三項傷疾ノ區分

第一款 拇指ヲ失スル者

第二款 上ニ等シキ傷疾ヲ受ル者

第三款 示指ヲ失スル者第四款上ニ等シキ傷疾ヲ受ル者

第五款 拇指示指ヲ除クノ他一指ヲ失スル者或ハ之ニ等シキ傷疾ヲ受ル者

以上ノ五款共ニ輕重ヲ酌量シテ重キ者ニハ甲額ヲ給シ輕キ者ニハ乙額ヲ給ス假令ハ第一
款傷疾ノ重キ者ニハ十年分輕キ者ニハ九年分第二款傷疾ノ重キ者ニハ八年分輕キ者
ニハ七年分ノ金額ヲ給スルカ如シ以下倣之

恩給令第四十九條第三項營業ヲ妨ケル者及ヒ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル
者傷疾疾病ノ區分

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ或ハ之ニ等シキ傷疾疾病ヲ受ル者

第二款 一肢ノ用ヲ失シ或ハ之ニ等シキ傷疾疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ヘス其營業ヲ
妨ケルニ至ル者

以上二款共ニ輕重ヲ酌量シ第一款ヲ分テ甲乙ノ二トシ甲ニハ五年分乙ニハ四年分ノ金
額ヲ給シ又第二款ヲ分テ甲乙丙ノ三トシ甲ニハ三年分乙ニハ二年分丙ニハ一年分ノ金
額ヲ給スルモノトス

○第六款 下士卒家族扶助金給與法

明治十七年九月海軍省
乙第十五號(府縣へ)達

海軍下士卒家族扶助金給與法左ノ通改定候條此旨相達候事

一海軍兵員ニ編入及ヒ退職退役或ハ轉免死亡等ノ節一個年未滿ノ端月アル時ハ其月數ニ
應シ月割ヲ以テ給與スヘシ

二海軍刑法第百十九條第百二十條第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯シタ
ル者其不在中ハ停止ス而シテ其給與法ハ仍ホ前項ニ準ス

三獨身ノ附籍者ハ給與スヘキ限ニ在ラス
四(明治十八年二月同省乙第三號達改正)毎年給與ノ金額ハ前半年後半年ノ二期ニ分テ前
半年分ハ其年八月ニ後半年分ハ翌年二月ニ會計局ヨリ支出シ該家族居住ノ地方廳ヲ經
テ下附スヘシ

五(明治十八年二月同省乙第三號追加)地方廳ニ於テ金額下附ノ際家族失踪等ノ事故ニ

依リ六ヶ月以上受領者ナキ時ハ其受領者ナキ間ノ金額ハ之ヲ給セシ

○第十九章 公債

○第一款 公債證書取扱順序

明治十四年五月大藏省
乙第七號(府縣へ)達

諸公債證書轉出入表離形並ニ(利賦)札還納方手續及ヒ當簽之節差出ス合計表書式等左ノ
通改正候條明治十四年四月一日ヨリ右ニ照準シ取計可申此旨相達候事

諸公債證書取扱順序

第一條

諸公債証書管外へ轉出及ヒ管外ヨリ轉入ノ節ハ別紙第一號離形ニ照準シ出入兩様ニ取調
差出スヘク尤甲縣ヨリ轉出ノ證書乙縣へ轉入翌月ニ涉ル片ハ甲縣ノ送達書ニ記載セル月
日ニ基キ該月ノ追加轉入トシテ整理シ(假令數月ヲ經過ストモ)各月別冊ニ取調ヘキ事
但明治十三年十二月以前甲縣轉出ニテ十四年一月以降乙縣へ轉入ノ分モ本文ノ通取計
フヘキ事

第二條

盜難紛失等ニテ代リ證書ヲ交付スト雖モ枚數金員ニ差違無之ニ付以來ハ轉出入表ニ掲載
スルニ不及尤増減越高等ハ從前ノ通差出スヘキ事

(參看)

明治十五年五月同省第十一號達ヲ以テ第三條ヲ修正シ第四條ヲ増補シ從前ノ
第四五六條ヲ第五六七條ト改正ス故ニ以下ノ各條ハ此達ニ據リ夫々修正ス)

第三條

利賦金交付濟ノ小札ハ別紙第二號離形ノ通仕譯表ヲ添へ相當渡月ノ翌月二十日迄ニ調濟
ノ分ヨリ逐次還納スヘシ尤裁判中其他種々ノ事故アリテ相當渡月内ニ交付シ難キモノハ
更ニ四ヶ月ヲ猶豫シ都合五ヶ月間ニ交付シ其交付濟ノ分ハ每一ヶ月取續翌月五日ヲ限リ
前文同様取扱フヘシ右五ヶ月ヲ經尙ホ交付ニ至ラサル分ハ該利賦金一旦國債局へ還納ス
ヘシ

第四條

切取リタル利賦札盜難遺失紛失(所在不分明ナルモノハ紛失ニ準ス)ニ係リ搜索期限七ヶ
月ヲ經過シテ交付スヘキ分ニ限リ還納ニ及ハス(當初紛失ト届ケシ後チ盜難ナルヲ發覺
ニ及ヒ裁判ニ係リタルモノハ第三條ノ部分ニ移シ五ヶ月ヲ過レハ還納スヘシ)次條追算
勘定帳ノ未決算ト爲シ其仕譯書ヲ添付シテ國債局へ送致スヘシ

但證書ノ盜難遺失紛失ニ罹リタルハ新舊公債證書發行條例第九條第四節ニ據リ七ヶ月
ヲ過キ新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ拂渡スモノナルニ付前三條ニ倣ヒ五ヶ月ヲ過レ
ハ一旦還納スヘシ

第五條

第一節 公債證書抵當價格

依リ六月以上受領者ナリ時、其受領者ナリ間ノ金額ハ之ヲ給セズ

第十九章 公債

第一款 公債證書取扱順序

明治十四年五月大藏省
乙第七號(府縣)ニ達

諸公債證書轉出入表離形並ニ(利賦)札還納方手續及ヒ當簽之節差出メ合計表書式等左ノ
通政正候條明治十四年四月一日ヨリ右ニ照準シ取計可申此旨相達候事

諸公債證書取扱順序

第一條

諸公債證書管外へ轉出及ヒ管外ヨリ轉入ノ節、別紙第一號離形ニ照準シ出入兩様ニ取調
差出スヘシ尤甲縣ヨリ轉出ノ證書乙縣へ轉入翌月ニ抄ル片ハ甲縣ノ送達書ニ記載セル月
日ニ基キ該月ノ追加轉入トシテ整理シ(假令數月ヲ經過ストモ)各月別冊ニ取調ヘキ事
但明治十三年十二月以前甲縣轉出ニテ十四年一月以降乙縣へ轉入ノ分モ本文ノ通取計
ヲハキ事

第二條

盜難紛失等ニテ代リ證書ヲ交付スト雖モ枚數金員ニ差違無之ニ付以來ハ轉出入表ニ掲載
スルニ不及尤増減越高表ハ從前ノ通差出スル事

(參看) 明治十五年五月同省第十一號達ヲ以テ第三條ヲ修正シ第四條ヲ增補シ從前ノ
第四五六條ヲ第五六七條ト改正ス故ニ以下ノ各條ハ此達ニ據リ夫々修正ス)

第三條

利賦金交付濟ノ小札ハ別紙第二號離形ノ通任譯表ヲ添へ相當渡月ノ翌月二十日迄ニ調濟
ノ分ヨリ逐次還納スヘシ尤裁判中其他種々ノ事故アリテ相當渡月内ニ交付シ難キモノハ
更ニ四ヶ月ヲ猶豫シ都合五ヶ月間ニ交付シ其交付濟ノ分ハ每一ヶ月取續翌月五日ヲ限リ
前文同様取扱フヘシ右五ヶ月ヲ經尙ホ交付ニ至ラサル分ハ該利賦金一旦國債局へ還納ス
ヘシ

第四條

切取リタル利賦札盜難遺失紛失(所在不分明ナルモノハ紛失ニ準ス)ニ係リ搜索期限七ヶ
月ヲ經過シテ交付スヘキ分ニ限リ還納ニ及ハヌ(當初紛失ト居テ後ニ盜難ナルヲ發覺
ニ及ヒ裁判ニ係リタルモノハ第三條ノ部分ニ移シ五ヶ月ヲ過シハ還納スヘシ) 次條追算
勘定帳ノ未決算ト爲シ其任譯書ヲ添付シテ國債局へ送致スヘシ

但證書ノ盜難遺失紛失ニ罹リタルハ新舊公債證書發行條例第九條第四節ニ據リ七ヶ月
ヲ過キ新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ拂渡スモノナルニ付前三條ニ倣ヒ五ヶ月ヲ過シ
ハ一日還納スヘシ

第五條

第一節 公債證書抵當價格

前條ノ如ク利金賦金トモ交付済ノ上ハ別紙第三號雛形ノ通勘定帳ヲ調製シ相當渡月ノ翌月二十五日ヲ限リ國債局ヘ送致スヘシ尤モ事故アリテ交付方遷延セシ分ハ未決算ト爲シ置キ追テ實際之ヲ交付シタル片ハ追算勘定帳ヲ調製シ其翌月十日ヲ限リ國債局ヘ送致スヘキ事

第六條

事故アリ利賦金交付シ難キヲ以テ一旦國債局ヘ還納決算ヲ了シタル後事故相解テ交付ノ順序ニ至リタル片ハ更ニ其事由ヲ具シ同局ヘ該金ヲ請求スヘシ尤勘定帳決算等ノ手續ハ前條ニ準スヘキ事

第七條

諸公債證書當簽ノ節差出スヘキ合計表ハ以來別紙第四號雛形ニ準シ調製可致尤債却濟ノ證書ヲ送達スル片ハ(利賦)札還納仕譯表(第二號雛形ヲ云)ニ準シ種類枚數金員ノ記載シテ差出スヘシ且元利金任拂濟ノ上ハ(利賦)札金受拂勘定帳(第三號雛形ヲ云)ニ準シ勘定帳ヲ調製シテ差出ヘク其差出期限等ハ第三四條ノ通りタルヘキ事
但利子ノ計算ハ證書每一枚ノ利子ヲ月割ニナシ端數アレハ四捨五入厘ニ止ムヘキ事
(勘定帳其他書式雛形畧ス)

○第二款 公債證書抵當價格

明治十六年八月大藏省
無號(國立銀行)達

發行紙幣抵當諸公債證書抵當價格自今左ノ通改定候條從前上納ノ額ニ對シ減少ノ分ハ十月三十一日限リ下戻方可申出尤從前ノ儲蓄債クモ不苦候ニ付右期限マテニ其旨可届出此旨相達候事

抵當公債證書改定價格

- 一割利付金祿公債證書 百圓
- 七分利付金祿公債證書 八拾貳圓
- 六分利付金祿公債證書 七拾四圓
- 五分利付金祿公債證書 六拾六圓
- 配當祿公債證書 九拾圓
- 起業公債證書 七拾七圓
- 秩祿公債證書 百圓
- 金札引換公債證書 百圓
- 新公債證書 六拾三圓
- 以上

△十八年六月大藏省第三十一號(府縣)達
日本銀行株券ノ義ハ官金預金ニ對シ徵收可致抵當ノ内ヘ預置モ不苦候價格之儀ハ株金現拂込高同額ヲ以テ計算致スヘシ

右相達候事

○第二十章 印紙

○第一款 證券印稅檢査規程

明治十八年四月大藏省第十七號(府縣へ)達

客年當省第六十號達證券印稅檢査規程第十三項取消候右相達候事

(參看)明治十七年同省第六十號達中

第十三項 檢査濟證書帳簿ノ種類員數及ヒ犯則ニ係ル證書帳簿ノ員數ハ一回分取廻メ左ノ報告書式ニ倣ヒ收稅長ヨリ主稅局ニ報告スヘシ

但臨時檢査ノ節ハ檢査ノ實況ヲ報告スヘシ(別紙畧ス)

○第二款 印紙類賣捌規程取扱手續

明治十八年四月大藏省第十九號(府縣へ)達

明治十七年(五月)當省第二十九號達印紙類賣捌規程取扱手續左ノ通改正ス右相達候事

印紙類賣捌規程取扱手續

第二項 印紙類ハ需用者及現在高ノ景況ヲ參酌シ凡六ヶ月分見込相立テ收稅長ノ名印ヲ以テ主稅官長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ

第二項 印紙類ノ取扱ハ主任官二名以上ノ立會ヲ要スルモノトス

第三項 印紙類到達ノ節ハ日數五日以内到達ノ月日ヲ記載セシ領收證書ヲ主稅局ニ送附スヘシ

第四項 印紙類賣捌看板ハ第一號離形ニ據リ調製シ之ヲ下附スヘシ二種類以上賣捌クモ

ノハ各種類ヲ壹枚ニ併記スルモ妨ケナシ

第五項 印紙類賣捌人改姓各轉居ノ節ハ其旨郡區役所ニ申出サセ看板ニ記載アル住所姓名ノ書換ヲ請ハシムヘシ

但燒失等ノ節ハ其事由ヲ詳記シ更ニ看板ノ下渡ヲ請ハシムヘシ

第六項 印紙類賣捌人休業ノ節ハ規程第十條ニ準據シ賣捌看板ヲ返納セシムヘシ

第七項 規程第二條ニ據リ印紙類賣捌人員ヲ定ムルニハ從前賣捌方ノ模樣其他ノ景況ヲ參酌シ需用者ニ差支ナキ樣之ヲ定ムヘシ

第八項 他管轄ヨリ轉籍シ又ハ寄留シタル者印紙類ノ賣捌ヲ請願スルトキハ規程第十三條ニ據リ禁止又ハ停止セラレタルトナキヤ否ヲ詳査スヘシ

第九項 印紙類賣捌人員ハ一年ヲ二期ニ分テ第二號離形ニ倣ヒ六月十二月末日ノ現在人員ヲ取調ヘ(一七)月二十日限リ地方廳差立テ主稅局ニ送付スヘシ

第十項 規程第八條但書ニ據リ延納ヲ許可スルル其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ明治十三年當省乙第一號達ニ據リテ之ヲ定ムヘシ

第一類 印紙類賣捌規程取扱手續

- 第十一項 印紙類代金延納ヲ許可シタル片ハ第三號雛形ニ倣ヒ上納受書ヲ差出サシムヘシ
- 第十二項 印紙類代金ノ延納ヲ許可シタル片其期限該年度内ニ係ルモノハ印紙ヲ下渡シタル時期ノ稅表ヘ編入シ其期限翌年度ニ涉ルモノハ該年度ノ稅表ヘ編入スヘシ
- 第十三項 印紙類ヲ運送會社ノ類ニ運搬セシメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會檢査ヲ遂ク若シ損傷汚染或ハ謾糊粘着等ニテ全ク使用シ得ヘカラサルモノヲ發見セハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數調書ヲ添附シ處分方ヲ稟議スヘシ
- 但天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社外二名以上ノ證明ヲナサシムヘシ
- 第十四項 印紙類萬一封中ノ員數ニ過不足ヲ生スルモノアル片ハ其封紙帶紙ニ立會官吏ノ姓名書ヲ添附シ處分方ヲ稟議スヘシ
- 第十五項 印紙類ノ受拂ハ適宜帳簿ヲ設ケ種類ヲ別テ記載シ置クヘシ
- 第十六項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタルトキハ即日受拂及ヒ殘在高ヲ記載シ帳簿ト現品トヲ對照シ主任官之ニ檢印スヘシ
- 第十七項 前項ノ場合ニ於テ主任官交代スル片ハ帳簿ト現品在高トヲ對照シ檢印證明ヲ受渡ヲナスヘシ
- 第十八項 印紙類賣捌手数料ハ即納延納トモ印紙代金上納ノ節之ヲ下渡スヘシ
- 第十九項 規程第十條ニ據リ返納セシ印紙中代金既納ノモノアルトキハ左ノ區別ニ從ヒ

其代金ヲ返附スヘシ

- 但返納セシ印紙代金ニ對スル手数料ハ其節之ヲ返納セシムヘシ
- 一代金納附ト印紙返納ト其時日同年度ニ係ルモノハ該年度收入金ノ内ヨリ返付シ稅表皆濟帳トモ其員數ヲ除去スヘシ
- 一代金納附ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル片ハ印紙ノ種類(烟草印紙ハ量目賣藥印紙ハ角長ヲ區別ス)枚數及代金納入年度區分等明細仕譯書ヲ添附シ別途還附ヲ收稅長ヨリ主稅官長ニ稟申シ稅表皆濟帳トモ其員數ヲ除却スルニ及ハス尤返納ノ印紙ハ受拂計算表ヘ一畫ヲ設テ元請ニ組入スヘシ
- 第二十項 規程第十二條ノ損傷又ハ汚染印紙交換ノ際上納セシ代金百分ノ五ノ金額及ヒ第十九項但書ニ據リ返納セル手数料ノ内最前下渡セシ時ト年度ヲ異ニスルモノハ雜收入ニ編入納附スヘシ
- 第二十一項 印紙類ハ肉色變更又ハ謾糊粘着ノ患アルモノニ付濕氣豫防等貯藏方ニ注意スヘシ
- 第二十二項 損傷又ハ汚染印紙ノ交換ヲ許可シタルトキハ府縣廳現在ノ印紙ヲ以テ交換シ其交換シタル印紙ハ受拂計算表拂ノ部ヘ一畫ヲ設ケ記載シ損傷汚染ニヨリ返納ノ印紙ハ每半年分取纏メ事由ヲ記シ主稅局ニ送附スヘシ
- 第二十三項 府縣廳ニ於テハ隨時各郡區役所ニ主任官ヲ派遣シ受拂ノ實況及ヒ現在高等

ヲ精査セシムヘシ
 第二十四項 印紙類賣捌人ハ各種類ヲ區別シタル帳簿ヲ製シ其賣捌高ヲ明記シ置カシム
 但烟草印紙ハ別ニ成規アルヲ以テ本項ノ限ニアラス
 第二號雛形

長二尺九寸

面表

第何號

何々印紙賣捌所

何府何國何郡何町何番地

何縣何村何番地

何

某

第二號雛形 用紙美濃

明治何年何月印紙類賣捌人員表

郡類分	規程第一條ノ受恩典者	同第三條ノ受恩典者	計	非恩典者	合計	前期ニ比較増減
	規程第一條ノ受恩典者	同第三條ノ受恩典者	計	非恩典者	合計	
名						「朱字」

何府(縣)

「朱字」

右之通候也

年月日

主稅官長宛

收稅官長名印

第三號雛形

印紙代金上納方受書
 一印紙代金何圓

内譯 印紙ノ種類及枚數ヲ掲記スヘシ
 右印紙代金ノ義ハ來ル 月 日無相違上納可仕因之右代金ニ對シ別紙(左ノ)廉書ノ公
 債證書ヲ抵當トシテ差出申候若シ上納期日ニ不納候ト該公債證書御賣捌ノ上印紙
 代金御差引御徵收相成聊異議無之且印紙類ハ保護可致ハ勿論萬一水火盜難等有之候ト
 モ印紙代金ハ急度上納可致候此段御受申上候也
 但印紙類賣捌規程第十條及ヒ休業ノ場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ラス直チニ上納可

第一號 印紙類賣捌規程取扱手續

仕候也

年月日

國區町番地

賣捌人

某

印

他人記名ノ公債證書ヲ借受抵當ト
スル片ハ其記名者ノ連署ヲ要ス

府知事縣令宛

前書之通相違無之ニ付與印候也

年月日

戸長

某

印

他人記名ノ公債證書ヲ借受抵當トスル
片ハ其記名者所在地戸長ノ連署ヲ要ス

公債證書麻書

一何種類公債證書

此金高何圓

内譯

一何印何號何番何枚此金高何圓

何枚

右之通相違無之候也

國區町番地

賣捌人

某

印

他人記名ノ公債證書ヲ借受抵當ト
スル片ハ其記名者ノ連署ヲ要ス

○第廿一章 貨幣

○第一款 貨幣條例

明治八年六月
第百八號布告

新貨幣條例之儀明治五年(五月)頒布ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則例目ノ刪補等有之候
ニ付本年(四月)第六十二號布告但書ノ通今般改刻更ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事
但明治六年(八月)第三百八號布告銅貨圖面同七年(三月)第三十四號布告壹圓銀圖面本
年(二月)第三十五號布告貿易銀圖面共表裏ノ唱へ反對イタン居候ニ付今般改正候事
貨幣條例

皇國往古より他邦貿易の事少く貨幣之制度いまた精密ならず其品類各種として其價位
も亦一定せず今其概畧を舉むには慶長金あり享保金あり文字金あり大小判金あり一分金
あり二分金あり三朱金あり一分銀あり二朱銀あり當百錢あり大小數種の銅錢あり其他一
時通用の貨幣は枚舉に遑わらず甚しきは一國二郡限の貨幣ありて今に至るまで僅に其一

第一類 貨幣條例

部も通用し他方に流通せざるものありて其種類區々にして方圓大小其價を異にし況合
 雜駁其質を同らせず抑貨幣の眼目たる量目と性合とに至りては殆んど辨知すべからず新
 舊互に雜用し品位自ら低下し其間或は贗造の幣ありて竟に今日の甚しきに馴致せり偶々
 良性の貨幣は徒らに富家庫中の寶物となり或は外國へ輸出せしむ亦少なからず遂に諸品
 換用の能力を失ひ日用便利の道を塞ぎ流通の公益殆んど絶えんとするに至る實にこれ天
 下一般の窮厄にして萬民の痛心更に之より大なるものなし今其緣由を尋繹するに全く一
 定の價位なくして善惡良否を雜用するの舊幣より生ずる事なり方今貿易の道彌盛むかる
 時に當りて舊幣を改め精良の新製を設けずんば何をもて流通の道を開き富國の基を立ん
 や是政府の責任にして然も燃眉の急務たり故に去る明治元戊辰の年より早く其功を起し
 莫大の經費を厭はず大坂に在りて新に造幣寮を建置し壯大なる器械を備へ廣く宇内各國
 貨幣の眞理を察知し金銀は性質量目より割合の差等鑄造の方法に至るまで詳かに普通
 制を比較商量し以て精密の通用貨幣を鑄造し在來の貨幣に加へて一般の流通を資けんと
 するの都合を謀り既に開寮の儀典を完了せりされども前に言へることく區々各種の貨幣
 多ければ現場諸品の價直を錯亂し萬民の迷惑なるとなれば漸々新舊を交換して在來の通
 寶は悉く改鑄し都て品類を一定せしめんとすの御趣意あり且貨幣は天下萬民の通寶たる主
 旨に基き地金を持參して引換を望むものへは速かに改鑄して通用貨幣を渡すべしされは
 今人々古來の舊習を襲ひ重代に寶物とせる古金銀の類も數年ならずして全く地金一鑄の

ものとなるへければ早々交換流通して貨幣の眞理を失はざるを注意すへき事肝要なり斯
 く新たに造幣寮を設けしも偏ら萬民に保護を任するの職分を盡すの外他あるにあらざれ
 は萬民亦能く此理を會得し各々の務を勉勵して天賦の職をつくすべし仍て今爰に其次第
 を揭示し併せて新貨幣の眞形を模し其量目品位表を添へ且地金引換の規則等詳細に附録
 し普く國內に頒布論告するもの也

明治四年辛未五月

太政官

貨幣條例

- 一 貨幣の稱呼は圓を以て起票とし其多寡を論せず都て圓の原稱を數字を加へて之を計算すべし但し一圓以下は、壹圓の、壹錢の、を以て少數の計算を用ふべし
- 一 算則は都て十進一位の法を用ひ一厘十を合して壹錢とし壹錢十を併せて十錢といひ十錢十即ち百錢を以て壹圓とす壹圓より上十百千萬に至るといふとも皆な十數を合して一位を進む其他半錢五錢五拾錢五圓の如きは十數を半割一貳拾錢貳圓貳拾圓の如きも亦一十の數を倍するまでにして固より軌範の外に出ず
- 一 厘より以下は別な鑄造の貨幣なまど雖若し計算を要すれば毛絲忽微織を以て微少の數を算すべし又萬より以上は十萬百萬千萬に至り千萬十即ち萬々を以て一億とし大數の計算を爲すべし
- 一 製貨中金銀純分は割合及其量目は都て眞形模寫の下に表出するといへども鑄和鑄造の

際僅少の差あるを免かれず故に今各種の貨幣に就て其不得已して生ずる量目並品位の公差を表出して以て毛絲の微細を辨析す

公		全貨幣	重量	純金	分ノ内混合	位千純	金	大數差	量目枚
品	量								
一枚ノ	純ニ付分	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ
差一枚ノ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ
三、二、四〇	二、分ノ一	三、三、三、分ノ一	五、一、四、四、二	三、〇、	四、六、二、九、七	一、百、分	貳拾圓	四、六、六、三、一、一〇	千一
三、二、四〇	二、分ノ一	一、六、三、分ノ二	二、五、七、二〇	一、五、	二、三、一、四、八	一、百、分	拾圓	二、三、三、三、一、五、五	千一
三、二、四〇	二、分ノ一	一、三、三、分ノ一	一、二、八、六、五	七、五、	一、一、五、七、四	一、百、分	圓	二、四、	千一
一、六、二、〇	一、四、分ノ一	三、三、分ノ一	四、四、二、五、七	三、	二、九、二、三、一	一、百、分	圓	二、三、	千一
一、六、二、〇	一、四、分ノ一	一、三、三、分ノ二	四、二、五、七、二	一、五、	二、九、二、三、一	一、百、分	圓	二、三、	千一

公		全貨幣	重量	純銀	分ノ内混合	位千純	銀	大數差	量目枚
品	量								
一枚ノ	純ニ付分	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ
差一枚ノ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ	トロイ
三、二、四〇	二、分ノ一	三、三、三、分ノ一	五、一、四、四、二	三、〇、	四、六、二、九、七	一、百、分	貳拾圓	四、六、六、三、一、一〇	千一
三、二、四〇	二、分ノ一	一、六、三、分ノ二	二、五、七、二〇	一、五、	二、三、一、四、八	一、百、分	拾圓	二、三、三、三、一、五、五	千一
三、二、四〇	二、分ノ一	一、三、三、分ノ一	一、二、八、六、五	七、五、	一、一、五、七、四	一、百、分	圓	二、四、	千一
一、六、二、〇	一、四、分ノ一	三、三、分ノ一	四、四、二、五、七	三、	二、九、二、三、一	一、百、分	圓	二、三、	千一
一、六、二、〇	一、四、分ノ一	一、三、三、分ノ二	四、二、五、七、二	一、五、	二、九、二、三、一	一、百、分	圓	二、三、	千一

貨一類 貨幣條例 造幣規則

一「ゲノイン」ハ 凡一厘七毛二絲五忽 但「一ゲノイン」ハ「六十四ミリグラム」ハ
一「オンス」ハ 凡八匁二分八厘 但「一オンス」ハ「四百八十ゲノイン」

(貨幣容圖并品位量目表略ス)

○第二款 造幣規則

明治十六年五月
第十五號布達

造幣規則別冊ノ通相定本年八月十六日ヨリ施行シ明治十一年(七月)大藏省甲第二十四號
同十二年(十月)同省甲第百壹號布達ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス
但本年ハ本文甲第百一號布達第三條日限中ト雖モ地金ヲ受取ル可シ
右布達候事

造幣規則

第一條 大阪造幣本局若クハ東京該出張所ニ輸入スル内外人民ノ金銀地金ハ左記ノ日ヲ
除キ毎日之ヲ受取ル可シ但時限ハ本局ニ於テハ午前九時ヨリ午後一時迄出張所ニ於テ
ハ同九時ヨリ正午十二時迄トス
毎日曜日 大祭日 臨時休暇 一月一日ヨリ 三月三日マテ
一月五日 九月一日ヨリ 十二月二十九日ヨリ
十月三十一日マテ 十二月三十一日マテ
第二條 非常ノ事アリテ休業スルトキハ速ニ其旨ヲ布達シ地金受取方ヲ止ム可シ

第三條 輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサル可シ但出張所ニ於テハ輸入

高工程ニ超過スルトキハ受取方ヲ拒ムコトアル可シ

金地金 三拾ヲノス「トロイ」(凡二百四拾) 八匁四分

銀地金 三百ヲノス「トロイ」(凡二百四拾) 八拾四匁

不純粹金銀地金
舊金銀貨幣
金銀混合地金 價格貳百圓

第四條 品位詳明ナル外國金銀貨幣ハ其品位ニ據テ受取ル可シ若シ試験鑄解ヲ要スルト
キハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ但出張所ニ於テハ其試験鑄解ヲ要ス
ル者ノ外ハ之ヲ受取ラサル可シ

第五條 品位詳明ナル金銀地金ハ照査試験ヲ爲シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ若シ試験
鑄解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ

第六條 品位詳明ナラサル金銀地金或ハ内外國金銀貨幣ハ試験鑄解ノ上試験分析シ其品
位ニ據テ之ヲ受取ル可シ

第七條 金銀地金若クハ内外國金銀貨幣ノ試験鑄解ヲ要スル者其鑄解減ハ輸入人ノ負擔
タル可シ

第八條 凡テ輸入ノ金銀地金ハ輸入人若クハ其代理者ヲ立會シメテ秤量シ本局ニ於テハ

第一類 造幣規則

地金課長出張所ニ於テハ所長ノ假受取證ヲ交付シ試験分析済ノ上勘定書ニ試験分析表ヲ添ヘ之ヲ輸入人ニ送付ス可シ

第九條 輸入人地金勘定書ノ旨ヲ承諾シ之ニ捺印シテ回付スルトキハ輸入地金ノ價額ニ對スル貨幣拂渡證書ヲ輸入人ニ交付シテ假受取證ト交換ス可シ但勘定書送付ノ日ヨリ三日以内ニ勘定書ヲ回付セサル片ハ承諾シタルモノト爲ス可シ

第十條 代リ貨幣ハ地金ヲ本局ニ輸入シタルトキハ日本銀行本店又ハ神戸支店（若クハ代理店）出張所ニ輸入シタルトキハ日本銀行本店又ハ横濱支店（若クハ代理店）ニ於テ左ノ期日ニ至リ之ヲ拂渡ス可シ但期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ日本銀行本店又ハ其大阪支店ニ於テ一日萬分壹ノ割引ヲ以テ前渡ヲ爲ス可シ

試験済ノ日ヨリ

造幣適當金銀地金

本局ニ輸入シ タモルモノ 出張所ニ輸入 シタルモノ	十日目
同	二十五日目
同	三十日目
同	三十五日目
同	四十日目
同	四十五日目

精製分析ヲ要スル地金 壹萬圓未満

同 三萬圓未満

同

七萬圓未満

同

二十五日目

同

七萬圓以上

同

三十日目
四十五日目

但右期日休暇ニ當ルトキハ翌日拂渡ス可シ

第十一條 鑄造料ハ金貨幣ハ千分ノ七銀貨幣壹圓ハ千分ノ拾ヲ收入ス可シ若シ試験鑄解

ヲ要スル地金ナレハ更ニ千分ノ壹ヲ收入ス可シ

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析

料ヲ收入ス可シ但其地金千分中金銀七百五拾分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セス

不純粹金地金

千分中金九百分以上 純金拾ヲンス

同 金八百五拾分以上 同「トロイ」ニ付

同 金八百分以上 同

同 金七百五十分以上 同

不純粹銀地金

千分中銀九百分以上 純銀拾ヲンス

同 銀八百五十分以上 同「トロイ」ニ付

金貳拾六錢三厘
金貳拾九錢

同 銀八百分以上 同 金三拾壹錢七厘
 同 銀七百五十分以上 同 金三拾四錢四厘
 金銀混合地金

千分中金銀 純金十ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓
 九百分以上 純銀十ヲンス「トロイ」ニ付 金貳拾六錢三厘
 同金銀八百 純金十ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓拾貳錢七厘
 五十分以上 純銀十ヲンス「トロイ」ニ付 金貳拾九錢
 同金銀八百 純金十ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓廿五錢四厘
 分以上 純銀十ヲンス「トロイ」ニ付 金三拾壹錢七厘
 同金銀七百 純金十ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓卅八錢壹厘
 五十分以上 純銀十ヲンス「トロイ」ニ付 金三拾四錢四厘

第十三條 出張所ニ地金又ハ内外國金銀貨幣ヲ輸入シテ貨幣鑄造ヲ請求スル者ハ運賃並ニ保險料トシテ成貨壹萬圓ニ付金六十五圓ヲ納ム可シ但大阪ニ於テ成貨拂渡ヲ乞フ者ハ其半額ヲ減ス

第十四條 輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サスシテ返却スルトキハ左ノ費用ヲ收入ス可シ

試驗鑄解料 五百ヲンス 「トロイ」未滿 金壹圓
 金地金

金銀混合地金 (千分中金分百) 五百ヲンス「トロイ」以上 金貳圓
 (分以上ノモノ) 千ヲンス「トロイ」未滿
 同 以上之ニ準ス

銀地金 金銀混合地金 (千分中金分百) 千ヲンス「トロイ」未滿 金壹圓
 (分未滿ノモノ) 千ヲンス「トロイ」以上 金貳圓
 同 二千ヲンス「トロイ」未滿
 以上之ニ準ス

試驗分析料 金壹圓
 金地金 壹塊ニ付 金貳圓
 金銀混合地金 壹塊ニ付 金壹圓
 銀地金 壹塊ニ付 金壹圓
 照査試驗料

試驗分析料ニ準ス
 第十五條 流通不便ノ貨幣ハ本局若クハ出張所ニ於テ鑑定シ左ノ量目以上ナレハ左ノ手
 數料ヲ收入シテ之ヲ受取リ其翌日代リ貨幣ヲ拂渡ス可シ
 金貨幣量目五ヲンス「トロイ」(凡四十一) 千分ノ三、半
 (又四分)

第一類 舊銅貨通用期限 紙幣交換 四百七

壹圓銀貨幣量目五十ヲノストロイ(凡四百)
補助銀銅貨幣 量目ニ制限ナシ

千分ノ五
無手数料

銅破目アリ又ハ音響惡キ貨幣ト雖モ全鉢ヲ失ハヌ量目減少セサル者ハ金銀共一枚ヲ以テ一枚ト交換シ手数料ハ受取ラサル可シ

第十六條 金銀地金及ヒ金銀混合地金ニ含有スル雜物ハ渾テ返却セサルヘシ

○第三款 舊銅貨通用期限

明治十七年十月
第二十六號布告

舊銅貨天保通寶來ル明治十九年十二月限通用ヲ禁止ス
右奉 勅旨布告候事

▲明治十七年十月第二十三號布達

舊銅貨天保通寶來ル明治十九年十二月限リ通用禁止相成候ニ付テハ新銅貨ニ交換ヲ要スル者ハ東京ハ出納局大阪ハ同局出張所其他ハ地方廳ヘ右期限内ニ申出ツヘシ期限後ハ交換ヲ爲サス

右布達候事

○第四款 紙幣交換

明治十八年六月
第十四號布告

政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却

スヘシ

但交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第廿二章 銃獵

○第一款 銃獵免狀渡方條例

明治十年二月內務省乙
第十一號(府縣)へ達

太政官第十一號布告鳥獸獵規則改正相成候ニ付明治八年當省乙第三十六號達銃獵鑑札渡方條例別冊ノ通改正候條右ニ照準可取計此旨相達候事

銃獵免狀渡方條例

第一條 鳥獸獵免狀ハ別紙雛形之通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ

第二條 免狀ハ兼テ凡積ヲ以テ東京府下ハ當省其他ハ地方管廳ヘ可相渡置ニ付管內限リ

總計取調毎年六月三十日迄ニ請取方申立ヘシ

第三條 免狀下渡ノ節ハ毎年其管廳於テ帳簿ヲ製シ置番號並住所姓名身分年齡共詳細登

記スヘシ

第四條 管廳於テ免狀ニ記スヘキ期限國郡姓名年齡住所共雛形ノ通記入押印ノ上下ヲ渡

スヘシ

第一類 銃獵免狀渡方條例

第五條 定規ヲ伸縮スル場所ニ於テ免許スル免狀ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一期トシ
新舊引替相渡スヘシ

第六條 銃獵滿期ノ分ハ免狀收却ノ上總テ該縣廳於テ斷裁スヘシ

第七條 凡積ヲ以テ相渡置候免狀殘餘有之節モ前條ニ同シ

第八條 鳥獸獵免狀渡濟ノ上ハ別紙雛形ノ通總計表ヲ製シ翌年七月限リ當省ヘ差出スヘシ

第九條 (明治十年六月同省乙第五十六號達改正)定期ヲ伸縮スル場所ハ實際取調其時々
届出ヘシ

第十條 銃獵犯則ノ者罰金上納方ハ明治八年司法省第四十號達ノ通相心得ヘシ

第十一條 禁獵制札ノ儀ハ別紙雛形ニ照シ製作可致最其大小ハ適宜ニ任スヘシ
但官設ハ府縣費民設ハ民費又ハ自費タルヘシ

第十二條 銃獵免狀ヲ毀失セシ者再應請取方申立候節ハ事實取札ノ上更ニ下テ渡方取計
規則ノ通手數料收入スヘシ

(朱) 勸農局 印

銃 番 號	遊 獵 第 何 號	本 籍	姓 名	年 齡	住 所	免 狀	狀 期 限
						番 號	
何府縣華土族平民			何		某		自明治何年何月幾日 至明治何年何月幾日

(朱印)

明治 年 月 日

(朱印)

銃獵免
狀之章

使府縣廳

印

裏面ハ規則記載有之事

第一類 銃獵免狀渡方條例

昨年十二月第三十壹號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局へ出願候様營業人へ達方可取計此旨相達候事
但營業免許證見本採テ其應ヨリ同局へ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證携帶セシムヘシ

○第二款 火藥類鐵道運送條規 明治十八年四月 工部省第十四號告示

明治五年(五月)第四百六十六號公布鐵道略則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規則紙ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス
右告示候事 (別紙條規ハ鐵道ノ部ニ出ツ)

○第廿四章 警察

○第一款 行政警察事務規程 明治十四年十月內務省乙第五十二號達

警視廳府縣 東京府ヲ除ク)

憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

憲兵本部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

- 一 人民ノ妨害ヲ防護スルコト
 - 二 法章ノ遵奉ヲ觀察スルコト
 - 三 健康ヲ看護スルコト
 - 四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スルコト
- 第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス
- 第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ際リ他ノ警察專務官吏其場ニ臨ミタル片ハ其處分ヲ專務官吏ニ讓ルヘシ

○第二款 憲兵條例 明治十六年十一月 第五十二號達

明治十四年(三月)第拾壹號達憲兵條例中左ノ通改正候條此旨相達候事

第一章

第一條 戰時ノ下(外寇)及ヒ非常(內亂)ヲ(若クハ事變)ニ改ム
第四條 并ニノ下(上等及ヒ地方裁判所檢事ノ指揮ヲ受ク)ヲ(各裁判所檢事ヨリ指示ヲ受クル時ハ直ニ其事ニ從フヘシ)ニ改ム

第一類 憲兵條例

第六條削除

第七條ヲ第六條ニ改メ巡查ヨリノ下(幫助)ヲ(助力)ニ改ム
第八條乃至第十條削除

第十一條ヲ第七條ニ改メ逮捕シノ下(テ本人所屬ノ官廳ニ送付スヘシ若シ之カ爲メニ他人ノ損害ニ罹リシ者アラハ併セテ之ヲ證告スヘシ)ヲ(若シ暴行者數人アリテ悉ク捕獲スルコト能ハサル時ハ其中ニテ造意者或ハ其威權アル者ヲ逮捕スヘシ)ニ改ム

第十二條削除

第十三條ヲ第八條ニ改ム

第十四條ヲ第九條ニ改メ其ノ下(幫助)ヲ(防救)ニ改ム

第十五條ヲ第十條ニ改ム

第十六條ヲ第十一條ニ改ム

第十七條ヲ第十二條ニ改ム

第十八條ヲ第十三條ニ改ム

第十九條ヲ第十四條ニ改ム

第二章(布置編制)ヲ(布置撰任)ニ改ム

第二十條ヲ第十五條ニ改メ設置シノ下ニ(二大隊ヲ以テ之ヲ編制シ)ノ十一字ヲ加フ

第二十一條ヲ第十六條ニ改メ設ノ下(タ)ヲ(ク)ニ改メ(二伍以上ノ分遣ヲ爲ス)ノ十字ヲ

削リ第三管區(小石川區)ヲ(南豐島郡)ニ改メ次ニ(東多摩郡)ヲ加エ第六管區北豐島郡ノ上(小石川區)ヲ加エ(南豐島郡東多摩郡)ヲ削ル

第二十二條削除

第二十三條ヲ第十七條ニ改メ(第二十四條ヨリ第二十九條)ヲ(第十八條ヨリ第二十三條)ニ改ム

第二十四條ヲ第十八條ニ改ム

第二十五條ヲ第十九條ニ改ム

第二十六條ヲ第二十條ニ改ム

第二十七條ヲ第二十一條ニ改ム

第二十八條ヲ第二十二條ニ改ム

第二十九條ヲ第二十三條ニ改ム

第三十條ヲ第二十四條ニ改メ憲兵隊長ハノ下(憲兵大(中)佐ノ内一名之ニ任シ)ノ十三字ヲ加フ

第三章

第三十一條ヲ第二十五條ニ改ム

第三十二條ヲ第二十六條ニ改ム

第三十三條ヲ第二十七條ニ改ム

第三十四條ヲ第二十八條ニ改メ各ノ下(分)ヲ(大)ニ改ム
 第三十五條ヲ第二十九條ニ改ム
 第三十六條第三十七條ヲ削除シ左ノ各條ヲ加フ
 第三十條 本部次長ハ憲兵少佐之ニ任シ長ヲ補佐シテ部事ヲ整理シ長事故アル時ハ其代理ヲ爲スコトヲ得
 第三十一條 次長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得
 第三十二條 本部副官ハ憲兵大尉之ニ任シ次長ニ亞テ部事ヲ整理シ兼テ武器掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス
 第三十三條 本部副官ハ本部長若クハ次長ノ命ヲ受ケ各管區并ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得
 第三十四條 本部下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ本部副官ノ命ヲ受ケ本部中ノ庶務ヲ掌ル
 第三十五條 大隊長ハ憲兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ司リ巡察ノ部署ヲ定メ其隊ノ事務ヲ總理シ會計ノ事務ヲ監視ス
 第三十六條 大隊長ハ時々所轄各管區並ニ各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得
 第三十七條 大隊長ハ各中隊長ノ報告ヲ受一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ隊長ニ申報スヘシ

但シ非常若クハ至急ヲ要スル事件ハ急報又ハ日報ヲ以テ申報スヘシ

第三十八條 大隊副官ハ憲兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ併セテ武器掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス
 第三十九條 大隊副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得
 第四十條 大隊下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌ル
 第三十八條ヲ第四十一條ニ改メ(分隊長ハ其分隊)ヲ(中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ其中隊)ニ改メ(巡察并ニ警察ノ部署ヲ定メ)ノ十二字ヲ削除ス
 第三十九條ヲ第四十二條ニ改メ(分隊長)ヲ(中隊長)ニ改ム
 第四十條ヲ第四十三條ニ改メ(分隊長)ヲ(中隊長)ニ改メ之ヲノ下ニ(大)ノ字ヲ加フ
 第四十一條ヲ第四十四條ニ改メ(分隊長)ヲ(中隊長)ニ改メ之ヲノ下ニ(大)ノ字ヲ加フ
 第四十二條ヲ第四十五條ニ改メ(中(少)尉ハ分隊長)ヲ(小隊長ハ憲兵中(少)尉ノ内之ニ任シ中隊長)ニ改ム
 第四十三條ヲ第四十六條ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ改ム
 第四十四條ヲ第四十七條ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ改メ(渾テ警察官ニ引渡スヘシ)ヲ(親戚故舊ニ引渡スヘシ若シ親戚故舊其地ニアラサル時ハ區役所若クハ戸長役場ニ引渡スヘシ)ニ改メ但シ書中(軍曹)ヲ(半隊長)ニ改ム

第四十五條ヲ第四十八條ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ(分隊長)ヲ(中隊長)ニ改ム
 第四十六條削除
 第四十七條ヲ第四十九條ニ改メ(曹長ハ分隊長)ヲ(小隊副長ハ憲兵曹長之ニ任シ中隊長)ニ改ム
 第四十八條ヲ第五十條ニ改メ(軍曹ハ中(少)尉)ヲ(半隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ小隊長)ニ受ケノ下(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニナリノ下(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ改ム
 第四十九條ヲ第五十一條ニ改メ(軍曹)ヲ(半隊長)ニ改メ巡察ノ下(及ヒ檢察)ノ四字ヲ削リ(一伍)ヲ(分隊)ニ(伍長)ヲ(分隊長)ニ改ム
 第五十條ヲ第五十二條ニ改メ(書記軍曹ハ下副官)ヲ(本部武器掛ハ憲兵曹長同書記ハ憲兵曹長軍曹ヲ以テ之ニ任シ大隊附武器掛ハ憲兵軍曹同書記ハ憲兵軍曹伍長ヲ以テ之ニ任シ各副長)ニ改ム
 第五十一條ヲ第五十三條ニ改メ(伍長ハ)ヲ(分隊長ハ憲兵伍長之ニ任シ)ニ改メ巡察ノ下(檢察)ノ二字ヲ削リ(一伍)ヲ(分隊)ニ改ム
 第五十二條ヲ第五十四條ニ改メ(書記伍長ハ曹長)ヲ(中隊附ノ書記モ亦憲兵伍長之ニ任シ小隊副長)ニ改ム
 第五十三條ヲ第五十五條ニ改ム
 第五十四條削除

東京憲兵定員表削除

▲明治十八年二月第七號達

明治十四年(三月)第十一號達憲兵條例中左ノ通改正候條此旨相達候事

第二章

第十五條 設置シノ下「二」ヲ「三」ニ改ム

○第三款 憲兵職務

明治十五年五月二十三號布告

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

○第四款 陸軍警察假規則

明治十四年九月 陸軍省布第二號布達

陸軍警察假規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

陸軍警察假規則

第一條 此規則ハ憲兵平時ニ於ケル陸軍警察ノ勤務ヲ示スモノニシテ行政及ヒ司法警察並ニ海軍ニ關スル警察ノ事務ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

第二條 陸軍警察ノ趣意タル軍紀風紀ヲ維持スルニ在ルヲ以テ憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行

第一類 陸軍警察假規則

爲ニ注目ヲ其非違ヲ警防スヘシ

第三條 現行犯罪人ハ直チニ之ヲ逮捕シ現行ニ非サル犯人ハ命令書ヲ以テ逮捕スヘシ

但懲罰ニ屬スヘキモノ及ヒ違式註違ノ犯人ハ之ヲ引致スルモノトス

第四條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第五條 左ノ場合ニ於テハ現行犯ニ準ス

- 一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時
- 二 兇器賊物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ其舉動ニヨリ犯人ト思料シタル時
- 三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ其戸主ヨリ處分ヲ請求シタル時

第六條 現行犯人ヲ取押フル爲メ人家ニ入ルヘキ時ハ官姓名ヲ述ヘ直チニ入ルコトヲ得若シ之ヲ拒ミ或ハ藏匿スルモノアル時ハ懇ロニ説諭シ尙ホ用非サル時ハ侵入スルコトヲ得

但外國人ノ邸宅ニ係ルハ其主ノ承諾ヲ得テ搜索スヘシ若シ肯セサル時ハ其外部ヲ警備シ上官ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條 現行犯罪アル時ハ犯人ヲ取押ヘタルト否トニ拘ハラズ調書ヲ作ルヘシ

第八條 死傷其他檢證ヲ要スル者アル時其證憑ト爲ルヘキ物件ハ悉ク原態ヲ保存シ他人ノ騷擾ヲ防キ見證人ノ離散ヲ制シ現場ノ景況ヲ屯所若クハ分屯所ニ報シ臨檢ヲ請フヘシ

第九條 脱走及ヒ休暇期盡キテ還ラス又ハ豫備後備軍ニ在テ擅ニ他管ニ出或ハ召集ニ應

セサル軍人ト思料スヘキ者アル時ハ休暇免狀宿泊證書或ハ証據ト爲ルヘキモノヲ檢シ

其之ヲ有セサル者ハ逮捕若クハ引致スヘシ

第十條 現行ニ非サル犯人ヲ認知スル時ハ順序ヲ經テ隊長ニ申告シ其命ヲ俟テ處分スヘシ

第十一條 告訴告發ハ詳細ニ聞取り事實相違ナク法ニ悖ラサルモノハ現行非現行犯ノ區分ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

但告訴告發書ニハ署名捺印セシムヘシ

第十二條 命令書ヲ以テ犯人ヲ搜索スルニ方リ其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料スル時ハ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 命令書ヲ以テ犯人ヲ逮捕スルニ方リ命令書ヲ見ノイヲ請フ時ハ之ヲ示スヘシ

第十四條 犯人搜索ノ爲メ人相書ヲ要スル時ハ隊長之ヲ各分隊長ニ達シ分隊長ハ之ヲ部下ニ付シ各自ノ勤務手牒ニ記載セシムヘシ

但其犯人捕ニ就キ若クハ死去シタル時ハ隊長ヨリ速ニ其旨ヲ達スヘシ

第十五條 犯人ヲ逮捕スルニ方リ踪跡ヲ失スル時ハ罪狀並ニ容貌衣服携帶ノ物品其他證

憑ト爲ルヘキモノヲ詳記シ速ニ最寄屯所若クハ分屯所ニ報スヘシ

第十六條 犯人他區ニ遁逃或ハ潜匿スルコトヲ探知スレハ速ニ其區ノ屯所若クハ分屯所ニ報シ若シ他ノ使府縣ニ係ル時ハ隊長ヨリ其使府縣ヘ逮捕若クハ引致ヲ依頼スヘシ

第十七條 犯罪ニ關スル物件ヲ差押フル爲メ家宅搜索ヲ要スル時ハ命令書ヲ帶シ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十八條 犯罪ニ關スル物件ハ勉メテ原態ヲ變改セサルヲ要ス其輒ク轉移スヘカヲサルモノハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又看守者ヲ置クヘシ

但己ヲ得サル場合ニ於テハ親屬又ハ隣佑ニ寄託スルコトヲ得

第十九條 隊長ハ犯罪ノ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署又ハ諸會社ニ事由ヲ通知シ其證據トナルヘキ者アル時ハ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

第二十條 犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ隊號官姓名等ヲ取調其逮捕ニ係ルモノハ携帶品ハ悉ク之ヲ取揚クヘシ就中劍銃火藥其他危害ト爲ルヘキモノニ注意スヘシ

但證人ト爲ルヘキモノニ對シ屯所若クハ分屯所ニ到ルヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 分屯所ニ於テ逮捕若クハ引致シタル犯人(違式註違ヲ除ク)ハ總テ屯所ヘ送付スヘシ

但屯所最寄ニ於テ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ屯所ニ送付シ然ル後分屯所ニ報

付スヘシ

スルモ妨ケナシ

第二十二條 違式註違ノ犯人ハ引致シタル屯所若クハ分屯所ニ於テ違式註違條例ニ照シ士官之ヲ處分スヘシ

第二十三條 屯所若クハ分屯所ニ於テ犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ本人所管ヘ通報スヘシ

第二十四條 分屯所ヨリ犯人ヲ屯所ニ送付スル時ハ調書ヲ作り携帶品及ヒ贓物等ト同時ニ送致スヘシ

但携帶品及贓物ハ犯人ノ面前ニ於テ目錄ヲ作り之ニ調印セシムルモノトス

第二十五條 屯所ニ於テ犯人ノ取調ヲ爲ス時ハ下士ヲシテ口供ヲ書取ラシメ兵卒一名若クハ二名ヲシテ看守ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 犯人取調中黨類アルヲ認知スル時ハ速ニ隊長ニ申告スヘシ

第二十七條 犯罪ニ關スル物件ニ付鑑定人ヲ要スル時ハ分隊長ヨリ直チニ之ヲ召喚スルコトヲ得

第二十八條 鑑定ハ取調ヲ爲ス者ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシメ其鑑定書ニ署名捺印セシムヘシ

第二十九條 犯人ノ取調ヲ爲スニハ決シテ拷掠究治スルコトヲ許サス其罪ニ服セサル者ハ強ヒテ甘結セシムルコトヲ要セス

第三十條 分隊長ハ犯罪ノ軍律ニ觸ル、者ハ假口供並ニ關係書類ヲ隊長ニ送呈シ指揮ヲ請ヒ懲罰ニ屬スヘキ者ハ本人ヲ直チニ其所管ヘ交附スヘシ然レモ其軍律ニ觸ル、者ニ關涉スル時ハ隊長ノ指揮ヲ請フモノトス

但懲罰ニ屬スヘキモノニシテ本人ノ所管東京ニ非ラサルモノハ陸軍裁判所ニ送付スルモノトス

第三十一條 隊長ハ分隊長ヨリ犯人處分ノ指揮ヲ請フ時ハ尙ホ之ヲ審覈シ假口供並ニ關係書類ヲ添ヘ陸軍裁判所ヘ送付スヘシ

第三十二條 犯人取調ノ爲メ之ヲ拘留スルモ分屯所ニ於テハ一日(二十四時間)屯所ニ於テハ三日(七十二時間)ヲ過クルヲ得ス若シ事故ニヨリ定期ヲ超ユル時ハ其事由ヲ詳記シ上官ニ申告スヘシ

第三十三條 犯人ヲ護送スル時ハ嚴重ニ其取締ヲ爲スヘシ然レモ之カ爲メ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第三十四條 犯人二名以上ヲ同時ニ護送スル時ハ其罪狀ニ依リ之ヲ別異スヘシ

第三十五條 犯人暴行ヲ以逃亡セシトスル時ハ勉メテ之ヲ制シ猶從ハサル時ハ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 犯人若シ逃亡シタル時ハ速ニ追跡スヘシト雖モ之カ爲メ他ノ犯人ノ護送ヲ遅延スヘカラス

第三十七條 暴行ヲ鎮壓スル爲メ犯人ニ死傷アル時ハ其顛末ヲ速ニ屯所若クハ分屯所ニ報シ檢視ヲ請フヘシ

第三十八條 中(少)尉若クハ軍曹檢視ヲ爲スニ方テハ先ツ見證人ニ就キ其事情ヲ聞取リ然ル後之ヲ檢視シ死傷ノ原因景狀等ヲ詳記シ證書ヲ作り診斷書ヲ添ヘ之ヲ上官ニ呈スヘシ

第三十九條 犯罪ノ事蹟並ニ器物等ハ詳細取調犯罪ノ證據トナルヘキモノハ之ヲ拾聚スヘシ

第四十條 行兇人逃亡シ被害人生存スル時ハ其行兇人ノ容貌衣服其他事情ヲ聞取リ之ヲ詳記シテ探索ノ用ニ供スヘシ

第四十一條 檢視終レハ被傷者及ヒ死屍ハ本人ノ所管ニ交付スヘシ若シ其所管東京ニ非サル時ハ被傷者ハ東京陸軍病院ニ送付シ死屍ハ假埋ヲ爲シ其旨ヲ所管ニ通報スヘシ

第四十二條 陸軍裁判所ヨリ死刑執行ノ通報アル時ハ警備ノ爲メ適宜人員ヲシテ臨場セシムヘシ

第四十三條 證書類ハ左ノ書式ニ照シ楷行ノ書体ニ片假名ヲ交ヘ行文ハ勉メテ簡明ナルヲ要ス若シ止ムコトヲ得ス改竄塗抹挿入等ヲ爲ス時ハ必ス本人ヲシテ認印セシムヘシ
命令書式

憲兵官姓名

何ノ誰 所管隊號 義何々ニ付逮捕(引致)(家宅搜索)可致候事
官 姓名 憲兵隊長

年月日 官 姓名 印

逮捕證書式 引致ニ係ル證書
モ亦之レニ準ス

所管隊號 官 姓名 名 印

右之者(逃亡殺傷等)ノ所業有之趣ヲ以テ逮捕ノ命ヲ奉シ或ハ何ノ誰ヨリ何々ノ訴有
之ヲ以テ直チニ其場ニ臨ミ或ハ何誰ヲ毆打スルヲ見認メ(逮捕シタル月日場所並ニ
現場ノ景況ヲ詳細ニ記載ス)依テ逮捕致候(事故ニヨリ本犯逮捕スル能ハサル時ハ其
事由ヲ記ス)此段證書候也

憲兵第幾分隊

官 姓名 名 印

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ立會人ヲシテ連署セシムヘシ
物件差押證書式

何々ノ件ニ付物件差押ノ命ヲ奉シ戸長或ハ隣佑立會ノ上家宅搜索ヲ遂候處左ノ通候
間此段證書候也

一 犯人 所管隊號 官 姓名

- 一 犯罪ノ事由
- 一 戸主ノ姓名
- 一 搜索シタル室
- 一 開披シタル器具
- 一 差押ヘタル物件
- 一 搜索ノ月日時間

憲兵第幾分隊

官 姓名 名 印

立會人 官 姓名 名 印

檢視證書式

差押ヘタル物件ニ付犯人或ハ戸主ノ辨解アリタル時ハ之ヲ別紙ニ記載スヘシ

何月何日何時何誰ヨリ變死傷ノ申報有之醫官何某同道臨檢候處何誰或ハ姓名不詳何
年位ノ者縊死或ハ闘毆殺傷ニ有之(疵ノ大小深淺出血ノ多少皮膚ノ景況等詳細ニ之
ヲ記ス)全ク謀殺自殺又ハ強盜等ノ所爲ト相見ヘ何々ヘ引渡シ又ハ假埋取計置候依
テ醫官診斷書並ニ見證人證書相添此段證書候也

憲兵第幾分隊

第一類 陸軍警察假規則

診斷書式

年月日

官姓名印

所管隊號

官姓名

右ノ者變死傷ニ付何ノ誰(官姓名)ノ檢視ニ立會候處何々何々(創傷ナレハ其部位廣狹深淺並ニ豫後等)(溺死ナレハ肺ノ膨脹胃中水液ノ有無皮膚ノ景況等)(縊死ナレハ其縊痕ノ形狀腦肺血液充盈ノ有無等ヲ記ス)ナルヲ以テ何々候者ト及診斷候也

年月日

醫官 官姓名印

一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員
一 診察ノ員

口供書式

()ヲ施ス者ハ朱書

分隊長	(官姓名印)	捕	(所管隊號(本管族籍) 官姓名)
主任	(官姓名印)	押	
書記	(官姓名印)	人	
罪名	逃亡竊黨	犯人	(本管族籍隊號官姓名)
前科	(何年何月何日陸軍裁判所或ハ何鎮臺ニ於テ何々ノ科ニ依リ杖何十銅何日(何等營倉何日)申付ラル)	宗旨	(年齢)
自分義云々			
(右之通相違不申上候事)			
(年月日)			
姓名印 (下士以上ハ花押兵卒ハ摺印)			

一 逮捕自首告訴告發ノ年月日時場所ハ詳ニ之ヲ記スヘシ
一 數葉ニ涉ルモノハ必ス本人ヲシテ其綴リ目ニ花押若クハ摺印ヲ爲サシムヘシ

第一類 海軍警察心得 巡查帶劍心得方

○第五款 海軍警察心得

明治十七年四月海軍省丙第六十六號(海軍一般)達

海軍警察心得左ノ通相定ム此旨相達候事

但明治十四年丙第六十五號達ハ廢止ス

海軍警察心得

第一條 憲兵ハ海軍警察ノ事ヲ行フ可シ但鎮守府及ヒ艦船屯營其他海軍各官舎内ニ於テハ此限ニ在ラズ

第二條 判士長若クハ審問委員ヨリ合狀ヲ付托シタル時ハ速ニ其執行ヲ爲ス可シ

第三條 海軍々人軍屬ノ現行犯人ヲ逮捕シタル時ハ之ヲ東京若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ其被告人所屬ノ艦船營ニ送致スヘシ

第四條 海軍治罪法第二十五條ノ諸官其職務ヲ行フ爲メ若クハ主理刑場警戒ノ爲メ兵員ヲ要求シタル時ハ其求ニ應ス可シ

第五條 前數條ニ記載シタル外ハ陸軍警察規則ニ依リ處分ス可シ但臨時告達若クハ命令アル時ハ其告達命令ニ從フ可シ

○第六款 巡查帶劍心得方

明治十五年十二月第六十三號(應府縣)達

自今巡查ニ帶劍セシムルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

▲明治十五年十二月内務省乙第七十一號(警視廳府縣)達

今般第六十三號ヲ以テ巡查ニ帶劍セシムル義公達相成候ニ付テハ左ノ二項可心得此旨相達候事

但調製費用ハ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

一 劍ハ日本刀ニシテ製作及ヒ革帶ハ圖ノ如シ

但シ從前各署ニ備置ク洋刃ノ分モ當分取雜セ帶用シ苦シカラス

一 帶劍者ハ明治八年第二十九號公達行政警察規則第四章第十五條ノ旨趣ニ基キ尙ホ一層慎重シ兇賊逮捕ノ際ト雖モ不得止場合ニ在サレハ拔劍スルヲ得ス(劍及革帶雜形察ス)

▲明治十七年一月内務省乙第三號(警視廳府縣)達

明治十五年當省乙第七十一號ヲ以テ巡查帶劍者不得止場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得サル旨相達置候處尙ホ左ノ各條ノ通可相心得此旨更ニ相達候事

但第一條ノ場合ニ非ラズシテ傷害スルニ於テハ假令過誤ニ出ルモ都テ法衙ノ處分ニ付スヘシ

巡查帶劍心得方

第一條 帶劍ハ左ノ場合ノ外拔劍スルヲ得ス

一 兇器ヲ持シ人ノ身軀財産ニ對シ暴行ヲ爲シ拔劍スルニ非サレニ保護スルニ術ナキ片

一 暴行人兇器ヲ持シ拔劍スルニ非サレハ防禦スルニ術ナキ片
一 犯罪人逮捕ノ片又ハ外囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劍スルニ非サレハ防禦スルニ術ナキ片

第二條 前各項不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ兇人畏服ノ摸樣アルニ於テハ穩ニ取押フヘシ

第三條 不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ關係ナキ者ニ負傷セサル様深ク注意スヘシ

第四條 拔劍シタル片ハ兇人ヲ傷スルト否トニ拘ハラヌ其普況ヲ速ニ所屬長ニ具申スヘシ

○第廿五章 度量衡

○第一款 度量衡取締條例

明治八年八月第百三十五號(使府縣へ)達

今般度量衡取締條例并検査規則種類表等別紙ノ通相定候條便宜ノ場所見計製作所賣捌所ヲ設ケ從來ノ弊害ヲ除キ候様厚ク注意施行可致此旨相達候事

但度量衡原器及ヒ檢印并器械配達検査計算詳表等大藏省ヨリ配達候條同省ヨリ可受取且製作請負人申付候者ノ居所姓名等同所へ申立免許鑑札可受取尤モ右日限ハ各地方管應東京ヲ距ル百里以内ハ此達書到着ノ日ヨリ三十日限リ百里以外二百里迄ハ同四十日限リ二百里以外三百里迄ハ同五十日限リ三百里以外ハ同六十日限リ可申出事

度量衡取締條例

第一條

度量衡三器鑪衡ハ桿秤天秤並分銅相屬シテ三器ノ一トス 向後製作ノ儀ハ各地方ニ於テ製作所每器一ヶ所ツ、製作請負人每器一人宛ト相定メ其管應ニ於テ身元人物相當ノ者相撰ニ新ニ可申付事 右各管應ニ於テ製作請負人申付候節其居所姓名等大藏省へ申立同省ヨリ製作免許鑑札請取可下渡事

但製作請負人休業イタン代業ノ者申付候節ハ右下渡シ候鑑札大藏省へ相納メ更ニ同省ヨリ新鑑札請取可下渡事

第二條

從前ノ秤量改役座方ハ製作所ニ於テ出來ノ新器發賣ノ日限ヨリ廢止候事 但從前ノ秤量改役座方ハ自今廢止スト雖モ第一條揭示ノ通り身元人物相當ニ候得ハ更ニ製作請負人ニ相撰ニ候儀不苦事

第三條

三器賣捌所ハ東京ハ各器五ヶ所或ハ六ヶ所宛西京ハ二ヶ所或ハ三ヶ所宛大阪ハ三ヶ所或ハ四ヶ所宛其餘ハ各地方於テ管轄地ノ廣狹ニ應シ士民ノ便利ヲ計リ適宜ノ場所見計ヒ箇數相定メ其管應ニ於テ身元人物相當ノ者相撰ニ各器賣捌人新ニ可申付事 右各管應ニ於テ賣捌人申付候節賣捌免許鑑札大藏省ヨリ可相渡ニ付同省ヨリ請取其管應

ノ印章相調シ本帳割印押切リ下渡シ然ル上其者ノ居所姓名等直ニ同省へ可届出事
但賣捌人休業イタシ代業ノ者申付候節ハ右下渡候鑑札取上ケ更ニ新鑑札下渡シ其段大
藏省へ可届出其節取上ケ候鑑札ハ同省へ返納可致事

第四條

各器製作所賣捌所共免許相成候ハ、何製作所何賣捌所ト大書イタシ候標札相掲ケサスヘ
キ事

第五條

度量衡原器ノ儀ハ各原器ニタ通リツ、大藏省ヨリ各管廳へ配達候條一ト通リハ其管下製
作請負人へ下渡シ向後各器製作ノ規範ト致サセ一ト通ハ其管廳ニ備置各器検査ノ照準ト
イタスヘキ事

右度量衡原器ニ附属ノ器械并各器ノ検査印章及度量衡製作順序番號印等は亦大藏省ヨリ
配達候事

第六條

度量衡取締條例并度量衡種類表ハ三器製作所心得ノ爲メ各器製作請負人へ一部ツ、下渡
スヘキ事

第七條

賣捌所ニ於テ新製ノ器發賣日限ノ儀ハ各製作所ニテ新製ノ器概テ出来上一般へ布告ニ可

及ニ付右出来ノ期限ヲ豫定シ大藏省へ可届出事

第八條

各管廳ニ於テ其管下製作所ニテ出来ノ各器改メ方ハ別冊度量衡検査規則ノ通り検査ノ上
一々新器検査ノ印章打込下渡スヘキ事

舊器改メ方ハ新器發賣ノ日ヨリ日數三百日ト定メ各管廳ニ於テ其管下ヨリ舊器持出サセ
相改可申尤別冊度量衡検査規則ノ通り検査ノ上一々舊器検査ノ印章打込ニ可下渡事

但印章打込ケ所ハ原器ニ打込有之候ケ所ノ通りタルヘク尤舊器ハ舊章ニ重複セサル様
可打込事

第九條

舊器改方ハ第八條ノ通りタルヘシト雖モ各管廳ニ於テ改方遍ク行届候様專ラ注意スヘク
就テハ管轄地ノ廣狹ニ應シ士民ノ便利ヲ計リ適宜ノ場所見計ヒ出張所ヲ設ケ官員分配イ
タシ候等ハ都テ其地ノ便宜ニ任スヘキ事

右舊器改方出張所ヲ設ケ候向ハ出張所ケ所取極メ候上大藏省へ届出ヘキ事

右出張所ケ所届出次第同省ニ於テ舊器検査印章一ケ所ニ付一ト通リツ、尙又可相渡ニ付
同省ヨリ請取各出張所へ配達スヘク尤出張所ニ於テ改方照準ノ原器ハ兼テ相渡有之候原
器ニ準シ製作所ニテ出来ノ三器各管廳ニ於テ検査ノ上印章打込每器各出張所ノ數ニ應シ
一ト通リツ、配達イタスヘキ事

第一類 度量衡取締條例

第十條

三器ノ稅額及ヒ製作所賣捌所ノ利益ハ左之通りタルヘキ事
三器製作ノ諸材料并一切ノ諸費ヲ出來品ノ高ニ割合之ヲ各品各所ノ原價ト立右原價ヘ二
割四分ヲ添ヘ之ヲ賣捌所ノ通價ト定ム其二割四分ノ内

差引殘 壹分 但二割四分
稅金 製作所利益
賣捌所

二割三分
鑿ヘハ秤壹挺ニ付

金壹圓 原價

金貳拾四錢 貳割四分増價

合金壹圓貳拾四錢 賣捌所ノ通價

内 原價

金壹圓 稅金

金壹錢

差引殘

金廿三錢 製作所利益
賣捌所

右稅金ハ檢査印章打込下渡シ候器物ニ課シ各器製作請負人ヨリ取立ヘク尤其計算等委出
ハ第十二條ニ參照可致事

右利益製作賣捌兩所ノ割合ハ工作ト賣捌ノ多少ニ應シ申合ノ上適宜ニ取定メ候テ不若尤

原價并通價ノ儀ハ決シテ右制限ニ超ヘ候儀相成ヲサル旨可申渡置事

製作所賣捌所共私ニ通價ヲ高下致シ賣買候儀不相成若シ犯ス者ハ律ニ照シ處分スヘキ事

但減價ハ製作所ヨリ爲書上且増減ノ都度々々届出サスヘキ事

賣捌所ニテハ右通價ノ外製作所ヨリ道程ノ遠近ニ應シ運賃ヲ添ヘ其地ノ定價ヲ立候ハ不

苦事

但各地ノ定價ハ賣捌所ニ於テ通價并運賃ノ割合書添ヘ其管廳ヘ届ケ置カスヘキ事

第十一條

各地ノ賣捌所ハ何地ノ製作所ヨリ買卸シ候トモ隨意タルヘク且同業中互ノ取引ハ不苦ト
雖モ自儘ニ支店取次所等取設クサセ候儀ハ不相成事

第十二條 (明治十四年第五十六號達改正)

度量衡稅額ハ第十條揭示ノ通ニ付各器檢査ノ都度檢査印章打込濟ノ員數並原價増價通價
等ノ調書製作請負人ヨリ爲差出置キ左ノ區分ニ據リ稅金取立ヘキ事

一月ヨリ 六月マテ 分其年七月十日限

七月ヨリ 十二月マテ 分翌年一月十日限

第十三條

製作所ニテ檢査印無之品賣出シ又ハ他人猥リニ製作イタシ候儀不相成若シ犯ス者ハ其品

第一類 度量衡取締條例

取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

但尺ハ尺杖等全ク一時假用ノ爲メ目盛りイタン候類枴ハ芋烏芋等ヲ計リ候爲メノ箱ヲ製シ賣候類ハ例外タルヘキ事

第十四條

製作所ノ外尺秤ノ目盛り直シ枴ノ縁鎖打替及斗概ノ修復等他人自儘ニイタン候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

第十五條

賣捌所ニ於テ製作ハ一切禁制タリト雖モ權衡賣捌所ニテハ緒紐附替ノ儀差許候間右緒紐結ヒ方目印等兼テ製作所ヘ打合セ爲心得置ヘキ事

但緒紐代手料數等ハ最寄同業中申合ノ上定價相立サセ其管廳ヘ書上ケ爲置ヘキ事
權衡製作所賣捌所ノ外他人自儘ニ緒紐附替候儀不相成若シ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ處分スヘキ事

第十六條

製作所賣捌所ハ一般ノ工商ト同様ニテ別段威權ケ間敷振舞ヘ一切相成ラサル事

第十七條

製作所賣捌所共其管廳官員時々見廻リ諸帳面類點檢ノ上書上ケ原價ノ當否及製作高賣揚高等審査可致且米穀酒醬反物等ノ商家ヘモ時宜次第同様見廻リ用器ノ正否探偵イタスヘ

キ事

製作所賣捌所共此條ニ觸レ不相當ノ儀有之候ハ、管廳ニ於テ其職業差止メ代人申付其段大藏省ヘ可届出且其犯狀ニ依リテハ律ニ照シ處分スヘキ事

第十八條

新製ノ器發賣ノ日ヨリ三器共賣捌所ノ外賣買ヲ禁ス自用ノ品舊新器検査印章有之分賣拂ヒ度者ハ同所ヘ差出シ候ハ、相當ノ代價ヲ以テ買取ルヘキ事

但向後三器ハ平人賣買一切停止タリト雖モ秤錘皿并枴縁鎖弦鎖等取離シ古鐵トシテ賣買イタン或ハ鑄潰シ候儀ハ不苦事

第十九條

舊器改メ三百日ヲ過キ検査印章無之器商業賣買ノ際ニ相用候事不相成若シ犯ス者ハ律ニ照シ處分スヘキ事

第二十條

従前ノ枴座秤座及ヒ尺工ハ自今製作賣捌共一切停止タリト雖モ舊器検査印章打込相成候分ハ新器發賣ノ日ヨリ百五十日ノ内ニ各器賣捌所ニ於テ相當ノ割引ヲ以テ爲買取ヘキ事
右舊器検査印章打込相成候分賣捌所ニ於テ買取方ハ各管廳ニ於テ兼テ賣捌人ヘ申論シ各器買取方目途相立割引ヲ以テ買取候上賣出シ候様可爲致事
但舊器買取員數ハ舊器買取日數百五十日ノ後取調出來次第各管廳ニ於テ賣捌人ヨリ爲

書出大藏省へ差出スヘキ事

第二十一條

舊器賣買ノ儀ハ第十八條第二十條掲載ノ通りニ候得共舊器賣買ニ付テハ收税ニ不及事

第二十二條

此條例中一般ノ人民ニ係リシ儀ハ各地ノ區戸長ヘモ篤ト爲相心得取締筋ニ付萬一違犯ノ者有之節ハ速ニ其管廳ヘ訴出候様兼テ可申付置事

度量衡検査規則

尺度検査

尺度ノ検査ハ舊器新器共渾發ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法渾發ヲ以テ検査スル所ノ尺度ヲ挾ミ其挾ム所ノ長サヲ検査スル所ノ尺度ノ長サトシ之ヲ曲尺及ヒ鯨尺ノ原器ニ當テ、試験スルニ其挾ム所ノ長サ曲尺ノ原器ニ適合スル者ハ検査スル所ノ尺度之ヲ曲尺ト定メ其挾ム所ノ長サ鯨尺ノ原器ニ適合スル者ハ之ヲ鯨尺ト定メ乃チ其器ヲ正當トシ以テ各々檢印ヲ捺押シ且尺名印曲尺ハ曲字ノ印鯨尺ハ鯨字ノ印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其挾ム所ノ長サ曲尺及鯨尺ノ原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ検査スル所ノ尺度之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

舊器斗量検査

舊器斗量ノ検査ハ斗量ノ原器ト漏斗トヲ用ヒ春キ精々タル粟粒ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其

法検査スル所ノ器假名一斗辨ナレハ左圖ノ如ク先ツ一斗辨ノ原器ヲ採リ漏斗ノ前位ニ於テ之ヲ盆上ニ据ヘ辨ノ中心ト漏斗口トヲシテ上下相向ハシメ受俟ヲ以テ辨ノ正上ニ据ヘ

兼テ漏斗口ノ蓋ヲ鎖シ粟粒ヲ漏斗ニ入レ置ヘシ尤其量ハ本量ニ凡二割ヲ増シ凡一斗二升タルヘシ但五升ニハ六升一升ニハ一升二合如此シテ漏斗ノ蓋ヲ開キ受俟ヲ以テ其漏下スル所ノ粟粒ヲ受テ且其受シル所ノ粟粒ヲ俵ノ底隙ヨリ辨ニ漏移スヘシ尤此際徐々ニ受俟ヲ轉廻シ粟粒ヲシテ辨ノ中央並四隅ニ遍滿セシムルヲ要ス既ニ之レヲ漏移シ終レハ斗概ヲ以テ其溢粒ヲ搔キ去リ之ヲ原量ト定ムヘシ

此際斗概ノ使用ニ於ケル其量面ヲシテ毫モ凸凹ナク斗邊ト相水平ナラシムルヲ要ス但盆上ニ散スル所ノ餘粒ハ辨ヲ撒シ次ニ檢器ノ容量ヲ求ムル亦原器ニ於テスル法ノ如クノ檢器ノ容量ヲ得之ヲ檢量ト定ムヘシ次ニ此原檢器其量ヲ互移換容センカ爲メ檢量ヲ他器ニ移シ置キ以テ原量ヲ檢器ニ移シ檢量ヲ原器ニ移スヘシ

其法都テ前法ノ如ク漏斗及受俟ヲ用テ之ヲ各器ニ漏移シ既ニ之ヲ漏移シ終レハ原檢器共斗概ヲ以テ徐々ニ其量面ノ凸凹ヲ均平スヘシ此際斗概ノ使用ニ於ケル前後ノ手續キ輕重緩急極メテ不同ナキヲ要ス但斗概ヲ用アルノ後粟粒斗内ニ充實シ量面斗邊ト相平カニ照ニ充既ニ之ヲ均平シ終リ乃チ原檢兩器相並ヘテ之ヲ試驗スルニ其量各有餘不足ヲ生

セサル者ハ検査スル所ノ器之ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其量各有餘不足ヲ生スル者ハ検査スル所ノ器之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ舊器斗量其

検査法皆之ニ準スヘシ

第一類 度量衡取締條例

但漏斗ノ製作左ノ圖面寸法ノ如クスレハ漏斗口ト一斗枳面トノ距離凡三寸許ナルヘシ故ニ餘種モ此距離ニ準セシメノカ爲メ五升枳ヨリ以下ハ其高サニ隨ヒ適宜ニ之カ盛ヲ設クヘシ

(舊器斗量検査器械并検査法之圖畧ス)

右漏斗并漏斗架ハ第一第二圖ノ如ク各管應ニ於テ製作ノ上備ヘ置クヘシ

新器斗量検査

新器斗量検査ハ斗量尺度ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法斗量尺度ヲ検査スル所ノ斗量ノ方深及弦鐵ノ幅厚ニ當テ、精密ニ之ヲ検査スルニ其方深及弦鐵ノ幅厚斗量尺度ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其方深及弦鐵ノ幅厚斗量尺度ニ適合セズ長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

新器斗概検査

新器斗概ノ検査ハ斗概ノ原器ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法斗概ノ原器ヲ以テ検査スル所ノ斗概ノ圓徑及長サニ當テ、之ヲ試験スルニ其寸法原器ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其寸法原器ニ適合セズ長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

桿秤検査

桿秤ノ検査ハ舊器新器共先ツ其直點ノ正否ヲ検査スヘシ其法錘緒ヲ以テ其直點ニ當テ、

錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試験スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其直點ヲ正當トスヘシ次ニ其大小諸量點ノ正否ヲ検査スルニ各種ノ分銅自壹厘至二厘貫匁十種ノ原器ヲ以テスヘシ其法検査スル所ノ器五百匁掛鈎皿秤ナレハ先ツ其最小量一匁ノ分銅即原器ヲ以テ之ニ掛テ錘緒ヲ以テ其量點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試験スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其量點ヲ正當トスヘシ次ニ二匁ノ分銅其次五匁ノ分銅其次十匁ノ分銅其次二十匁ノ分銅ト次ヲ逐テ各種ノ分銅ヲ掛ケ前法ノ如クシテ各之ヲ試験スヘシ如此上緒ニテ衡ヲ釣リ既ニ各種ノ分銅ヲ掛ケ終レハ更ニ前緒並ニ元緒ニテ衡ヲ釣リ都テ上緒ニ於テスル法ノ如クシテ各種ノ分銅ヲ掛ケ之ヲ試験スヘシ上緒前緒元緒共ニ之ヲ掛ケテ試験スルニ直點及何レノ量點ニ於テモ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ直點及各量點ヲ正當トシ乃チ其器ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ上緒前緒元緒ノ中其釣ル所ノ衡水平ナラス左右偏重ヲ生スル者アルトキハ其直點又ハ其量點ヲ不正トシ乃チ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ桿秤其検査法皆之ニ準スヘシ

但桿秤種類掛量二貫匁ニ過クル者ハ三十二貫匁掛二十六貫匁掛十六貫匁掛十一貫匁掛六貫匁掛三貫匁掛五百匁掛ノ六種ナリ然ルニ分銅ノ原器其量二貫匁ニ止マレハ大小ノ量點其半ハヲ試験スルニ足ラス故ニ此六種ノ秤ニハ掛出ノ量點ヨリ二貫匁ノ量點迄試験既ニ終レハ二貫匁ヨリ數十貫匁ニ至ル其間ノ量點ハ試験之ヲ畧スヘシト雖モ上緒並ニ元緒ノ極點(上緒並元緒最重ノ量點假令ハ三十二貫匁掛秤ハ)ヲ試験スル爲メ分銅原器ニ上緒十六貫匁ノ量點元緒三十二貫匁ノ量點ナリ

準シテ兼テ四貫匁ノ分銅八箇ヲ製シ之ヲ假原器トシ然ノ或ハ原器種類ヲ相併セ或ハ假原器數箇ヲ相併或ハ原器種類ト假原器數箇トヲ相併セ各秤ニ掛ケテ上緒並元緒ノ極點ヲ試験スル一假令ハ三十二貫匁掛秤ニハ假原器四個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試験シ假原器八個相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試験シ六貫匁掛秤ニハ二貫匁ノ原器一個一貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試験シ假原器一個二貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試験シ都テ其極點ノ量ノ如ク原器假原器ヲ合併交加シテ之ヲ掛ケ木文ニ示ス法ノ如クシテ之ヲ試験シ以テ其器ノ正否ヲ判スヘシ

右四貫匁ノ分銅假原器ハ銅或ハ鉛ヲ以テ之ヲ製スヘシ然ノ其形狀ノ如キハ隨意タリト雖モ其量製作法ハ先ツ二貫匁ノ分銅原器二個相併セ合量四貫匁トシ銅或ハ鉛凡四貫匁量ノ者ヲ以テ之ニ對シ天秤ヲ以テ之ヲ量ル一其法次分銅検査ノ條ニ説所ノ如クタルヘシ然ノ銅或ハ鉛其量輕重アル者ハ之ヲ増減シテ二貫匁ノ原器二個ト等量ナラシメ以テ之ヲ四貫匁ノ假原器ト定ムヘシ

但分銅ヲ掛クルニ緒紐ノ類ヲ以テ之ヲ掛ケソニハ其緒紐ノ類ハ所謂風袋ニテ全ク量外ナルカ故ニ別ニ之ヲ量テ量數ト分クヘシ

天秤検査

天秤ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板敷又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤臺ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ

高低アル片ハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然ノ分銅ノ原器ヲ其左右ノ皿ニ掛クル一假令ハ左ニ百匁ノ分銅一個ヲ掛ケ右ニ五十匁ノ分銅一個二十匁ノ分銅二個十匁ノ分銅一個ヲ掛ケ左右等量ナラシメ(左右ノ皿ニ掛クル分銅ノ量ハ充分重量ヲ要ス然レモ天秤ノ大小ト分銅種類組合ノ便宜トニ隨テ適宜ニ増減スヘシ)然ノ其針口ノ感搖ヲ銳クセソカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其鈎銅箱ノ柱ニ掛ケテ所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ試験スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシ左右偏重ナキ者ハ其器ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下直接セズ其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スル者ハ其器ヲ不正トシ以テ捺印ニヘカラス

分銅検査

分銅ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ト天秤ノ原器トヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板敷又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤臺ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アル片ハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然シテ検査スル所ノ分銅ヲ其左皿ニ掛ケ之ト同量ナル分銅ノ原器ヲ其右皿ニ掛ケ然シテ其針口ノ感搖ヲ銳クセソカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其衡銅箱ノ柱ニ掛ケテリ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ試験スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシ左右偏重ナキ片ハ検査スル所ノ分銅之ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下直接セズ其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スル者ハ検査スル所ノ分銅之ヲ不正トシ以テ捺印ニヘカラス右之通候事

○第廿六章 坑法

○第一款 土石堀取規則

明治十年十月內務省
甲第二十一號布達

日本坑法第一章第三款ニ屬スル土石堀取規則之儀ニ付昨九年當省甲第三號ヲ以相達置候
通土石料ノ儀ハ是迄百分ノ一ヨリ二十迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定メ開坑願書式共別紙
之通更正候條此旨布達候事

土石堀取規則

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石(硯石)(砥石)(版石)(石磐石)(灰石)(築石)
(碑石)(粘土ノ類)類ニ限リ之ヲ施行スヘシ

第一條 官有地ノ土石ヲ開坑試堀セント欲スル片ハ別紙書式ニ照シ繪圖ヲ副ヘ地方廳ヲ
經テ當省ヘ願出ヘシ

第二條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一々年堀出シタル坑物代價即チ山元賣拂直段ノ百
分ノ一ヲ上納スヘシ

第三條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ算シ土砂ハ六尺立方
ヲ以テ一坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算スルモノトス
土石堀取願書式

何土石堀出願

字何

官有山林原野田畑之内

一開坑 何 坪

何土何坪何合何夕(石何切何分何厘)

此山元直段凡何圓何錢

此上納代料何圓何錢

何々年(月)季

朱

一々年堀出見込高

一坪ニ付何圓何錢

山元直段百分ノ一

明治何年何月ヨリ

同何年何月マテ

(但試堀ハ堀出高並山元直段上納代料共記載ニ及ハス)
右地所ニ於テ何々開坑(試堀)仕度候間御聞届被下度奉願候也

何府縣第何大區何小區

何國何郡何町何業

何 某印

明治何年何月何日

何府知事(縣令)何某殿

○第二款 礦山試堀借區願手續

明治九年十月工部
省第十八號布達

第一類 土石堀取規則 礦山試堀借區願手續

第廿六章 坑法

○第一款 土石堀取規則 明治十年十月內務省 甲第三十一號布達

日本坑法第二章第三款ニ屬スル土石堀取規則之儀ニ付昨九年當省甲第三號ヲ以相達置候
通土石料ノ儀ハ是迄百分ノ一ヨリ二十迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定メ開坑願書式共別紙
之通更正係條此旨布達候事

土石堀取規則

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石(硯石)(砥石)(版石)(石磐石)(灰石)(鑛石)
(礫石)(粘土ノ類)類ニ限リ之ヲ施行スヘシ

第二條 官有地ノ土石ヲ開坑試堀セント欲スル片ハ別紙書式ニ照シ繪圖ヲ副ヘ地方廳ヲ
經テ當省ヘ願出ヘシ

第三條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一ヶ年堀出シタル坑物代價即チ山元賣拂直段ノ百
分ノ二ヲ上納スヘシ

第四條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ算シ土砂ハ六尺立方
ヲ以テ一坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算スルモノトス
土石堀取願書式

何石堀出願

字何

官有山林原野田畑之内

一開坑場 何坪

何土何坪何合何夕(石何切何分何厘)

此山元直段凡何圓何錢

此上納代料何圓何錢

何ヶ年(月)季

朱

一ヶ年堀出見込高

一切ニ付何圓何錢

山元直段百分ノ一

明治何年何月何日

同何年何月マテ

(但試堀ハ堀出高並山元直段上納代料共記載ニ及ハス)
右地所ニ於テ何ヶ開坑(試堀)仕度候間御開届被下度奉願候也

何府縣第何大區何小區

何國何郡何町何業

何 某印

明治何年何月何日 何府知事(縣令)何某殿

○第二款 礦山試堀借區願手續 明治九年十月工部 省第十八號布達

第一類 土石堀取規則 礦山試堀借區願手續

諸礦山試掘借區等ノ願書雛形日本坑法中掲載有之候得共地名其他ノ認方疎漏ヨリ問々推問ノ手數ヲ費シ不都合不抄ニ付今般更ニ願書雛形別紙ノ通改正候條圖面相添正副二通可差出此旨布達候事

但代理ヲ以願出候向ハ必ス委任狀相添可差出候事

試掘並借區願書雛形 (料紙美濃紙二ツ折)

試掘開坑願書

何府縣何國何郡何村何町何住

華士族平民

何 某

但同盟人アラハ外何名ト認ムヘシ

一何府縣何國何郡何村何山

字何

但官(民)地

字何

但官(民)地

但借區ハ字一ケ所毎ニ坪數ヲ記載シ數ケ所アラハ其合計ヲモ揭クヘシ

何 礦

右之場所ニ於テ何礦含有致シ候見込ニ付(試掘)(借區開坑)致シ度地元へ及示談候處差支無之(所有地ニ候ヘハ地元以下十二字ヲ除クヘシ)候間御許可相成候様仕度圖面相添此段奉願候也

願 人

何 某 印

但同盟人アラハ連名連署スヘシ

前書出願ノ場所取調候處(同村同字中稼人無之或ハ稼人有之候得共何々ニテ差支無之)ニ付御開届相成度候也

區 戶 長 何 某 印

何府縣長官何某殿

前書願出之通御開届相成度候也

何府縣長官 何 某 印

工部卿何某殿

○第三款 借區稅不納者處分方

明治十六年十一月工部省第六號府縣達

日本坑法第八章第三十一款改正増補之儀十四年九月第四十九號公布相成候處處分方遷延

第一類 借區不納者處分方 外國人傭入規則

ノ向モ有之不都合候條以來怠納者ハ二月一日ヲ以テ斷然證券取揚營業禁止候儀ト可相心得此旨相達候事

但本文ノ場合ニ於テハ同法第三十二款ニ照シ税金徴收ニ不及候事

○第廿七章 外交

○第一款 外國人備入規則

明治十年三月 第廿七號布告

外國人備入候節ハ左ノ通可相心得此旨布告候事

一各官廳ニ於テ外國人備入候節ハ其國所姓名業務給料住所期限及繼備解備共其時々外務省へ通知スヘシ

一人民ニ於テ外國人ヲ備入ント欲スル者ハ其管轄廳ヲ經山シテ前項ノ件々外務省へ届出ツヘシ

一私僱外國人ヲ其業務等ノ都合ニヨリ居留地外へ居住爲致度者ハ地方官添書ヲ以テ外務省へ伺出其許可ヲ受クヘシ

○第二款 清國及朝鮮國約款

明治十八年五月 第三號告示

客歲十二月朝鮮國京城事變ノ際日清兩國交渉ノ事件ニ關シ今般清國政府ト談判ヲ遂ケ左ノ約書ヲ締結シ且照會書ヲ領收シ以テ其事局ヲ結了ス

右告示候事

大日本國特派全權大使參議兼宮内卿勳一等伯爵 伊藤

大清國特派全權大臣 太子大傅文華殿大學士北洋通商大臣 李

各々奉スル所ノ

諭旨ニ遵ヒ公同會議シ專條ヲ訂立シ以テ和誼ヲ敦クス有ル所ノ約款左ニ臚列ス

一 議定ス中國朝鮮ニ駐紮スルノ兵ヲ撤シ日本國朝鮮ニ在リテ使館ヲ護衛スルノ兵弁ヲ撤ス畫押蓋印ノ日ヨリ起リ四月ヲ以テ期トシ限内ニ各々數ヲ盡シテ撤回スルヲ行ヒ以テ兩國滋端ノ虞アルコトヲ免ル中國ノ兵ハ馬山浦ヨリ撤去シ日本國ノ兵ハ仁川港ヨリ撤去ス

一 兩國均シク允ス朝鮮國王ニ勸メ兵士ヲ殺練シ以テ自ラ治安ヲ護スルニ足ラシム又朝鮮國王ニ由リ他ノ外國ノ武弁一人或ハ數人ヲ選僱シ委ヌルニ效演ノ事ヲ以テ嗣後日中兩國均シク員ヲ派シ朝鮮ニ在リテ教練スルコト勿ラシ

一 將來朝鮮國若シ變亂重大ノ事件アリテ日中兩國或ハ一國兵ヲ派スルヲ要スルトキハ應ニ先ツ互ニ行文知照スヘシ其事定マルニ及テハ仍即テ撤回シ再タハ留防セズ

大日本國明治十八年四月十八日

特派全權大使參議兼宮内卿勳一等

伯爵伊藤博文畫押

大清國光緒十一年三月初四日

第一類 清國及朝鮮國約款

特派全權大臣 太子太傅文華殿大學士北洋通商大臣 李鴻章 書押
兵部尚書直隸總督一等肅毅伯爵

大清國欽差全權大臣太子太傅文華殿大學士北洋通商大臣兵部尚書直隸總督一等肅毅伯爵李
照會ノ事ヲ爲ス照シ得タリ上年十月朝鮮漢城之變中國ノ官兵ト日本官兵ト朝鮮ノ王宮
ニ在テ爭鬪ノ一節ハ實ニ兩國國家意料ノ外ニ出ツ本大臣殊ニ惋惜ヲ爲ス惟々念フ中日
兩國ノ和好年久レ中國ノ官兵等一時情急ニ已ヲ得スレテ爭鬪スト雖モ究ニ未タ小心ニ
事ヲ將フ能ハス應ニ本大臣由リ文ヲ行リ戒飭スヘシ貴大使ノ送リ閱スル日本ノ民人本
多收之輔妻等ノ供狀ニ漢城內ニ在テ華兵屋ニ入リ掠奪シ人命ヲ戕斃スル情事アルト謂
フニ至リテハ但々中國並ニ的確ノ證據ナシ自カラ應ニ本大臣由リ員ヲ派シ訪查シ明確
ニ供證ヲ取具シ如シ果シテ當日實ニ某營ノ某兵アリテ街ニ上リ事ヲ滋シ日民ヲ殺掠セ
シト確トシテ見證アレハ定メテ中國ノ軍法ニ照シテ嚴ニ從ヒ拏辦スヘシ此爲メニ備ニ
具シ貴大使ニ照會シ查照ヲ煩スヲ請フ須ヲ照會ニ至ヘキ者
右 照 會

大日本特派全權大使參議兼宮内卿勳一等伯爵伊藤

光緒十一年三月初四日

▲明治十八年二月第二號告示

客歲十二月朝鮮國京城ニ於テ生起シ事變ニ關シ今般同國政府ニ談判ヲ遂ケ左ノ通結約ス

右告示候事

此次京城ノ變係ル所小ニ非ス

大日本國

大皇帝深ク

宸念ヲ軫セラレ茲ニ特派全權大使伯爵井上馨ヲ

簡ヒ

大朝鮮國ニ至リ便宜辦理セシメラル

大朝鮮國

大君主

宸念均シク敦好ニ切ニ乃チ金宏集ニ

委スルニ全權讓處ノ任ヲ以テシ

命スルニ懲前毖後ノ意ヲ以テセラル兩國ノ大臣和衷商辦シ左ノ約款ヲ作リ以テ好誼ノ完

全ヲ昭ガニシ又以テ將來ノ事端ヲ防ク茲ニ全權ノ文憑ニ據リ各々名ヲ簽シ印ヲ鈐スル左

ノ如シ

約 款

第一

朝鮮國

第一類 清國及朝鮮國約款

國書ヲ修メテ

日本國ニ致シ謝意ヲ表明スル事

第二

此次

日本國遭害人民ノ遺族並ニ負傷者ヲ恤給シ暨ヒ商民ノ貨物ヲ毀損掠奪セラル、者ヲ填補シテ

朝鮮國ヨリ拾壹萬圓ヲ撥支スル事

第三

磯林大尉ヲ殺害シタル兇徒ヲ査問捕拿シ重ニ從テ刑ヲ正ス事

第四

日本公館ハ新基ニ移シ建築スルヲ要ス當ニ

朝鮮國ヨリ地基房屋ヲ交附シ公館暨ヒ領事館ヲ容ルニ足ラシムヘシ其修築増建ノ處ニ至テハ

朝鮮國更ニ貳萬圓ヲ撥交シ以テ工費ニ充ツル事

第五

日本護衛兵弁ノ營舎ハ公館ヲ附地ヲ以テ擇定シ壬午續約第五款ヲ照シ施行スル事

大日本國明治十八年一月九日

特派全權大使從三位勳一等伯爵 井上馨 印

大朝鮮國開國四百九十三年十一月二十四日

特派全權大臣左議政 金宏集 印

另單

一約款第二第四條ノ金圓ハ日本銀貨ヲ以テ算ス須ラク三個月ヲ期シテ仁川ニ於テ撥完スヘシ

一第三條兇徒ヲ處辨スルハ立約後二十日ヲ以テ期ト爲ス

大日本國明治十八年一月九日

特派全權大使從三位勳一等伯爵 井上馨 印

大朝鮮國開國四百九十三年十一月二十四日

特派全權大臣左議政 金宏集 印

○第廿八章 雜則

○第一款 參事院章程 明治十七年四月第三十四號(官省院廳府縣)へ達

參事院章程左ノ通改正候條此旨相達候事

參事院章程

第一條 參事院ハ太政官ニ屬シ内閣ノ命ニ依リ法律規則ノ草定審査ニ參預スルノ所トス

第一類 參事院章程

第二條 參事院ノ職務ハ議長一人副議長一人議官及議官補員外議官補トス

第三條 議官ノ中議長ノ命ヲ以テ部長六人ヲ置キ各部ノ事務ヲ提理ス

第四條 議官補ハ各部ニ分屬シ議案ヲ造リ及ヒ會議ニ列シ本案ノ趣旨ヲ辨明ス

第五條 員外議官補ハ諸省書記官ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ本職主任ノ件ニ限リ臨時議事ニ列席ス

第六條 書記官ハ議官補ノ中ヲ以テ之ニ充テ内局ノ事ヲ幹ス

第七條 參事院ノ事務左ノ如シ

第一 本院ハ内閣ノ命ニ因リ法律規則案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ内閣ニ上申ス

第二 各省ヨリ上稟スル所ノ法律規則案ヲ審按シ意見ヲ具ヘ或ハ修正ヲ加ヘ内閣ニ上申ス

第三 元老院ニ於テ議決スル所ノ法案ヲ審查シ時宜ニ依リ意見書ヲ具ヘテ内閣ノ命ヲ請ヒ元老院ノ再議ヲ求ムルコトヲ得或ハ内閣ノ命ニ依リ本院ノ委員ヲ差シ元老院ト叶議スルコトヲ得

第四 省院廳府縣ヨリ上稟シタル諸般ノ文書ヲ内閣ヨリ下付スルトキハ意見ヲ具ヘテ上申ス

第五 各省ノ年報及諸般ノ報告ヲ勘査ス

第八條 前條ノ外參事院ハ尙ホ左ノ事務ヲ行フ

地方議會ト地方官トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ之ヲ審理ス

第九條 議官議官補及員外議官補ハ内閣ノ命ニ依リ内閣委員トナリテ元老院ニ出頭シ議案ヲ辨明スルコトアルヘシ

第十條 本院中左ノ事務ヲ分掌スル爲メニ内閣及六部ヲ置ク

内局 院内ノ庶務及圖書ノ事

外務部 外交ノ事

內務部 內治勸業工業教育ノ事

軍事部 陸海軍ノ事

財務部 歲出歲入及國債貨幣租稅ノ事

司法部 恩赦特典及裁判ノ章程權限並行政裁判ノ事

法制部 民法訴訟法商刑法治罪法ノ事

第十一條 本院ノ議事ハ分テ部會議總會議ノ二類トス部會議ハ一部ノ議官議官補會議シ若シ兩部以上關係アル議案ニ就テハ兩部以上ノ議官議官補聯合會議スルモノトス總會議ハ六部ノ議官議官補共同會議スルモノトス

第十二條 法律及外國條約案ニ係ルモノハ總會議ヲ用フヘシ其他議長ニ於テ重要事件ト思惟スルモノハ總テ之ニ準スヘシ

第十三條 部會議ノ成案ニ就キ議長ニ於テ意見アルトキハ更ニ總會議ニ付スヘシ

第十四條 總會議ニ於テ議長事故アリテ闕席スルトキハ副議長上席スヘシ議長副議長共ニ事故アリテ闕席スルトキハ議長ノ撰ヲ以テ假ニ上席人ヲ定ムヘシ

第十五條 部會議ニ於テ部長事故アリテ闕席スルトキハ該部長ノ撰ヲ以テ假ニ上席ヲ定ムヘシ

第十六條 凡ソ會議ニ上席スルヲハ議長可否共ニ多數ヲ得サル時ニ當リ判決ノ權ヲ有ス

第十七條 内閣へ上申スルモノハ總テ議長ノ名ヲ以テスヘシ

○第二款 諸省事務章程通則

明治十四年十一月第九十四號(官省院使廳府縣)へ達

各省従前ノ事務章程ヲ廢シ今般諸省事務章程通則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

諸省事務章程通則

第一條 各省卿ハ各省ノ行政事務ヲ總理ス

第二條 各省卿ハ該省所部ノ官屬ヲ統率シ及ヒ監督シ奏任官ノ進退ヲ具狀シ其八等官以下ハ之ヲ判任ス

第三條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付法律規則ヲ制定シ又ハ之ヲ廢止改正スルヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘテ上奏シ裁ヲ請フヘシ

第四條 凡法律規則布達ノ其主管ノ事務ニ屬スルモノハ各省卿之ニ副署シ其執行ノ責ニ任スヘシ若シ兩省以上ニ關涉スルモノハ關涉ノ省卿均シク之ニ連署シ其責ニ任スヘシ

第五條 各省卿ハ所部ノ官屬ニ指令又ハ訓條ヲ下付スルコトヲ得

第六條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付地方官ヲ監督スヘシ若シ地方官ノ處分法律規則ヲ犯シ若クハ權限ヲ侵スモノアレハ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付毎年一月前年ノ功程ヲ具ヘ報告書ヲ奏上ス

第八條 府縣並ニ所部官屬ノ報告各省卿處分ニ屬スルモノ其事体重大ナルハ仍ホ處分シテ後ニ奏上スヘシ

第九條 各省ノ事務臨時ニ定額豫算外ノ費用ヲ要スルトキハ上奏シテ裁ヲ請フヘシ

第十條 (明治十七年二月第十四號達改正)各省卿事故アルトキハ臨時命ヲ受テ他ノ省卿其事務ヲ管理スヘシ

第十一條 各省輔官ハ卿ノ職ヲ輔テ卿ノ命ヲ以テ各省内部ノ事務ヲ代理スルコトヲ得

▲明治十四年十一月第九十五號(官省院使廳府縣)達

今般諸省事務章程通則第九十四號達ノ通被定候ニ付テハ管掌事務ノ區分ハ總テ従前執行スル所ニ依ルヘシ此旨相達候事

○第三款 府縣官職制

明治十一年七月第三十二號(府縣)へ達

明治八年(十一月)第二十三號達府縣職制並事務章程ヲ廢シ府縣官職制別冊之通被定候條

第一類 諸省事務章程通則 府縣官職制

四百六十一

此旨相違候事

府縣官職制

府 知事 一人

縣 令 一人

初任月俸貳百圓其治績ヲ考ヘ職ニ稱フ者ハ滿三年毎二月俸五拾圓ヲ加ヘ滿九年ニ至リテ月俸三百五拾圓ヲ給シ勅任トス(明治十七年二月第十六號達追加)

第一 府知事縣令ハ部内ノ行政事務ヲ總理シ法律及政府ノ命令ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二 府知事縣令ハ内務卿ノ監督ニ屬スト雖モ各省主任ノ事務ニ就テハ各省卿ノ指揮ヲ受ク

第三 府知事縣令ハ法律及政府ノ命令ヲ執行スル爲ニ要用ナリトスル片ハ其實施ノ順序ヲ設ケテ部内ニ布達シ及其適宜處分ヲ許サレタル事件ニ就テハ規則ヲ設立シテ部内ニ布達スルコトヲ得而シテ發行ノ後直チニ各省主務ノ卿ニ報告スヘシ

第四 府知事縣令ノ布達若クハ處分法律若クハ政府ノ命令ト相背キ又ハ權限ヲ侵シタルトキハ太政大臣若クハ各省主務ノ卿ヨリ取消ヲ命セラルコトアルヘシ

第五 府知事縣令行政事務ニ就キ主務ノ卿ニ稟請シ指揮ヲ持テ處分スヘキ者ハ別ニ定ムル規則ニ從フヘシ

ムル規則ニ從フヘシ

第六 府知事縣令ハ地方稅ヲ徵收シテ部内ノ支費ニ充ツルヲ得而シテ其豫算決算ヲ具ヘテ内務卿大藏卿ニ報告スルヲ要ス其府會縣會アル地方ハ之ヲ會議ニ付スヘシ

第七 府知事縣令ハ屬官ヲ判任進退シ其分課ヲ命ス

第八 府知事縣令ハ郡長以下郡ノ吏員ヲ判任進退シ郡務ヲ指揮監督ス

第九 府知事縣令ハ非常事變アレハ鎮臺若クハ分營ノ將校ニ通議シテ便宜處分スルコトヲ得

第十 府知事縣令ハ府會縣會ヲ召集シ及其會議ヲ中止スルコトヲ得

第十一 府知事縣令ハ議案ヲ發シテ府會縣會ニ付シ決議ノ後之ヲ認可シ或ハ認可セサルコトヲ得

大書記官 少書記官 府ハ大少各々一員ヲ置キ縣ハ大少ノ内一人ヲ置ク開港所ノ縣

第一 書記官ハ府知事縣令ヲ輔ケテ部内ノ行政事務ヲ參判スルコトヲ掌ル

第二 府知事縣令不在ノ時又ハ事故アルトキハ書記官ハ代理ノ任ヲ受ク

▲(明治十四年十一月第九十九號達警部長ノ項追加)

警部長 一人

第一 警部長ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ其府縣警察上一切ノ事務ヲ調理ス

第二 警部長ハ國事警察ニ付テハ直ニ内務卿ノ命令ヲ奉シ又ハ直ニ其事情ヲ具狀スル

第一類 府縣官職制

コトアルヘン

▲(明治十七年五月第四十八號達收稅長ノ項追加)
收稅長

第一 收稅長ハ事ヲ府知事縣令ニ承ケ收稅ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス
第二 收稅長ハ收稅檢査ノ景況報告書及ヒ收入金員科目ヲ記載シタル計算書ヲ作リ府知事縣令ノ檢印ヲ受ケ之ヲ主稅官長ニ報告ス

第三 收稅長ハ收稅事務ニ付直ニ主稅官長ノ指揮ヲ受ケ又ハ直ニ之ヲ具申スルコトアルヘシ

屬 一等ヨリ十等ニ至ル

屬ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ庶務ヲ分掌ス

警部 (明治十四年十二月第百十一號達ヲ以テ) 警部ノ等級ヲ廢シ警部警部補ヲ置ク

警部ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ管内ノ警察ヲ掌ル

▲(明治十七年五月第四十八號達ヲ以テ收稅屬ノ項追加)
收稅屬

各其主務ニ従事ス

▲(明治十四年三月第十六號達典獄ノ項追加)

典獄

典獄ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ監署ノ事務ヲ總理ス
副典獄

掌典獄ニ亞ク

書記

各主務ニ従事ス

看守長

監獄ノ戒護ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ觀察ス

看守

監獄ノ戒護ニ従事ス

郡長 八等相當 一人

▲(明治十六年二月第十號達但書追加)

但特別ノ詮議ヲ以テ委任トナスヲ得

第一 郡長ノ俸給左ノ如シ(明治十六年二月第十號達改正)

一等給 八拾圓 二等給 七拾圓 三等給 六拾圓 四等給 五拾圓

五等給 四拾五圓 六等給 四拾圓 七等給 三拾五圓 八等給 三拾圓

第二 郡長ハ該府縣本籍ノ人ヲ以テ之ニ任ス

第三 郡長ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ法律命令ヲ郡内ニ施行シ一郡ノ事務ヲ總理ス

第四 郡長ハ法律命令及ハ規則ニ依テ委任セラルルノ條件及府知事縣令ヨリ特ニ分任ヲ受ケル條件ニ付テ便宜處分シ云後ニ府知事縣令ニ報告ス

第五 郡長ノ處分不當ナルハ府知事縣令ヨリ取消ヲ命セラル、コアルヘシ

第六 郡長ハ町村戸長ヲ監督ス

▲(明治十一年十月第四十五號達郡書記ノ項改定)

郡書記 十等ヨリ十 定員ナシ

郡書記 七等ニ至ル

郡書記ノ俸給ハ地方稅ヨリ支出ス其額ハ府知事縣令ノ適宜ニ定ムル所ニ從フ其選任進退ハ郡長ノ具狀ニ依リ府知事縣令ノ命スル所タリ

市街ノ地ニ置ケ所ノ區長並書記ハ總テ郡長郡書記ニ同シ

- 第一 郡ヲ分テ及數郡ニ一郡長ヲ置キ及區ヲ定ムル事
- 第二 郡區經界ノ組替及町村ノ飛地組替ノ事
- 第三 官給ニ係ル經費ヲ豫算シテ一歳ノ常額ヲ定ムル事
- 第四 例規ナキ官金出納ノ事
- 第五 官金管守ノ規則及爲替又ハ預メノ方法ヲ設クル事
- 第六 府縣官舎及監獄ヲ新ニ建築スル事
- 第七 水旱災ニ罹リシ者ノ租稅延納ヲ許ス事

第八 水火災ニ罹リ家屋蕩盡スル者租稅皆濟期限後ニヶ月以外延期ノ事

第九 地種變換ノ事

第十 土地ノ變替ニ依リ地租ヲ減スル事

第十一 地價ヲ檢シテ租額ヲ定ムル事

但(明治十四年五月第三十八號達ヲ以テ但書削除)

第十二 河港道路堤防橋梁開墾等ノ類他管ニ關涉スルモノ及定額外官費ノ支出ニ係ル土功ヲ起ス事

第十三 諸貸下金返納期限六ヶ月以外ノ延期ヲ許可シ又ハ之ヲ棄捐スル事

第十四 官林伐採ノ事

但治水修路ノ爲メ三等官林ノ竹木ヲ用ユルハ此限ニ在ラス

第十五 官地官宅及其木石ヲ賣却スル事

第十六 酒類ノ稅率ニ用ユル價ヲ定ムル事

第十七 官用ノ爲メ土地ヲ買上ル事

第十八 社寺除稅地ノ境域ヲ更正スル事

第十九 官林拂下ノ事

官民有禁伐林ノ事

森林地及竹木官民有ノ區別ヲ定ムル事

第一類 府縣官職制

- 第廿二 鑛山借區境界ノ事
- 第廿三 鑛山借區稅猶豫並ニ減免ノ事
- 第廿四 抗法違犯ノ者處分ノ事
- 第廿五 舊金銀貨及通貨損傷ノモノヲ交換スル事
- 第廿六 外國人内地旅行ノ事
- 第廿七 外國人居留地外住居ノ事
- 第廿八 居留地々所外國人へ競貸ノ事
- 第廿九 内外人結婚願ヲ許可スル事
- 第三十 學校補助金ヲ例規外支消スル事
- 第卅一 私立學校ヲ停止スル事
- 第卅二 府知事縣令ノ名ヲ以テ外國人ト條約ヲ結フ事
- 第卅三 府知事縣令ノ名ヲ以テ官金辨償トナルヘキ貸借ノ契約ヲナス事
- 第卅四 例規ナキ恩典ヲ施行スル事
- 第卅五 (明治十三年十一月第六十二號達追加)社寺創立再興復舊等員數増加ニ係ル願ヲ許否スル事
- 第卅六 (明治十四年五月第三十八號達追加)開墾地畝下十ヶ年荒地免稅五ヶ年ヨリ以上ノ年季ヲ付與スル事

但繼年季ヲ要スル時當初ヨリ通算シテ此年限ヲ越ユルモノモ本文ニ準ス

- 一 布告布達達指令ヲ以テ專任サレタル事件並ニ定規成例アルノ事件ハ地方官各自ノ責任ヲ以テ處分シ上司ニ稟請スルノ例ニ在ラス其例規ニ依リ難キ事情アリテ特別ノ處分ヲ要スルモノニ限リ理由ヲ具シテ申請スルヲ得
 - 一 諸會社設立願、諸鑛開採願、圖書版權願、賣藥願等ノ條例規則ニ依リ地方官ヲ經由スル者ハ府縣掌管ノ事務各省ニ稟請スルノ類ト同シカラサルヲ以テ知事令ハ事實ヲ公證スル爲ニ稟書若クハ加印シテ主務ノ省ニ進達スルモノトス
 - 一 嗣後發行スル法律規則中ノ條件府縣長官ノ上司ニ稟請シテ然ル後處分スヘキモノハ毎件明文ヲ掲クヘシ
 - 一 事重大ニ屬シ例規ナキモノ及非常ノ事件ヲ除クノ外凡ソ地方ノ常務前條々ニ掲載セサル條件ハ地方長官ノ便宜處分シテ後ニ報告スルヲ許ス
- 戶長職務ノ概目
- 第二 布告布達ヲ町村内ニ示ス事
 - 第二 地租及諸稅ヲ取纏メ上納スル事
 - 第三 戶籍ノ事
 - 第四 徵兵下調ノ事
 - 第五 地所建物船舶買入書入並ニ賣買ニ稟書加印ノ事

第一類 府縣官職制

- 第六 地券臺帳之事務人並ニ其事務ニ負任スル事
- 第七 迷子拾兒及ヒ行旅病人變死人其他事變アルトキハ警察署ニ報知ノ事
- 第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事
- 第九 孝子節婦其他篤倫ノ者ヲ具狀スル事
- 第十 町村ノ幼童就學勸誘ノ事
- 第十一 町村内ノ犬民ノ印影簿ヲ設置スル事
- 第十二 諸帳簿保存管守ノ事
- 第十三 官費府縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存ニ係ル物ニ就キ利害ヲ具狀スル事
- 第十四 右ノ外府知事縣令又ハ郡區長ノ命令スル所ノ事務ニ規則又ハ命令ニ依テ從事スヘキ事其他町村限リ道路橋梁用惡水ノ修繕掃除等凡ソ協議費ヲ以テ支辨スル事件ヲ幹理スルハ此ニ掲ケル所ノ限ニ在ラズ
- 第十五 地方ノ事務郡區長ニ於テ處分シテ後知事令ニ報告スルヲ得ルモノ左ノ件々トス
- 第一 徵稅並地方稅徵收及不納者處分ノ事
- 第二 徵兵取調ノ事
- 第三 身代限財產取扱ノ事
- 第四 逃亡死亡絶家ノ財產處分ノ事

- 第五 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事
 - 第六 電線道路田畑水利ニ障礙アル官有樹木ヲ伐採スル事
 - 第七 河岸地借地檢査ノ事
 - 第八 職遊獵願威銃願ノ事
 - 第九 印紙野紙賣捌願ノ事
 - 第十 小學校學資金ノ事
 - 右ノ外府知事縣令ヨリ特ニ委任スル條件
- 第四款 府縣官職制中心得 明治十二年六月内務省乙第二十九號(府縣)へ達
- 明治十一年太政官第三十二條達府縣ノ事務主務省ニ稟請スヘキ條款第九第十五ニ關係アル土地處分ノ内左ノ件々委任候條其府縣限リ處分ノ後當省へ可届出此旨相達候事
- 一 市街宅地接續ニテ一區域ノ宅地ヲ爲スニ足ラサル間地ヲ賣却スル事
 - 一 耕地宅地ニ非ラサル民有地ヲ共葬墓地ニ撰定スル事
 - 一 既成開墾ニ係ル地所ヲ例規ニ照シ素地相當代價ヲ以テ拂下ル事
 - 一 但河川ノ附寄洲及ヒ森林ニ係ル地所ハ此限ニアラス
 - 一 報時鐘鼓ナル敷地ヲ例規ニ依テ拂下ル事
 - 一 官有寺社寺境内ヲ例規ニ依リ民有地ニ下渡スル事

- 一 廢合寺院跡地ヲ例規ニ依リ虞分スル事
 - 一 公立ノ中小學校ヲ建設スルニ臨ミ其敷地ヲ例規ニ依リ附與スル事
 - 一 民有地ノ用惡水路溜池敷井溝敷地與廢處分スル事
 - 但河身ニ關係アル用惡水路ハ此限ニアラス
 - 一 社寺境外土地ヲ例規ニ依リ拂下ル事
 - 但森林ニ係ル地所ハ此限ニアラス
 - 一 社寺境外土地ノ分其所有者ヲ例規ニ依リテ定ムル事
 - 但森林ニ係ル地所ハ此限ニアラス
 - 一 社寺境外ニ屬スル舊神官僧侶舊修驗從來ノ居住地ヲ例規ニ依リ處分スル事
- ▲明治十八年五月内務省甲第十六號(府縣)へ達
- 一 官國幣社、社入金遺拂並豫備蓄積金處分ノ事
 - 一 同經費ヲ以テ常用器用品新調修繕ノ事
 - 一 同不用ノ建物古材賣却ノ事
 - 一 同社營建物改造修繕ノ事
 - 一 同寄附物品ノ事
 - 一 同神官派出出京養病歸省ノ事
 - 一 社寺廢合跡建跡處分ノ事

- 一 同什物祠堂金及持添田畑山林處分ノ事
 - 但寶物古文書ハ此限ニアラス
 - 一 同境內官有地ノ樹木伐採處分ノ事
 - 一 同境內民有地へ記念碑建設處分ノ事
- 右件々委任候條府縣限リ致處分其都度可届出此旨相達候事
- ▲明治十八年五月内務省丙第一號(官國幣社)へ達
- 別紙甲第十六號ヲ通各府縣へ相達候條自今願伺共地方廳へ可差出此旨相達候事
- (別紙ハ上ニ出ツ)
- ▲明治十一年十二月内務省乙第八十號(府縣)達
- 本年第十七號公布及ヒ第三十二號公達中左ノ條々處分方心得ヲ爲メ相達候事
- 一 第十七號公布第六條每町村ニ戸長一員ヲ置ク云々右戸長旅行病氣忌引等ニテ不在ノ節ハ用掛筆生又ハ手傳人等ヲ以テ其職務ヲ取扱ハシムルヲ得
 - 一 第三十二號府縣官職制中郡區長ニ於テ處分ノ後報告スル條件及ヒ府知事縣令ヨリ特ニ委任スル條件ヲ除ク外部下人民ノ願伺書等ハ長官宛ニテ差出サスヘシ其郡區役所ヲ經由スルト否サル下ハ地方ノ便宜ニ從フ可シ
 - 一 郡區吏員任免ノ際赴任或ハ歸郷又ハ其申付ノ節居住地ヨリ本廳迄出頭スル旅費ハ地方稅規則第三條第七項ニ照準シ其給額ハ府知事縣令ニ於テ適宜ニ制定ス可シ

一郡區長書記ハ一般ノ官吏ト同シク商賈ノ營業相成ラサル儀ト心得ヘシ

▲明治十八年二月内務省甲第四號達本項廢止

▲明治十一年十一月内務省乙第七十三號(府縣)達

- 本年第三十二號公達中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事
 - 一府縣ノ事務主務ノ省ニ稟請シテ後處分スヘキ條目中第三十項ニ掲載スル學校補助金云々ハ全ク文部省ヨリ下附ノ補助金ノミヲ云フ地方稅費目中第五項ノ府縣立學校費及ヒ小學校補助費ト混セサルヘシ
 - 一郡書記職制中郡書記等級ハ一般官等ニ相當スル者ニ付其辭令書ニハ何等相當ノ旨ヲ付シテ申付ヘシ別ニ何等書記ノ名義ヲ付スルヲ得ス
 - 一郡區長不參ノ節ハ書記ヲシテ代理セシムルモ苦シカラス
 - 一郡區長及書記ハ府知事縣令ニ於テ任期例ニ準據シ一々年職務勉勵拔群ノ者ニハ賞譽スルヲ得ヘシ其費額ハ地方稅ヲ以テ支給スヘシ
 - 一郡區長及書記出張旅費等ハ府知事縣令ノ見込ヲ以テ適宜ニ之ヲ定メ地方稅ヨリ支辨ス
- ▲明治十一年十一月内務省乙第七十八號(府縣)達
- 本年第三十二號公達中左ノ處分方心得ノ爲メ相達候事
- 一府縣官職制ニ據リ郡區長ニ於テ其擔任ノ事件ヲ施行スル文書ニハ郡區長ノ名印ヲ用ユ

▲凡民ヨリ指出ス願伺書等其郡區長ノ擔任ノ事件ニ係ル者ハ亦郡區長ノ名宛ヲ用キ

▲但郡區長及書記ノ官名印ハ地方稅ヲ以テ彫刻セシムヘシ

一從前府縣廳ニ於テ取扱タル諸營業鑑札自今郡區役所ニ委任シテ取扱ハシムル者ハ郡區役所ノ名ニ改ムヘシ

一但賣藥營業鑑札等ノ如キハ是迄ノ通ト心得ヘシ

一郡區長及書記職務上ノ過失ヲテハ官吏懲戒例ニ依リ處分スヘシ

一郡區長及書記ノ任免等ハ府縣吏同様ニ其姓名並給料等其都度届出ツ可シ

一郡區役所ニ於テ採用スル諸員ハ(用掛筆生等)准等ナキモノト心得ヘシ

一但戶長ノ等給ハ從前ノ通リタルヘシ

一戶長職務ノ概目第五項ニ地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ與書加印ノ事ト有之右ハ七年當省乙第三十三號達ノ通リ與書證印ハ戶長ノ實印ヲ押シ割印ハ戶長役所印ヲ相用

若シ數町村ニ戶長一員ヲ置ク片ハ其役所印ノ冠字ハ戶長ノ管理スル所ノ各町村名ヲ列記ス可シ

▲明治十一年十二月内務省乙第八十一號(府縣)達

本年第三十二號公達中左ノ條項處分方心得ノ爲メ相達候事

一郡長職制中第六項ニ郡長ハ町村戶長ヲ監督ス云々郡長ハ行政事務委任ノ權内ニ付テハ

一 戶長ニ命令スルノ權アリト心得可シ
一 明治十七年二月同省乙第十二號(達改正)郡區長ノ席順ハ月俸ノ多寡ニ據リ其月俸同シ
キモノハ拜命ノ前後ニ依ル

但委任郡區長ハ總テ判任郡區長ノ上席トス

▲明治十一年十二月内務省乙第八十二號(府縣)達

本年第三十二號公達中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一 郡區長郡區書記ノ滿年賜金ハ地方稅ヨリ支給スヘシ

一 府縣官ヨリ郡區長郡區書記ニ轉任スル者並ニ郡區長郡區書記ヨリ府縣官ニ轉任スル者
ハ各々其原任ノ勤績ニ依リ其際一旦打切滿年賜金ヲ給スヘシ

▲明治十六年二月第七號布告

郡區長ノ給料及ヒ旅費ハ來ル十六年度以後國庫ヨリ支辨スヘシ

右奉 勅旨布告候事

▲明治十六年三月内務省乙第九號(府縣)達

今般第七號布告ニ付テハ郡區長ニ屬スル滿年賜金其他ノ諸給與共渾テ國庫ヨリ支辨ノ答
ニ候條此旨相達候事

▲明治十六年五月内務省乙第二十五號(府縣)達

郡區長給料十六年度以後國庫ヨリ支辨相成トイヘシ滿年賜金ノ儀ハ打切ニ不及儀ト可心

得此旨相達候事

▲明治十一年十二月内務省乙第八十五號(府縣)達

本年第三十二號公達中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一 凡ソ府知事縣令ヨリ專任ヲ得タル條件ニ付郡區長ヨリ人民ニ許可ヲ予フル者ハ郡區長
ノ權ヲ以テシ其免許鑑札モ郡區長ノ權ヲ以テスヘシ
但當分在來ノ分ハ舊鑑札ヲ用ユルモ妨ケス

一 町村戶長ノ役場ハ其町村ノ便宜ニヨリ私宅ニ於テ事務ヲ取扱ハシムルモ苦カラス

▲明治十二年三月内務省乙第十三號(府縣)達

明治十一年第三十二號公達ニ付左ノ條款處分方心得ノ爲メ相達候事

一 官林貸渡ハ官林伐採土石賣却ニ準シ稟請スヘシ

一 部分木拂下ハ官林木ニ準シ稟請スヘシ

一 郡長職務中ニ掲載アル官有樹木ヲ伐採スルハ電線ヲ犯シ道路ヲ妨ケ田畑上ニ横出シ堤
脚ヲ動越スルノ類總テ直接ノ障害ヲ爲スモノニ限ルヘシ

▲明治十三年五月内務省乙第二十號(府縣)達

明治十一年第三十二號達郡區長(東京府市街區長ヲ除ク)ノ班ハ府縣一等屬ノ上トナシ郡
區書記ハ同等屬官警部ノ次トナス此旨爲心得相達候事

▲明治十三年五月第三十一號(官省院使府縣(東京府ヲ除ク))達

第一類 府縣官職制中心得 官吏ノ席次

東京府下區長月俸自今百圓以下適宜給與差許候條此旨爲心得相達候事

▲明治十二年十一月第四十八號(官省院使府縣)達

勅任ノ府知事縣令ハ三等官ニ被定候條此旨相達候事

▲明治十四年十二月內務省乙第五十五號(府縣)達

明治十二年(七月)第三十二號公達府縣官職制中郡區長ニ於テ處分スヘキ條目第五項ニ掲載有之倒木枯木云々ハ天災ノ爲ニ轉倒シタル者及ヒ天然枯死ノ者ニ相限リ候義ニテ其枝條若クハ樹幹ノ幾分ヲ枯凋シタル損木ノ如キハ本項ニ含蓄セサル儀ト可心得此旨相達候事

▲明治十六年六月內務省乙第二十九號(府縣)達

戶長印章ノ儀ハ八年第一百號達判任官同様タルヘキ旨相達置候處布告達ニヨリ實印ヲ押捺スル分ヲ自今官印ヲ用ヒシヘン此旨相達候事

▲明治十三年七月內務省乙第三十號(府縣)達

郡區長ヨリ請裁判所ヘ往復スル文書ハ一般掛合回答ノ文体ヲ用ヒ可申様豫テ郡區長ヘ示置クヘン此旨相達候事

○第五款 官吏ノ席次

▲明治十六年十二月第六十號(官省院廳府縣)達

委任府知事縣令ノ席次自今各官省院廳四等官ノ上席ト被定候條此旨相達候事

▲明治十七年二月第十八號(府縣)達

警部長ト委任郡區長トノ席次左ノ通相定候條此旨相達候事

警部長ハ委任郡區長(東京府區長ヲ除ク)ノ上席トス

▲明治十七年八月第六十七號(府縣)達

收稅長ノ席次ハ月俸ノ多寡ニ拘ラス警部長ノ次席委任郡區長(東京府區長ヲ除ク)ノ上席ト相定候條此旨相達候事

▲明治十五年一月第六號(府縣)達

郡區長郡區書記席次左ノ通相定候條此旨相達候事

一郡區長(東京府區長ヲ除ク)ハ府縣一等屬典獄ノ上席トス

一郡區書記ハ月俸ノ多寡ニ拘ハラヌ其官等ニ依リ府縣同等官ノ下席トシ其官等相當ノ俸

一給ヲ受ケル無等判任官ノ上席トス

▲明治十七年二月內務省乙第十二號(府縣)達

明治十一年(十二月)當省乙第八十一號達第二項左ノ通改正候條此旨相達候事

一郡區長ノ席順ハ月俸ノ多寡ニ據リ其月俸同シキモノハ拜命ノ前後ニ依ル

但委任郡區長ハ總テ判任郡區長ノ上席トス

▲明治十四年五月第四十六號(官省院使府縣)達

無等判任官以下席次左ノ通相定候條此旨相達候事

一無等判任官ト有等判任官トノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキ者ハ有等判任官ヲ以テ上席トス

一無等判任官中ノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキ者ハ任官ノ前後ニ依ル

一無等准判任官ハ月俸ノ多寡ニ拘ハラズ判任官ノ次席トス其同官中ノ席次ハ前項ノ例ニ同

一無等等外吏及准等等外吏ハ前三項ノ例ニ同

一布告達ニ於テ特ニ席次ノ定制アルモノハ前四項ノ例ニ在ラス

▲明治十六年十一月第四十九號(官省院廳府縣)達

戶長及ヒ府縣立町村立學校職員ノ席次ハ其官等ニ依リ同等官及ヒ其官等相當ノ俸給ヲ受ル無等判任官ノ下席トス

但戶長ト學校職員ト同等ナル時ハ戶長ヲ以テ上席トス

右相達候事

▲明治十五年五月第二十七號(官省院廳府縣)達

巡查下等外吏トノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキモノハ巡查ヲ以テ上席トス右相達候事

○第六款 地方巡察條規

明治十六年四月第十八號(官省院廳府縣)達

地方巡察條規左ノ通相定候條此旨相達候事

地方巡察條規

第一條 行政官吏服務紀律第十二條ニ隨ヒ臨時巡察使ヲ地方ニ派遣スヘシ

第二條 巡察使ハ勅任官中ヨリ臨時特選ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 全國ヲ五部ニ分チ各部巡察使ヲ派遣ス

第四條 巡察使ハ法律規則ノ實施行政事務ノ舉否利弊ヲ檢視シ官吏服務紀律ニ照シテ功過ヲ檢シ並ニ治蹟ヲ察スルヲ以テ務トス

第五條 巡察使ハ各官署ニ臨ミ主任官ニ就テ事務ノ狀況ヲ訪問シ其簿冊文書等ヲ檢スルヲアルヘシ尤モ其行政處分ニ干預スルヲ得ス

第六條 巡察使領臺鎮守府又ハ營所アル所ニ到ル片ハ事宜ニヨリ行政事務ト軍務トノ關係ニ付事狀如何ヲ訪問スルコトアルヘシ

第七條 巡察使ハ其巡察檢視スル所ノ事狀ヲ具ヘ大政大臣ニ上申スルヲ以テ其職ヲ終ル者トス(參看)明治十五年七月第四十四號公達中抄出

第十二條 臨時巡察使ヲ派出シテ官吏ノ治蹟及ヒ功過ヲ檢察シ狀ヲ具シテ直ニ大政大臣ニ上申セシムヘシ

○第七款 官吏服務紀律中心得

明治十五年七月第四十五號(官省院廳府縣)達

第一類 地方巡察條規 官吏服務紀律中心得 官吏非職條例 四百八十一

本年第四十四號逕行行政官吏服務紀律ハ司法官吏ニ通用スヘシ但第三條ノ判事ニ於ケルハ此限ニアラス

判事檢事ノ職務ニ關シ他人ノ贈遺ヲ受クルヲ得ス故ニ第七條ハ通用ノ限ニアラス
右相達候事

▲明治十五年七月廿七日無號(官省院廳府縣)達

今般行政官吏服務紀律施行候ニ付テハ各長官ニ於テ厚ク注意ヲ加ヘ將來嚴肅ニ取締相立候様各所屬官ヘモ告示ニ可及尤モ本紀律施行以前ノ事件ハ其ノ自新ニ任セ更ニ檢舉ニ及ハス此旨可相心得事

○第八款 官吏非職條例 明治十七年九月第七十七號(官省院府縣)達

本年(一月)第三號逕行官吏非職條例中左ノ通追加候條此旨相達候事

第七條 非職員ハ特ニ本屬長官ノ許可ヲ得テ地方病院學校及農工商陸海運輸等會社ノ業務ニ從事シ其役員ト爲ルコトヲ得

本屬長官ハ其非職員ノ勅任官ニ係ルモノハ上裁ニ依リ奏任官ニ係ルモノハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ許可ス

第八條 非職中第七條ノ業務ニ從事シ其給料ヲ受クルノ時間ハ第五條ノ俸給ヲ支給セ

○第九款 武官非職條例 明治十六年十一月海軍省 丙第百三號(海軍一般)達

海軍武官非職條例左ノ通相定ム此旨相達候事
但明治十三年二月丙第九號逕行廢ス

海軍武官非職條例

第一條 此條例ハ將校准將校准士官下士ノ非職定規ヲ揭クル者トス

第二條 將校准將校非職ニ入ルノ事項ハ免職條例ノ定規ニ據ル者トス

第三條 准士官及ヒ下士ニシテ現ニ海軍ノ職務ナキ者ヲ非職ト稱ス

第四條 非職將校准將校及ヒ准士官ハ直ニ海軍卿ニ隸シ下士ハ鎮守府ニ於テ管轄スル者トス

第五條 在職ノ准士官及ヒ下士ハ左ニ記列スル事項ノ一ニ因ラサレハ非職ニ入ラシメス

第一 廢職(職務ヲ廢止シ又ハ定員ヲ減少スルノ類ヲ云フ)

第二 敵ノ俘虜ヨリ歸來シタル者但當時他員代リテ其職ニ任シタル者

第三 傷痍疾病六ヶ月以上ニ至リ瘡快復ノ候ナキ者
但代員ヲ要スルハ六ヶ月以内ト雖モ非職ニ入ラシムルコトアリ

第六條 准士官及ヒ下士ヲ非職ニ入ラシムルハ前條ノ如シト雖モ滿三年以上引續キ在職ノ者或ハ品行不正等ノ事アルト認ムル者ハ海軍卿ノ意見ヲ以テ臨時非職ニ入ラシムル

コアル可シ
 第七條 非職ニシテ特命ヲ命セラレタル准士官以上ハ指定ノ地ニ滞在シ其下士ハ在營スル者トス
 第八條 下士ノ職務ヲ免スル所管長官ノ權内ト雖モ時宜ニ依リ艦船長之ヲ免スルヲ得但職務ヲ免スルハ必ス特命ヲ命ス可シ
 第九條 下士ノ特命ヲ免スルハ鎮守府長官海軍卿ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スル者トス
 第十條 非職員時宜ニ依リ左項ニ限リ官民ノ依頼ニ應シ其業務ニ從事スルヲ許ス
 第一 官民ノ依頼ニ應シ其所有ノ船舶(西洋形)ノ乗組員ト爲リ或ハ陸上ニ在テ該船舶ノ事務ニ從事スル事
 第二 官民ノ依頼ニ應シ其所有ノ造船所又ハ製造所ノ所務ニ從事スル事
 第三 公私立學校ノ依頼ニ應シ校務ニ從事スル事
 第四 公私立病院ノ依頼ニ應シ院務ニ從事スル事
 第五 前項ノ外ト雖モ其職分ニ相當スル諸業ニ從事スル事
 第十一條 非職員前條ノ業務ニ從事セント欲スルハ其旨ヲ詳記シ出願ス可シ
 第十二條 非職員第十條ノ業務ニ從事スル者ハ相當ノ給料ヲ受クルヲ得
 第十三條 非職員東京府管外ニ住居ヲ定メント欲スルハ其地方ヲ詳記シ出願ス可シ但其管内ハ届出可シ

第十四條 非職員東京府管外ニ居住ノ片ハ其發著日限及住所ヲ届出又現住ノ地方管内ニテ轉居スル片ハ其住所ノ届出可シ但現住地方管外ニ轉居セントスルハ出願ス可シ
 第十五條 非職員十里以外旅行スル片ハ其場所ヲ詳記シ發著ノ都度届出可シ
 第十六條 非職員不治ノ傷痍疾病ニ罹リ職務ニ堪ヘ難キ者ハ醫員ノ診斷書ヲ添ヘ届出可シ
 第十七條 非職員ノ俸給其他支給法ハ別ニ成規アルヲ以テ茲ニ掲ケス

○第十款 官吏商賈ノ營業區分

明治八年四月第六十五號(院省使廳府縣)へ達

官吏商賈ノ營業不相成ハ勿論ニ候處其區分判然タラサルニ付自今左ノ通被定候條此旨相達候事

但從前ノ指令之レニ抵觸スルモノハ廢止ト可心得事

第一條 一凡ソ官吏タルモノ並ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘ハニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事

▲(明治八年十月第七十六號ヲ以テ但書左ノ如ク改正)

但神官教道職區戸長郵便取扱人學區取締役及ヒ等外吏ノ分ハ此限ニアラス

第二條 一官吏ノ家族自己ノ財ヲ以テ商賈ノ業ヲ營マント欲スル者ハ分籍別居ノ上相營

ムル事

第一類 官吏商賈ノ營業區分

第三條 一左ノ數件ハ商買ノ業ニアラサルニ付官吏タルモノト雖トモ制禁ニアラサル事
但商買同様ノ店ヲ開クハ不相成候事

▲(明治八年五月第八十七號達ヲ以テ第一項左ノ如ク改正)

- 一 鑛山借區營業及ヒ田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事
- 一 田地家屋ヲ貸シテ地代宿賃ヲ獲ル事
- 一 金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事
- 一 所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂事

▲明治十一年一月海軍省丙第十七號達

官吏商業不相成儀ハ明治八年四月第六十五號公達ノ趣モ有之候處軍人軍屬ノ儀ハ一等卒以下ト雖モ軍艦乘組等級表ニ列載スル者ハ自今左ノ通可心得此旨相達候事

一 他ノ物品ヲ買入之ヲ餘人ニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ義一切禁止ノ事

▲明治八年八月第五百五十二號(院省使廳府縣)達

官地官林及ヒ不用ノ物品等公ケノ入札法ヲ以テ拂下候節其官廳ニ屬スル官員ニ限リ本人ハ勿論其代理人ト雖モ投票爲致候義不相成候此旨相達候事

▲明治十四年五月第三十七號(官省院使廳府縣)達

官吏商業區分ノ儀ニ付テハ兼テ相達候趣モ有之候處自今道路河港ノ修築海陸ノ運輸土地

ノ開墾及ヒ殖産ノ事業ヲ以テ目的ト爲シ設立シ會社ノ株主トシテモ不苦候條此旨相達候事

▲明治十四年五月陸軍省達乙第二十八號達

官吏商買ノ營業不相成儀ハ明治八年第六十五號ヲ以テ御達相成居候處今般後備軍艦員(諸官廳ニ奉職スル判任官以上ノ者ヲ除ク)ニ限リ營業被差許候ニ付其業體ニ依リ認可スヘキ旨御達相成候條自今右望ノ者ハ其業體ヲ詳悉シ所管領臺ヲ經テ當省ヘ可申出此旨相達候事

但營業上ニ付テハ其官名ヲ稱スルヲ不得儀ト可相心得事

▲明治十一年十二月內務省乙第八十號(府縣)達ノ內第四項

一 郡區長書記ハ一般ノ官吏ト同ク商買ノ營業相成サル儀ト心得ヘシ

○第十一款 官吏懲戒例

明治十三年一月第四號
(官省院使府縣)へ達

明治九年(四月)第三十四號達官吏懲戒例第四條左ノ通改定候條此旨相達候事

第四條 罰俸ハ一月分十分ノ一ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ

俸ヲ追ヌルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領當シ數滿テ大藏省ニ送付ス

▲明治十二年十一月內務省乙第七十八號(府縣)達ノ內第三項
一 郡區長及書記職務上ノ過失アラハ官吏懲戒例ニ依リ處分スヘシ

▲明治十八年二月内務省甲第四號(府縣)達
戸長職務取扱上過失アルトキハ總テ官吏懲戒例ニ依リ處分スヘシ但明治十一年乙第八十
號達第五項ハ廢止ス
右相達候事

○第十二款 華族懲戒例

明治十八年一月十日
號外(華族一般)へ達

今般華族懲戒例左ノ通改正候條此旨相達候事

華族懲戒例

第一條 華族ノ品位ヲ保護スル爲ニ懲戒處分ノ例ヲ設ク
第二條 華族懲戒ノ權ハ之ヲ宮内卿ニ委任シ上裁ヲ得テ處分ヲ行ハシム
第三條 公ニ風致ヲ亂リ又ハ家産ヲ浪費シ華族ニ必要ナル品位ヲ失フ者ハ懲戒ノ處分ヲ
行フヘシ但隱微曖昧ノ事ハ懲戒ノ限ニ在ラズ
第四條 懲戒ヲ分テ三種トス

第一 譴責

第二 謹慎

第三 除族

第五條 譴責ハ宮内卿ヨリ譴責書ヲ付シ戒悔スル所アラシム

第六條 謹慎ハ十日以上二年以下外出ヲ禁シ自宅ニ於テ謹慎ヲ守ラシム

第七條 失行重大又ハ懲責ヲ受テ猶ホ悛改ノ跡ナク華族ニ必要ナル品位ヲ有ツコト能ハ
サル者ハ其族ヲ除クヘシ

此條ハ刑法第三十一條ト相抵觸スルコトナシ

第八條 前條ノ場合ニ於テ情輕キ者ハ子孫又ハ他ノ親屬ヲシテ爵ヲ襲カシムヘシ親屬ナ
キ者ハ家ヲ除ク

第九條 華族ノ戸主ハ其子弟及ヒ家屬ヲ檢束スルノ責ヲ負フヘシ

第十條 華族ノ戸主幼年ナル者ハ後見人代テ其子弟及家屬ヲ檢束スルノ責ヲ負フヘシ

第十一條 華族ノ子弟及家屬ニシテ第七條ニ當ル者ハ其身ノミ華族ノ屬籍ヲ除クヘシ

第十二條 華族ノ犯罪輕罪以上ニ觸ル者ハ司法ノ裁判ヲ經タル後其情狀ニ從ヒ更ニ懲
戒ノ處分ヲ行フヘシ

第十三條 前條ノ場合ヲ除ク外懲戒處分ヲ行フニハ豫メ本人ニ通知シ其事情ノ審問ヲ必
要トシ又ハ本人ヨリ審問ヲ請求スルトキハ宮内卿ハ上旨ヲ得テ華族五人ヲ撰任シ審問
委員トナシ審問シテ狀ヲ具ヘ上申セシムヘシ

第十四條 審問委員ハ宮内卿ヨリ下附シタル事件ノ外ニ涉リ審問スルコトヲ得ス

第一編 華族懲戒例 乘馬飼養令

第十五條 華族ノ犯罪司法ノ裁判ヲ經放免セラレタル者仍ホ其情狀ニ從ヒ懲戒ノ處分ヲ行フコトアルヘシ

第十六條 華族懲戒ノ處分ハ不服ヲ以テ太政官ニ請願シ又ハ裁判所ニ控訴スルコトヲ得ス

第十七條 華族懲戒ノ處分ヲ受ケタルモノハ宮内卿ヨリ警察官ニ通知シ將來ノ行儀ヲ監察セシム

第十八條 除族ノ處分ヲ受テ情輕キ者後改ノ事實アルトキハ五年ノ後上旨ニ由リ復族セシムルコトアルヘシ

除族情重ク親屬襲爵ヲ得サル者十年ノ後上旨ニ由リ親屬ニ襲爵ヲ命スルコトアルヘシ但本人ハ終身復族ヲ許サス

○第十三款 乘馬飼養令 明治十八年六月第二十八號(官省院廳府縣)へ達

明治十七年(八月)第六十六號達乘馬飼養令中左ノ通加除候條此旨相達候事

第一條「文武官」ノ下ハ(海軍武官)ノ七字ヲ加ヘ但書(海軍武官ハ海上勤務奉職中ノ者ヲ除ク)ノ十七字ヲ削ル

第七條但書「起算」ノ下(シ又海軍武官ノ海上勤務ヨリ陸上勤務ニ轉シタル者ハ其轉職ノ日ヨリ起算)ノ三十三字ヲ削ル

○第十四款 大審院 裁判所職員考績條例 明治十七年十二月司法省號外(大審院裁判所)へ達

大審院裁判所職員考績條例左ノ通相定候條此旨相達候事

大審院裁判所職員考績條例

第一條 考績ハ判事檢事以下職員ノ功過行能ヲ考察シ司法卿ノ銓定ニ供スルモノトス

第二條 考績ノ法四善十最三殿ト爲ス其目左ノ如シ

- 一 操心公正ナルヲ一善トス
- 一 刑行廉潔ナルヲ二善トス
- 一 學識博高ナルヲ一善トス
- 一 職務勉勵ナルヲ一善トス
- 以上四善
- 一 法理ニ精ク事體ニ達シ明斷嚴肅職務整理シ所部ヲ獎勵シ兼テ人望アルヲ院長所長ノ最ト爲ス
- 一 法令ヲ遵奉シ所部ヲ監視シ明敏勇毅能ク職務ヲ盡シ兼テ人望アルヲ檢事長ノ最ト爲ス
- 一 聽訟聰敏與奪理ニ當リ判文申暢ナルヲ民事掛判事ノ最ト爲ス
- 一 審理情ヲ盡シ裁決法ニ適シ判文申暢ナルヲ刑事掛判事ノ最ト爲ス

- 一 糾問敏詳舉證明確判文中暢ナルヲ豫審判事ノ最ト爲ス
- 一 搜查精密起訴嚴明良ヲ扶メ奸ヲ懲シ法律ヲ保護シ公安ヲ維持スルヲ檢事ノ最ト爲ス
- 一 忠恕倦マヌ懇篤勸解シ能ク治安ヲ保維セシムルヲ勸解判事ノ最ト爲ス
- 一 記録詳明文理通達簿冊整頓處務敏捷兼テ書算ヲ善クスルヲ書記ノ最ト爲ス
- 一 清白強幹書算ヲ善クシ出納ヲ謹ミ帳簿ヲ整ヘ勘查明確ナルヲ會計屬ノ最ト爲ス
- 一 供承解ヲス職掌闕クルヲナキヲ附屬員ノ最ト爲ス
- 以上十最
- 一 愛憎情ニ任セ處斷法ニ違フヲ一殿トス
- 一 公ヲ忘レ私ニ徇ヒ職務廢闕アルヲ一殿トス
- 一 諂諛名ヲ求メ巧詐貪汚ナルヲ一殿トス
- 以上三殿

第三條 院長所長檢事長(始審廳ハ上席檢事)ハ各其廳及ヒ管轄廳ノ職員ヲ監視シ其功過行能ノ實ヲ精密調査シ左ノ雜形ニ照準シテ功過明細書ヲ作り毎年九月司法卿ニ上申ス可シ

大審院又ハ職員功過明細書何裁判所

籍 官 氏 名

年 齡

- 一 奉職年月日 本年本月迄何年何月
- 一 赴任年月日 同上
- 一 現時爵位勳等俸給 但何年何月増俸

功ノ部

一 此部ニハ專ラ職務上ノ功績ニ係ル事件ヲ記ス即チ勤勉。年勞。事務練達。裁判允當。公訴嚴正。庶務整理。會計精確。ノ類ナリ

過ノ部

一 此部ニハ專ラ職務上ノ過愆ニ係ル事件ヲ記ス即チ怠慢。闕勤。詭譎。貪穢。事務延滞。裁判不法。起訴錯誤。庶務紛雜。會計無度。其他曾テ懲戒ヲ受ケタルノ類ナリ

行ノ部

一 此部ニハ專ラ品行ノ善惡ニ係ル事件ヲ記ス即チ性質ノ忠邪。刑行ノ良否。交際ノ得失。活潑。慎重。健康。病患。驕奢。淫佚。其他人望ノ有無。親族ノ關係及ヒ負債重積。屢訴訟ヲ受ケタルノ類ナリ

能ノ部

一 此部ニハ專ラ學識才藝ニ係ル事件ヲ記ス即チ法律。經濟。文學等諸般ノ學科ヲ修メ及

ヒ其學位ヲ有シ又ハ才力敏智決斷辯舌書算ヲ善クシ。其他外國語ニ通シ。外國文ヲ綴ルノ類ナリ

備考ノ部

一此部ニハ前四部中ニ記載セサル事項ヲ記ス即チ本人ノ技量。民刑及ヒ檢察事務ノ適否。交際ノ模様。其他學業ノ教授。若クハ著述等ノ類ナリ
右注狀ノ通確實ナルニ依リ此段上申候也

大審院長又ハ何裁判所長

又ハ檢察長檢事

年月日

官 氏 名

○第十五款 判事登用規則

明治十七年十二月第百二號(官省院廳府縣)達

判事登用規則左ノ通相定候條此旨相達候事

判事登用規則

第一條 判事ニ登用スルハ法學士代理人及ヒ試験ヲ行ヒ及第シタル者ニ限ルヘシ

一但外國ニ於テ法學士狀師ノ稱號ヲ受ケタル者ハ尙ホ試験ヲ行フヘシ

第二條 法學士代理人及ヒ試験及第者ヲ登用スル時ハ先ツ始審裁判所ノ御用掛ヲ命ジ一年以上事務ヲ見習ハシメ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ其本官ニ任スルモノトス

法學士ニシテ代理人タルモノハ二年以上其他ノ代理人ハ五年以上其業ヲ務メ學識經驗卓絶ナル者ハ判事定員ニ缺アル時直ニ其本官ニ登用スルコトアルヘシ

御用掛服務一年以上ノ者ハ時宜ニ因リ檢事ニ登用スルコトアルヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ登用スルコトヲ得ス

- 一 丁年未滿ノ者
- 一 品行方正ナラサル者
- 一 身代限ノ處分ヲ受テ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 一 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシ者
- 一 重禁錮一年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經過セサル者
- 一 盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪及ヒ偽證誣告ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 賭博犯ニ付懲罰一年以上ニ處セラレシ者
- 一 懲戒ニ依テ免官ト爲リタル者

第四條 試験ハ司法省ニ於テ隨時之ヲ舉行ス但其期日及ヒ試験出願等ノ手續ハ司法卿之ヲ定メ六ヶ月前ニ告示スヘシ

第五條 司法卿ハ試験ヲ舉行スル毎ニ試験委員及ヒ委員ヲ命スヘシ

第一類 判事登用規則

判事登用試験出願人心得

第六條 司法卿ハ試験科目ヲ定メ試験ニケ月前ニ之ヲ告示スヘシ

第七條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トス但筆記試験ニ不合格ナル者ハ口述試験ヲ爲サ

第八條 試験及第者ニハ試験委員連署ノ及第證書ヲ授與ス

第九條 左ニ掲クル者ハ試験及ヒ御用掛ノ例ヲ用ヒス補缺ノ爲メ直ニ判事ニ任スルコト

- 一 判事補ノ職ヲ奉シ五年以上格勳シ學識經驗判事ノ資格ニ適スル者
- 一 曾テ判事ノ職ヲ奉シ五年以上格勳シ轉官シタル者
- 一 法學士代官人及ヒ試験及第者ニシテ判事ノ職ヲ奉シ轉官シ若クハ法學士ニシテ他

第十條 檢事ノ職ヲ奉シ五年以上格勳シタル者ハ判事定員ニ缺アル時判事ニ轉任セシムルコトスルヘシ

○第十六款 判事登用試験出願人心得

明治十八年一月司法省甲第二號告示

明治十七年太政官第一號達ニ基キ判事登用ノ爲メ當省ニ於テ來ル八月一日ヨリ試験舉行候條志願シ者ハ左ノ條項相心得來ル五月十五日ヨリニ履歴書相添ヘ願出ヘシ但右日限後ハ願書ヲ受理セズ

右告示候事

試験出願人心得

第一條 試験科目ハ試験ニケ月前之ヲ告示ス可シ

第二條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トス (但筆記試験ニ不合格ナル者ハ口述試験ヲ爲サス)

第三條 試験合格ノ者ニハ及第證書ヲ附與ス可シ

第四條 試験及第者ヲ登用スルニハ先ツ始審裁判所ノ御用掛ヲ命シ一年以上事務ヲ見習ハシメ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ本官ニ任セラルヘシ

(但時宜ニ因リ檢事ニ登用セラル、トアルヘシ)

第五條 當期登用人員ハ三十名ヲ限リトス

第六條 登用人員ニ定限アルヲ以テ試験合格者ヲ悉ク登用スルコト能ハサル場合ハ合格者中ニ就キ之ヲ選用ス

第七條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ許サズ

- 一 丁年未滿ノ者
- 一 品行方正ナラサル者
- 一 身代限シ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 一 三重禁錮二年以上刑ニ處セラレシ者

第一類 判事登用試験出願人心得

- 一 重禁錮二年未滿及七輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經一過セル者
- 一 盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪及ヒ偽証誣告ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 賭博犯ニ付懲罰一年以上ニ處セラレシ者
- 一 懲戒ニ依テ免官ト爲リタル者

第八條 現ニ官廳ニ奉職スル者及ヒ徵兵現役ニ該ルヘキ者ハ出願スルヲ得ス
 第九條 法學士代言人ハ試験ヲ行ハス(但外國ニ於テ法學士狀師ノ稱號ヲ受ケタル者ハ尙ホ試験ヲ行フヘシ)

第十條 一タヒ官廳ニ奉職シ免官ト爲リタル者ハ其辭令書ノ寫ヲ願書ニ添ヘ差出スヘシ
 第十一條 試驗願書式履歷書式

願書式 試驗願書 料紙美濃紙

本籍 并ニ戶主嗣子又ハ
 二三男兄弟ノ別
 身分 氏 年 齡

私儀御省本年甲第二號告示ニ基キ試驗相受ケ度此段奉願候也

年月日

司法省御中

現住所

氏名印

前書之通屬籍年齡等相違無之候也

本籍

戶長 某 印

年月日

履歷書式

履歷書 料紙美濃紙

本籍

身分 氏名

年 齡

一 何年何月ヨリ何年何月マテ 府 縣 何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業
 一 何年何月何々(進退賞罰等ニ關スル一切ノ件)

一 御告示第七條各項ニ相觸レ候義ハ一切無之候

年 月 日 氏 名 印

前書之通相違無之候事

本籍

本籍

年月日

某 戸長 某

印

▲明治十八年五月司法省甲第四號告示

明治十七年太政官第百二號達ニ基キ判事登用ノ爲メ當省ニ於テ來ル八月一日ヨリ試驗舉行候ニ付テハ同達第六號試驗ノ科目左ノ如シ

日本刑法 日本治罪法 財産法 契約法 證據法
右告示候事

○第十七款 海軍退職下士文官採用規則

明治十八年六月海軍省乙第八號(府縣へ)

海軍退職下士文官採用規則別冊ノ通相定候條此旨爲心得相達候事
海軍退職下士文官採用規則

第一條 凡ツ退職下士ハ本人ノ志願ニ依リ此規則ニ照シ海軍部内各廳ノ文官ニ採用ス可キモノトス

第二條 左ニ掲クル者ハ文官奉職ヲ志願スルコトヲ得ス

第一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第二 下士トナリ五箇年ニ滿タサル者

第三條 前條第二項ニ當ル者ト雖モ戰役若クハ公務上ノ傷痍疾病ニ因リ退職シ尙ホ文官ノ勤務ニ堪ル者ハ文官奉職ヲ志願スルコトヲ得

第四條 本則ニ據リ文官奉職ヲ志願スルト雖モ平素品行不良ノ者ハ之ヲ許可セス

第五條 志願ハ服役滿期或ハ恩給令第三條ニ掲クル年限ニ達スル前六箇月間又退職後十二箇月間ニ限ル

第六條 志願者ハ左ノ項目ニ照シ試験ヲ爲スモノトス

第一 讀書 日本外史 日本政記ノ類

第二 作文 記事文 公文 通俗文

第三 算術 四則 比例

第四 書體 楷行草

第七條 試験項目ノ外仍ホ他ノ學術試験ヲ受ケンコトヲ請フ者ハ之ヲ許ス

第八條 志願者ニ於テ特別ノ試験ヲ要スル職務ヲ奉センコトヲ願フ者ハ之ヲ許シ第六條ノ試験ニ及第スルト否トニ拘ラズ其試験ヲ受ケンコトヲ得

第九條 第六條ノ試験ハ每一科目全點ヲ百點トシ其全點數ノ十分ノ五以上ヲ得其點數ヲ合算シ總全點數ノ十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第十條 試験及第者ニハ其證書ヲ附與シ落第者ニハ其旨ヲ告知ス可シ

第十一條 試験ハ海軍卿臨時委員ヲ命シ之ヲ施行ス

第十二條 試験委員ハ佐官一名士官三名トス但臨時文官ヲ以テ委員トスルコトアル可シ

第十三條 試験了レバ委員ハ試験成績表ヲ製シ意見書ヲ附シテ海軍卿ニ呈ス可シ

第十四條 第八條ニ掲タル特別ニ試験ヲ要スル職務ハ左如シ

一 技術官

二 測量術ヲ要スル職務

第十五條 特別ニ試験ヲ要スル者ハ第六條ノ試験ヲ爲シタル後各其奉職志願ノ應ニ移シ相當ノ試験ヲ受ケシム

第十六條 特別ノ試験ヲ爲シタル各應ニ於テハ速ニ試験科目書試験成績表及ヒ意見書ヲ附シテ及第者ノ姓名書ヲ海軍卿ニ進達ス可シ而シテ及第者ニハ其證書ヲ附與シ落第者ニハ其旨ヲ告知ス可シ

第十七條 試験及第者ノ名簿ハ其優等者ノ順序ニ從ヒ調製シテ之ヲ總務局ニ備置ク可シ

第十八條 試験及第者名簿ハ試験毎ニ優等者ノ順序ニ從ヒ記載ス優劣ナキ者ハ官等ノ上ナル者及同等官ナル者ハ年長ノ者ヨリ順序ニ記載ス但第二回試験ノ及第者ハ第一回試験ノ及第者ノ次ニ記載スルモノトス其他之ニ準ス

第十九條 第八條ノ特別試験ニ及第シタル者ノ名簿ハ別ニ之ヲ製シ通常試験ノ及第落第ヲ記シ其他ハ前條ノ例ニ準ス但試験ヲ受ケタル應毎ニ調製スルモノトス

第二十條 志願者ハ服役中ニ在テハ第一號書式ニ照シ所管長官ニ宛テ退職後ニ在テハ第二號書式傷痍疾病ニ因リ退職後ニ在テハ第三號書式ニ照シ戸長ノ與書證印ヲ受ケ地方應ヲ經テ海軍省ニ願出可シ

第一號書式 料紙美濃紙 以下做之

來ル年月日服役滿期相成候ニ付海軍退職下士文官採用規則ニ據リ文官奉職仕度候間御檢査ノ上御採用相成候様御取計被下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年號月日 官 姓 名 印

何艦乗組(何營在勤)(何部局出勤)

職官姓名殿

第二號書式

過ル年月日退職被申付候處今般海軍退職下士文官採用規則ニ據リ文官奉職仕度候間御檢査ノ上御採用相成候様其筋へ御申立被下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年號月日 官 姓 名 印

何府(縣)何國郡(區)何町(村)族籍(寄留ノ者ハ寄留地モ記スヘシ)

前書ノ通相違無之候也

第一類 海軍退職下士文官採用規則

何府(縣)何郡(區)何町(村)戸長

姓名印

何府知事 姓名殿

前書願出ニ付本人御検査ノ上御採用有之度候也

年號月日

何府知事 姓名

名印

海軍卿姓名殿

第三號書式

某 儀

某被役(公務上)ノ傷痍(疾病)ニ因リ過ル年月日退職被申付候處今般海軍退職下士文官採用規則ニ據リ文官奉職仕度候間御検査ノ上御採用相成候様其筋へ御申立被下度別紙履歴書并ニ診斷書 傷痍若クハ疾病ヲ證スル爲メ豫 寫相添此段奉願候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)族籍寄留者ハ寄留地モ記スヘシ

退職

年號月日

官 姓名

名印

年號月何年何箇月

前書ノ通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)戸長

姓名 名印

何府知事 姓名殿

前書願出ニ付本人御検査ノ上御採用有之度候也

年號月日

何府知事 姓名

名印

海軍卿姓名殿

第二十一條 第八條ニ據リ特別ノ試験ヲ願フ者ハ其奉職志願ノ廳名ヲ願書中ニ記載シテ

差出ス可シ

第二十二條 所管長官ニ於テ願書ヲ受領スル片ハ履歴書ヲ調査シ意見書ヲ附シテ海軍卿

ニ進達ス可シ

第二十三條 海軍部内各廳ニ於テ文官ヲ要スル片ハ先ツ志願者ヲ採用スルヲ法トス

第二十四條 各廳ニ於テ文官ニ缺員アルカ又ハ増員ヲ要シ志願者ヲ採用セント欲スル片

ハ海軍卿ニ上請ス可シ

第二十五條 海軍卿前條ノ上請ヲ受ケタル片ハ試験及第者名簿ノ順序ニ從ヒ之ヲ任補ス

但其職務ニ依リ特別ニ選抜シテ任補スルコアル可シ

第二十六條 志願者ヲ採用スルニ當リ其官等ハ試験ノ優劣ト舊官等等ヲ參互斟酌シテ之

ヲ定ムルモノトス

第二十七條 試験及第者名簿ニ於テ採用ノ順ニ當ル者ト雖モ服役中ハ採用セラレサル者

トス

第二十八條 志願者試験ノ爲メ其場所へ往復スル旅費ハ總テ自辨トス但第二十五條ニ據
リ採用シ赴任スル片ハ定則ノ旅費ヲ支給ス

第二十九條 志願者ニ於テ其志願ヲ取消サント欲スル者ハ之ヲ許ス

第三十條 志願者採用セラレサル中年齡六十歳ニ滿チ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル
片ハ其志願無効ニ屬スルモノトス

第三十一條 第二十九條ニ據リ若シ其志願ヲ取消サント欲スル片又ハ志願者ノ身上ニ異
動ヲ生シ或ハ轉居轉籍若クハ賞罰等ニ關シ履歷上改正ヲ要スルコトアル片ハ其旨ヲ詳記
シ最初願出ノ手續ニ依リ届出可シ但服役中願出後退職シタル者ハ退職者願出ノ手續ニ
依ル可シ

○第十八款 國庫出納條規

明治十六年三月第十五
號(官省院廳府縣へ)達

國庫出納條規別冊之通相定候條此旨相達候事

國庫出納條規

第一條 國庫ハ大藏卿所管ノ金錢ヲ藏置スル處トス

第二條 常用準備ノ出納ハ大藏卿收支ノ傳票ヲ發シ出納局長ヲシテ執行セシム

第三條 大藏卿ノ傳票ハ番號ヲ附シ其番號ハ各廳會計上通シテ用ユルモノトス

第四條 大藏卿ハ便宜ニ依リ各地ニ出納局出張所又ハ大藏省爲換方ヲ設置シ金錢ノ出納

ヲ爲サシム其方法ハ大藏卿之レヲ定ム

第五條 收入金ノ受取證書ハ其納主へ對シ出納局長之レヲ發シ支出金ノ受取證書ハ出納

局長へ宛テ其受取主ヨリ差出サシム以テ收支ヲ了シタル証トス

第六條 收入スヘキ現金ハ出納局及全局出張所又ハ大藏省爲換方ニ於テ預リ納主へ預證

書ヲ交附シ納主ニハ該預證書ヲ以テ納附ノ手續ヲナサシム

第七條 大藏卿ハ國庫金錢管主ノ方法及ヒ之ヲ各廳ニ委托スル方法ヲ定ム

第八條 大藏卿ハ出納局長ニ命シ常ニ金錢ノ種類ヲ區別シ置キ一週間毎ニ現在高ヲ大政

官へ報告スヘシ

第九條 大藏卿ハ毎月末若干日ヲ剩シ收支ノ傳票ヲ停止スルコトヲ得

○第十九款 勸業委員撰舉方法

明治十六年九月農商務
省第十一號(府縣へ)達

本年(五月)第十三號布達第五條勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又
ハ聯合區町村會ノ評定ニ任スヘキノ處該會ノ設置無之地方ニ於テハ其手續ヲナスヘキ爲
メ之ニ代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモノ不苦爲心得此旨相達候事

○第二十款 戶長賜金及賞與法

明治十八年四月內務省
甲第十二號(府縣へ)達

第一類 戶長賜金及賞與法 學校長及教員懲戒法

一戸長滿五年以上奉職十一年未滿ニシテ退官セシキハ現俸給三ヶ月分ヲ給シ其滿十一年以上ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス但自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

一戸長在職中死亡ノ者ハ現俸給三ヶ月分ヲ給ス
右相達候事

△明治十一年十二月第五十三號(府縣へ)達

戸長職務ニ勉勵スル者ハ一ヶ月給料ノ高ヲ越ヘサル金額ヲ以テ賞賜スルヲ得但シ其費用ハ地方稅ヨリ支出スヘキモノトス此旨相達候事

(參看)明治十七年五月第十三號布告

明治十三年(四月)第十六號布告地方稅規則第三條第十五項左之通改正シ十七年度ヨリ施行ス

一戸長以下給料旅費
右奉 勅旨布告候事

○第廿一款 學校長及教員懲戒法

明治十五年五月文部省
號外(府縣へ)達

官吏懲戒例并ニ行政官吏服務紀律等ノ儀ハ府縣立町村學立校長教員及府縣立學校書記ハ

モ適用スヘキコト勿論ニ候條此旨相達候事

○第廿二款 看守懲罰例

明治十六年四月內務省乙第十
七號(警視廳府縣集治監へ)達

看守懲罰ノ儀ハ自今巡查懲罰例ニ準據スヘシ此旨相達候事

○第廿三款 禁厭祈禳

明治十五年七月內務省乙
第四十二號(府縣へ)達

別紙第戌三號之通神道副總裁神佛各管長へ相達候條今後違背之輩有之候半ハ直ニ差止置
委詳當省へ具狀可致此旨相達候事

(別紙)

內務省戊第三號 (明治十五年七月十日) 神道副總裁神佛各管長

禁厭祈禳ノ儀ニ付七年(六月)敎部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ
投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥之有無
ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條此旨屹度可相心得此
段相達候事

○第廿四款 托鉢解禁及其心得

明治十四年八月內
務省甲第八號布達

明治五年(十一月)敎部省第二十五號達僧侶托鉢禁止ノ儀相廢候條此旨布達候事

第一類 看守懲罰例 禁厭祈禳 托鉢解禁及其心得

但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ
 ▲明治十四年八月内務省乙第三十八號(府縣)達
 今般戊第二號ヲ以テ佛道各管長ヘ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢
 差止願末詳細取調當省ヘ可申出此旨相達候事

(別紙)

戊第二號

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙中第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導
 職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候
 事

托鉢免許方并托鉢者心得

- 一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳ヘ通知
 ノ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ
- 一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同十一時迄ヲ限リトス
- 一 但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
- 一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請アルニアラサレハ
 人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フヲ許サ
 ス

一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス
 一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標牌雛形 木製 縦六寸横二寸

第何號

表 ○ 何宗派 管長印 托鉢免許之証	裏 何府縣國郡區町村 何寺住職徒弟 何 教導職名試補 年月日 某 年月日生
--------------------------------	---

○第廿五款 北海道轉籍移住手續

明治十六年四月 第十號布達

北海道ヘ轉籍移住者手續別紙ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス
 但明治十五年(五月)第十號同年(七月)第十五號布達及同七年(七月)舊開拓使第二號布
 達第一第二第三條ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス
 右布達候事

北海道轉籍移住者手續

第一條 北海道へ轉籍移住スル者ニシテ資力ニナキ者ニ限リ此手續ニ依テ保護スルモノトス

第二條 渡航ノ保護ヲ出願スルモノハ其願書ニ移住スヘキ國郡名(町村名ノ詳カナルモノハ之ヲ記入スヘシ)並產業ヲ營マントスルノ目的ヲ詳記シ猶左ノ各項ヲ附屬書トナシ原籍戸長及ヒ郡區長ヲ經由シテ管轄廳へ出願スヘシ

一 戸籍寫

二 從來ノ營業及家産ノ程度

三 荷物ノ噸數

但携帶スヘキ農具及家具品類ノ大概ヲモ記載スヘシ

第三條 郡區長ハ轉籍移住出願者へ移民心得ノ旨趣ヲ懇篤ニ示論シ尙ホ願書ノ事情目的ノ當否ヲ審查シ意見ヲ具シテ之ヲ府知事若クハ縣令ニ開申スヘシ府知事縣令ハ之ヲ事實適當ノモノト認ルトキハ其旨ヲ副書シ農商務省へ進達スヘシ

第四條 渡航ノ保護ハ左ノ制限ニ依ル

- 一 三菱會社共同運輸會社運漕社ノ船舶開帆ノ港ヨリ乘船ヲ許可スヘシ但到着スヘキ港ハ函館、江刺、壽都、小樽、室蘭、浦河、幌泉、大津、若内、増毛、宗谷、根室、厚岸、釧路、濱中、網走、擇捉、(單冠灣)ノ十七港灣トス

二 渡航票ハ函館港迄ノモノト移住地最近ノ港灣迄ノモノトノ二葉ヲ下付スヘシ故ニ其出發港ヨリ移住地最近ノ港灣迄直航ノ船便アルトキハ二葉ノ渡航票ヲ併セ乘船切符ト引換乘船スヘシ直航ノ船便ナキトキハ先ツ函館港迄ノ渡航票ヲ乘船切符ト引換同

港ニ着シ函館縣廳へ殘二葉ノ渡航票ヲ持參シ更ニ渡航ノ儀ヲ出願スヘシ

三 函館着港ノ上船都合ニ依リ陸行セントスルモノハ函館縣廳へ出願スヘシ但陸行ヲ許可スルトキハ持參スル所ノ渡航票ニ換ヘテ其運賃ニ當ル金額ヲ支給スヘシ

四 陸行ノ場合ニハ其旨ヲ函館縣廳ヨリ沿道ノ縣廳及ヒ郡區役所警察署へ通達スヘシ沿道ノ郡區役所警察署ニテハ宿泊其他注意ヲ加ヘ時宜ヲ斟酌シ及フ丈々保護ヲナスヘシ但別途費用ヲ給セス

五 手荷物ノ外一戸ニ付五十才以内ノ荷物運賃ヲ支給スヘシ

第六條 制限外ノ荷物ハ勿論發着ノ船賃船待滞在中ノ費用ハ總テ自辨スヘシ

第七條 渡航者ハ下付ノ渡航票ヲ以テ三菱會社共同運輸會社運漕社汽船ノ開帆スル各港ノ内便宜ノ場所ニ至リ乘船切符ト引換乘船スヘシ

第一類 北海道轉籍移住手續

渡航票ハ乗船切符ト引換タル後ハ總テ汽船會社ノ規則ニ從フモノトス若シ引換後乗船
 時間ヲ過キ乗後レ又ハ事故アリテ乗船ヲ止メタルトキハ右會社定ムル處ノ時間内ニ再
 ヒ乗船切符ト渡航票ト引換ノ手續ヲナスヘシ右切符引換ニツキ該會社ニ對スル償金ハ
 自辨スヘキモノトス

渡航中不得止事故アリテ上陸シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其地郡區長(郡區役所アラ
 サル地ニテハ戶長)ノ公認ヲ請ケ其趣キヲ原籍郡區長府知事縣令ヲ經由シ農商務省ヘ
 届出且其際渡航票面ノ金額ヲ農商務省ヘ辨償スヘシ

但急劇ナル病難ニ罹リ乗船ヲ止メ又ハ乗後レ若クハ航海中上陸スル場合ニ於テモ總
 テ此手續ヲ爲スヘシ尤モ該地醫師ノ診察書ト郡區戶長ノ公認ニ依テハ費用ノ辨償ハ
 特別處分スルコトアルヘシ

第八條 渡航者許可ヲ得タル後事故アリテ原籍地若クハ乗船スヘキ港ニ於テ滞留三十日
 ヲ超ルトキハ其事由ヲ詳記シ其地ノ郡區長(郡區長アラサル地ニテハ戶長)ノ公認書ヲ
 副ヘ農商務省ヘ届出ツヘシ猶ホ滞留百六十日ヲ過タルトキハ本人ヨリ直チニ渡航票ヲ
 農商務省ニ返付シ其旨原籍郡區長ヲ經テ管轄廳ヘ届出ツヘシ

第九條 渡航者其乗船スヘキ港ヘ著シタルトキハ其地ノ郡區役所(郡區役所アラサル地
 ハ戶長役場)ニ其旨ヲ届出ツヘシ此届出ヲ受ケタル郡區役所戶長役場ニテハ注意ヲ加
 ヘ乗船ニ關シ及フ丈ケノ保護ヲ加フヘシ但別途費用ヲ給セス

第十條 函館港ヨリ更ニ渡航ヲナストキハ函館縣廳ニテ渡航者ノ願ヲ審査ノ上許可スル
 モノトス

第十一條 汽船會社ハ渡航者ヨリ受取スル處ノ渡航票ヲ以テ金額受取方農商務省ヘ申出
 ヘシ函館港ヨリ乗船スルモノハ函館縣廳ヘ申出ヘシ

第十二條 第四條第一項ニ記載スル所ノ港灣ノ内移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距
 離三里以上ニ涉ルモノハ滿三歲以上ノ人員ニ應シ每一里一人ニ付金五錢ノ手當ヲ給與
 ス但滿三歲未滿ノ幼兒及ヒ距離三里未滿ノモノハ給與ノ限ニ在ラヌ

第十三條 移住地到着ノ上他ノ雇人稼人ノ類ニ非スシテ自ラ營業ヲナス者ハ一戶ニ付
 假家作料金拾圓及營業器具代金八圓五拾錢特ニ農業者ヘハ種物代金壹圓五拾錢宛ヲ給
 與スヘシ

第十四條 保護ヲ受ケ移住シタル者其移住後滿五年以内ニ北海道ヲ去リ他ニ轉籍又ハ
 寄留スルトキハ既ニ保護支給シタル金額ハ戶主若クハ本人ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

契

番	族	氏	名	年	齡
自					
何					
航					
渡					
號					
港					

允許之證票		至何港	
噸	荷		
數	物		

一表面記名ノ人員運賃及ヒ荷物運送費ハ渡航人ヲ乗船セシメタル汽船會社ヨリ農商務省ヘ受取方申出ヘシ此證票引換ニ拂渡スヘシ
但函館港ヨリ更ニ乗船ノ分ハ函館縣ニ於テ拂渡スヘシ
一此證票ハ三菱會社共同運輸會社運漕社船ノ内各自ノ乗船スヘキ船ノ扱所ヘ持參シ乗船切符ト引換乗船スヘシ
一此證票ヲ以乗船切符ト引換タル後ハ總テ汽船會社ノ規則ニ從フヘシ若シ引換タル後乗船時間ニ乗後シ或ハ自己ノ事故ニ因リ乗船ヲ止メ會社制限時間内ニ渡航票ト引換戻シノ事ヲナスノ場合ニハ會社ノ規則ニ依リ辨償スヘキ金額ハ本人ヨリ辨償セシムヘシ

一此證票ハ表書記名人ニ限リ効アルモノトス
一此證票ヲ失ヒシトキハ表面ノ番號ヲ記シ速ニ農商務省ヘ届出ヘシ
右ノ條件遵守スヘキ事

農商務省
主任官姓名印

明治十六年 月 日

▲明治十六年四月廿五日農商務省號外諭達
北海道へ移住シテ就産セント企ツルモノハ左ノ事情ヲ斟酌折衷スヘキハ肝要ナリトス
一北海道開拓の舉に就ては夙お開拓使に於て寒暖地質等の調査をなせよ人民の移住には甚適良にして衣食住の需用をなすに關るものなき天賦地好土地なるは往々雇外國人の調査せる報文にも詳らかなり而して其海産も富むの地たるは人口に膾炙せるものにして實地も亦然り然れども海産の事たる其漁場所あるものに限りありて北見千島二國を除くの外は業に己に海濱の漁場所殆むと餘地なきに至るか如しと雖ども陸地開墾の進歩を伴ふて漁業も亦著しく盛大なるへきは自然の勢なり
又開墾に適するの曠野多く永久就産の基を立つへき其境なるは是又今更に辨ずるを竣たす數千年來開闢の功を盡し僅く殘存するは原野を見るか如き内地の比にあらす渺々たる曠野は幾百萬町歩の開墾おもなし得べくして寔に算測の及ばざるもの、如し然れども地味の稍宜しき場所は多くは密林なるを以て目下の狀勢にては無情とも其樹木を

伐採して開墾地となさざるを得ざれば愛林の情は暫らく擱くも随分開墾には骨の折れる事と識るべし尤場所よりては恰も良き平野にして地味の宜しき箇所もあれども是又くま笹或は雜草の盤根結はれて壯牛の數頭牽に非らざれば新墾し能はざるの地多し就中谷地濕地多ければ是等は適宜なる排水法を施したる上ならでは開墾降手の及ばざるもの多し大体如斯かるを以て新墾の容易からざるは豫期すべし事なり

二 地の寒氣旺盛なるは内地人比毎に憂ふる處なれども敢て寒氣の強きを恐るゝを要せずと云實地經歷者の言に依れば寒氣の爲に障りなきを必ず期すべからざるも素より一時の事に過すして大に身体を害せらるゝ程の障りあるを聞かず却て暖地に育ちしもの移住の後漸次健康を覺ゆるとの説は聞を得たり獨り本邦のみ然るゝ非らず北亞米利加合衆國の如きは最も寒暑の酷烈なるを聞ゆる中お就き稍我北海道と北緯比度を同ふするニユーハンブッシュヤイル州マサチュセツ州等として其寒度は我に埒す事一層の嚴かりと聞ゆれども其開墾の月に年に旺んなるは世の人の識る所の如し然りと雖も開墾なり漁場所の稼かり身体強壯にして忍耐力あるものにあらずんば其目的を達し能はざるは勿論にして殊に漁場所の稼は男子三十年乃至三十四五年以内は壯丁に非らざれば實用に適せざるものと云斯の如き事情をば豫め了得すべし事肝要なりとす

三 開墾を以て自途となすの移住者に必要あるは少くとも移住後一ケ年乃至二ケ年位の食料を支ふべきの資金おくんは實地就業乃素志を遂げ難かるべし何となれば當初より多

くの土地を耕耘し能はざるは理勢を免かれざるものにして且永久基礎の經營に準備なくんは非されはあり

四 移住者は成るべく一村落をもなすべき程の人を團結して渡航するを必用とす其故は未だ人煙稀少隨て運輸甚不便なるの地おれば需用品の購入農産物の賣捌き共に其物品の多額をあらされは商人も入込まず且前にも陳る如く密林巨木を伐除きて開墾するにも多人數の協力を要し又彼地にては牛馬を野飼するの慣習なれば之れか植物を荒らすを防ぎ猛獸の妨害を除く等有形の事物よりて人衆の團結を要する斯の如きのみならず猶且無形の事物に就ても人煙稠ければ異郷の愛をも忘れ同郷人多ければ徳義上よりも廉耻上よりも俱に事業を助くるもの多ければなり

五 移住者の團結中には大工も鍛冶も屋根屋も開業醫（其他諸は職業者あるも素より便るり）等も結合するは尤も便理なりとす畢竟無人の境に一村落をなすの備なればなり六 移住すべき地を撰むは移住者の最大緊要事件なれば多人數を團結して移住せんとするものは其内より能く人を撰みて先以て彼地に渡航せしめ縣廳お就き移住地の指示を能く了したる上猶實地に就き將來お得益あるべきの地を撰むべし

七 移住すべき地を撰むには輕々しく一度の看過にて俄に定むべからず能々官とみく民とさく彼地の先覺者に就き實地の事を諮問し地味の厚薄新墾の難易等は勿論運輸の便否山川の位地氣候の善惡等此事に篤く注意すべし彼地は内地とは未だ異なるの情態あり

て場所により得失の相去る甚だ遠きもの多ければなり飲用水は事にも能々注意すへし
八彼地は元來綿類の産出なき地なれば需用衣服類夜具類は勿論譬へ不用と見做すへき古
衣もても持合せたるものは成へく荷物の際ひたなりとも挟み持参すれば彼地必用防寒
の爲め又は後日經濟の爲め得益多かるへし

九新墾の地に用ふへき農具は成丈け丈夫なるを好む尤持合のもの或は手慣れたるものを持
参するの其意に任すへし然れども新に用意するものは其形も優しきもの或は北質の脆
弱品柄等を求め渡航せんよりは寧ろ彼地にて實地に適するものを購ひて用る方實際
の用も適すへし農具の中には根倒しに用ふへき大鋸及斧山刃等は必らず入用ありとす
十鍋類陶器類等は彼地にても需め得へしといへども直段殊に高く不便理お付成るへく従
來持合せのもの荷造の都合を能くして持参する方甚だ得益あるへし但し華美のもの
は申迄もなく不用ありと識るへし

十一植物の種子の彼地の寒暖風土に應せずんば成熟し難きものなれば敢て内地より持参
せんよりは彼地にて舊開拓使以來試験を経り實用の種子を需用するを得とす但麻藍等
の種子は内地の種を用意すへし其他蔬菜類は何れの種子も能く生長するなり
十二初年は殊に植物播種の季節も深く心を用ひ能く先前移住の經歷者も諮り季節を憶ら
ざる様注意すへし

十三該地に移住のものは協力同心に非ざれば著しき美果を結ぶ能はざるもの、如し然れ

は成るへく當初目的を定むる上は就き實地の事を参酌して約束を定め堅く之を遵守す
へきは事業奏効の基礎なるへし故に團結者の中より諸般の統轄を囑するに足るへき者
一人及其補佐たるへきもの若干名を撰みて主宰せしむるを良とす若然らずして各自の
意に任せ目前の小利に馳せ永久の家産を興すへき事を疎かにせば其弊や終に百年の謀
を謬り折角奮發して異郷に移住せる功なきに至らん實に鑒すんば非ざるあり

十四彼地に移住すへきには季節を撰まざるへからず降雪の頃より翌年融雪の頃迄の間は
移住をなすとも初年に在ては何等の業をもあす能はざるを以て三月下旬より四月中旬
までに移住し融雪の候を待ち直に開墾お著手し播種の季節を失はざる様諸般の手續し
を爲すは最も緊要なる事とす又數十戸若くは數百戸團結して移住を謀るときは先づ強
壯なる者若干を撰み前年十月頃に渡航せしめ小屋掛等の手配をなし雪中に至らば開墾
すへき場所の伐木に従事する等都て翌春總人數移住の準備を爲すは實際大に便益を得
る者とす

十五家屋は移住の當初防恙を主とする草壁草屋根の簡易なる居を設け漸次資力に基き且
土地の實況をも熟知せるの後に及んで各自の嗜好に任せ家屋と稱すへき程のものを經
營すへきは實益と謂ふへし

十六凡そ北海道へ移住の志ありて資力の乏しきものへは官もて渡航の保護を加へらる、
爲め渡航手續の設けありて布達あり然れども是迎も差定められたる汽船の着すへき港

より彼地と差定められたる着港迄のものおれば其前後の事と付ても能く注意すべきもの多し其主要は乗船の船都合を聞合せて後ち住地を發すべきやうにして無用の船待があるべきの勿論彼地各自の着すべき港へ直航の船あれば尤も都合宜しけれども直航船は稀なるへければ其初は一旦函館港に上陸して更ニ繼替船の義を函館縣廳に請願すへし然れば夫々繼換船の事を處辨し遣すへし乍去時によりては數日間便船を待せざるを得ざる事あれば此場合にては移住すべき地の遠近及陸路便否等を諮りて寧ろ船待せんよりは陸行の方便の事あるへし然る時は本人の請願に任せ海上渡航賃の額を給して陸行を許可すべき事あるへし

猶各自目途の着港より移住地への多少の距離あるものにして是等は兎に角陸行せざるを得ざるものなり其陸行に就ても種々心得べき事多あるへけれども就中彼地固有の物品にあらざるものは目下の處にては内地よりの運送を係を以て殊に高價なるものあり其一二を挙げは草鞋の如きは内地より用意すれば取て代錢を意とするに足らざるへきも彼地にては格外の高價なるに驚くへし反之薪炭の如きは實に内地に比例ならざるの饒多にして安價なるか如き理勢の免かれざるものなれば旅籠料等は内地より遙に高料ありと期すへし人馬の雇入は殊更に高賃なり加之道路の悪しくして老幼は馬に乗らされは行旅し得ざるの場所もあれば夫此旅行中の費用は甚だ嵩むべきものなりとするへし尤も郡役所にて特に周旋あるべき心得又は致し置くといへども不便の地おれば

其覺悟おくんばあらそ

右諭達候事

▲明治十六年十二月農商務省第十號告示

本年(四月)第十號布達北海道轉籍移住者渡航手續第二條第一項戶籍寫、自今三通可差出此旨告示候事

▲明治十七年二月農商務省第一號告示

北海道へ轉籍移住ノ爲メ自費ヲ以テ渡航スルモノト雖モ營業ノ目的確實ナリト認ムル片ハ移住地到着ノ上資力ナキモノニ限リ明治十六年(四月)第十號布達移住者手續第十三條ニ準シ假家作料并ニ營業器具代及ヒ農業者ヘハ特ニ種物代ヲ給與ス尤モ移住後滿五ヶ年以内ニ北海道ヲ去リ他ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ同手續第十四條ニ依リ保護金額辨償セシムヘシ此旨告示候事

▲明治十七年五月農商務省第三號告示

明治十六年(四月)第十號布達北海道へ轉籍移住者手續ノ義ハ移住者ノ目的ヲ達ス得ルヤ否ノ上ニ關シ本人ノ志操身體家族ノ摸樣家産ノ程度等精密ノ調査ヲ要シ苟シモ不都合ナルモノハ渡航保護ヲナスヘカヲサルハ實地ノ景况即チ十六年(四月)本省號外諭達ニ示スカ如クニシテ之ヲ既往移住者ノ覆轍ニ鑑ミルモ猶然ルナリ且十六年(六月)本省第六號達第五項ニ示ス處ノ年度内經費ヲ都合ニ依リ翌年度迄渡航ノ保護ヲ停止スルコアルヘキナ

リ然ルニ渡航保護願人中ニハ未タ許可ヲ得サル已前早ク己ニ家財ヲ賣却シ足ヲ跋テ、渡航票ノ下付ヲ相待テ適々資格ノ不都合ナルモノ若クハ經費ノ都合ニ依リ許可相成ラサルノ場合ニ會シ進退維レ谷ノ事情ヲ具シ哀願若クハ苦情ヲ相唱フル等ノ向ナキニシモアラズ畢竟渡航保護上ノ布達及達ヲ疎カニ解シ論達ノ旨趣ヲ等閑ニ附スル等ニ出ツルモノト謂ヘシ甚不都合ノ次第ニ付將來渡航保護ノ許可ヲ得サル已前輕舉スヘカラサルハ勿論論達ノ旨趣ヲ篤ク服膺シ尙願書ハ可成調査ノ時日ニ餘裕アルヘキ様進達方ニ注意スヘシ此旨告示候事

▲明治十六年六月農商務省第六號(府縣)達

本年(四月)第拾號布達北海道轉籍移住者渡航手續細節左之通可相心得此旨相達候事

一 渡航ノ保護ヲ出願スル者ハ別紙願書式ニ依ルヘシ

二 荷物運送官費支給ノ制限外ニ涉ルノ場合ト雖モ強テ荷造ノ區別ヲ要セス但其制限外ニ涉ル分ノ運賃ハ其乘込タル船ニ自費直拂セシムヘシ(參考一尺立方ヲ一才ト稱シ四十才ヲ以テ一噸ニ比例ス)

▲(明治十七年十一月同省第三拾壹號達)

昨十六年(六月)當省第六號達北海道轉籍移住者渡航手續細節第二項括弧中ノ儀ニ付本年(五月)第拾壹號ヲ以テ達候儀モ有之候處更ニ一才ト稱シラスト改正シ以下削除ス此旨相達候事

三 渡航者ノ乘込タル船積積ニテ若滯船日ヲ重テ三菱會社共同運輸會社運送社船ノ中ニテ繼替乗込スヘキノ便利アル場合ニ於テハ當該乗組船長又ハ取締役ノ加印ヲ以テ繼替乗込ノ義ヲ本省へ願出ル片ハ之ヲ認可シ更ニ乗船標ヲ下附スヘシ

四 移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距離ニ里以上ニ涉ルモノハ手當金ハ移住地ノ管轄廳於テ其里程相當ノ金額ヲ給與スヘシ

五 年度内經費ノ都合ニ依リ翌年度迄渡航保護願ヲ差止ルコトアル片ハ官報及東京日々新聞報知新聞上ニ於テ此旨五日間廣告スヘシ

北海道轉籍移住渡航保護願

何(府縣)何國何郡何(町村)第何番地
 族籍職業
 附籍ノ者ナレハ某父兄弟
 叔父甥等ノコトヲ記スヘシ
 何
 一 荷物何箇 但何才(或ハ何噸)
 (或ハ云々ニ付手荷物外携帶品無之候)
 年號何月出生
 年齡何年何ヶ月

妻 何 某 上
 長男 何 某 上
 長女 何 某 上

第一類 北海道轉籍移住手續 預金規則

私儀是迄何々業ヲ營ミ罷在候處今般北海道何縣何國何郡(町村名ノ詳カナルモノハ之ヲ
記入スヘシ)へ送籍移住シ何々業ニ就事仕度志願ニ付何港ヨリ何港ニヨル渡航ノ儀御保
護被成下度別紙附屬書相添此段奉願候也

年月日

右

何

某印

右村

戸長

何

某印

農商務卿宛

○第廿六款 預金規則

明治十八年五月
第拾三號布告

預金規則左ノ通制定ス

預金規則

- 第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム
- 第一 郵便局貯金
- 第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金
- 第三 社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其詔願ニ據ルモノ

第二條 預リ金取扱手續ハ大藏卿之ヲ定ム

第三條 預リ金ノ利子割合ハ大藏卿之ヲ定ム

第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス

第五條 預リ金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入贖入スルヲ得ス

第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス

第七條 大藏卿ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金
受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第八條 預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

右奉 勅旨布告候事

▲明治十八年五月第貳拾四號(官省院廳府縣へ)達

各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金ハ第拾三號布告ニ據リ渾テ其官廳ノ名義ヲ以テ大藏省預
金局へ預ケ入ルヘシ此旨相達候事

但取扱手續等ノ儀ハ大藏省へ協議スヘシ

▲明治十八年六月大藏省第二十八號(警視廳府縣へ)達

今般預金規則制定且本年貳拾四號公達相成候ニ就テハ成規ニ從タル積立金ハ勿論利殖ノ
爲メ預リ其損失ヲ官ニ負擔スヘキモノハ渾テ預金局へ預ケ入ルヘキ儀ニ付其金員等取調
至急申出ベシ

自今滿二十年ヲ以テ丁年ト相定候條此旨布告候事

▲明治六年二月第三十六號布告

自今年齡ヲ計算候儀幾年幾月ト可相數事

但舊曆中ノ儀ハ一千支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算シ十二月ヲ以テ一年ト可致事

○第三款 兵卒他家相續

明治十五年二月陸軍省
達甲第二號(府縣へ)達

憲兵卒服役中養子分家又ハ他家相續人タラント欲スル者ハ一般ノ下士ニ準シ可取扱儀ト可心得此旨相達候事

○第四款 武官結婚條例

明治十四年五月陸軍省
達甲第十三號(府縣)達

陸軍武官結婚條例別冊之通被相定候條此旨相達候事

陸軍省

陸軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

明治十四年四月二十五日

左大臣熾仁親王

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ノス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ

家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其衛生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士并ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵并ニ會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ
第五條 將官并ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レバ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ヲ調印シタル身元證書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官并ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官

四百六拾圓

中少尉並同等官

六百圓

准士官

八拾圓

下士

八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其妻ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨

ケナン

但公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナント雖モ大藏省定ル處ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七

條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ

但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ルル時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産舉テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村

族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

某儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)相添差

出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日

官 姓 名 印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官 姓 名 印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村
族籍職業

何 某 何 女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村 戶長 アラサル地ハ

年號月日

姓 名 印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

官 姓 名 印

第五款 武官結婚家計保護金取扱概則

明治十五年四月陸軍
省達乙第二十七號達

陸軍武官結婚家計保護金取扱概則別冊之通相定候條此旨相達候事

陸軍武官結婚家計保護金取扱概則

第一條 陸軍武官結婚條例第七條ニ掲クル家計保護金ハ總テ其所管長官ヨリ會計局長ニ

送付ス會計局長ハ計算課長ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條 會計局計算課長保護金ヲ受領スルハ預リ證券ヲ作り會計局長ヨリ其所管長官ヲ

經テ之ヲ本人ニ付與ス

但預リ證券ヲ付與スル迄ハ其所管ニ於テ假ニ受取證書ヲ渡シ置クヘシ

第三條 保護金ヲ納ムルニ公債證書ヲ以テスル片ハ之ニ屬スル利札ハ利子下渡シノ期節

前會計局長ヨリ其所管長官ヲ經テ之ヲ本人ニ付與スヘシ

但本人ノ所管換リタル片ハ其旨儘所管長官ヨリ直ニ會計局長ニ通報スヘシ

第四條 公債證書ヲ納ムルモノ其證書額面ノ都合ニヨリ條例第七條ノ金額ヨリ超過スル

ハ妨ケナシ

第五條 保護金ハ結婚出願セシ時ノ官階ニ應スル金額ヲ納メ其後本人官等ニ異動アル

モノ之ヲ増減スルコトナシ

第六條 其公債証書抽籤ニ當リタル片ハ他ノ公債證書若クハ現金ヲ以テ交換スヘシ

第七條 若シ前條ノ手順ヲ爲サス當籤ノ金額ヲ以テ之ニ充テノコトヲ望ムモノハ其金額ヲ

直ニ陸軍省ニ交付アラシメテ之ヲ公債證書所轄ノ府縣ニ出願シ且其趣ヲ所管ニ申出ヘシ所

第二類 武官結婚家計保護金取扱概則

管長官ハ會計局長ニ通報ス會計局長ハ公債證書ヲ其府縣ニ送付シテ金額ヲ受領シ保護金ニ對スル金額ヨリ過剩ノ分ハ本人ニ付與スヘシ
(第二條受領證書書式) ○□ノ印及ヒ〔〕ヲ施スモノハ朱刷

會計

局印

〔第號〕 証

〔納入〕官姓名

〔花〕 〔計算課長〕

〔課僚〕

金(公債證書額面高)圓

〔紋〕

〔公債證書ハ其種類記號番號ヲ記載ス〕

右家計保護金トシテ正ニ預リ置候也

明治年月日

陸軍省會計局計算課長

官姓名

○第六款 僧尼編籍心得方

明治八年十一月内務省
乙第百五十一號達

僧尼ノ査定籍ノ儀ニ付昨七年第七十四號ヲ以テ公布相成候處各自原籍ニ復スル分ハ格別現在地へ本籍ヲ定ムルニ至ツテハ自然各地方區々ノ處分ニ相涉リ候テハ不都合ニ付左ノ通相心得速ニ可致編籍此旨僧尼へ布達スヘキ事

心得方

一原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現今住所ノ區内へ別ニ本籍可相定尤本籍ヲ定ムルニ付更ニ土地及ヒ家屋ヲ設クルニ及ハス現住地ノ區戶長へ申立其區内(町村)へ定籍スヘシ若シ現住地ノ區内(町村)ノ外へ本籍ヲ定メ度望ノ者ハ一旦前條ノ如ク定籍ノ上其地ヨリ望ノ地へ送籍スヘキ事

第二類 僧尼編籍心得方 華族ノ席次 華族歷伺差出方 五百三十七

但別ニ本籍ヲ定ムル者身分ノ儀ハ昨七年第七十四號公布ノ通タルヘキ事

▲明治九年六月敎部省第二十一號(府縣)達

僧尼編籍ノ件昨八年(十一月)內務省乙第五百一十一號達書ニ據リ各自本籍爲相定候上ハ住職中其寺院へ居住ノ儀總テ從前ノ通可相心得筈ニ付此旨寺院へ可布達事

○第二章 雜令

○第一款 華族ノ席次

明治十七年七月宮內省乙第五號(華族一般)達

華族席順ハ爵ヲ以テ定ム爵同キ者ハ位階ヲ以テ定ム右相達候事

○第二款 華族願伺差出方

明治十年三月宮內省甲華第三號(華族有之府縣)達

華族ノ輩願伺等ノ儀ニ付昨九年(十一月)當省華第二十號達ノ趣モ有之候處詮議ノ次第有之自今無位子弟及ヒ家族ノ身分ニ係ル願伺ト雖モ養子女養弟妹及ヒ入夫等ノ義ハ當省ニテ取扱候條此旨相達候事
但管下華族へハ該府縣ヨリ本文ノ趣可相達事

▲明治九年九月第八十六號(華族有之府縣)達

華族ノ輩願伺等ノ儀ニ付本年(五月)第四十八號ヲ以テ相達置候趣モ有之候處自今其家名又ハ身上ニ係ル願伺居(例へハ隱居家督元服生死及給祿等ノ類)ハ宮內省へ可差出其他地方ニ係ル分ハ(例へハ土地買賣地券書換諸車檢印等ノ類)管轄廳へ可差出此旨華族へ可相達事

▲明治十三年三月宮內省乙第一號(華族有之府縣)達

別紙華第二十二號之通華族へ相達候條自今右等ノ願ハ其廳ニ於テ可取扱候此旨相達候事
(別紙)華第二十二號

華族ノ輩願伺等ノ儀ニ付明治九年(九月)第八十六號公達以後土地買賣地券書換等ノ願ハ其管轄廳へ差出候ニ付テハ自今學校病院及濟貧恤窮之費途へ出金願ノ儀モ同様其管轄廳へ可差出候此旨相達候事

明治十三年三月三日

宮內卿 德大寺實則

▲明治十七年八月宮內省乙第七號(華族一般)達

華族元服ノ儀ハ明治五年百三十七號公布ノ趣モ有之候處自今届出ルニ不及此旨相達候事
(參看)明治五年四月第三百三十七號公布
華族元服自今願ニ不及候條前以日限可届出事

○第三款 僧尼肉食蓄髮解禁及其心得

明治五年四月 第三百三十三號布告

自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事
但法用ノ外ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事

▲明治六年一月第二十六號布告

壬申第三百三十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ自今丘尼ノ儀モ蓄髮肉食縁付歸俗等可爲勝手事

但歸俗ノ輩ハ入籍致候上戸長へ可届出事

▲明治十一年二月内務省番外(佛道各宗管長)達

明治五年(四月)第三百三十三號僧侶肉食妻帶等可爲勝手公布ノ儀ハ從前右等ノ所業ヲ禁止セシ國法ヲ廢セラレ候旨趣ニ止リ決シテ宗規ニ關係無之譯ニ候條此旨爲心得相達候事

▲明治九年(十二月)第五百五十六號布告

僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上ニ限リ候條此旨布告候事

(參看)明治十七年八月第十九號布達ヲ以テ神佛教導職ヲ廢セラル尙同月第六十九號ヲ以テ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フ者トス」ト布達セラル

○第四款 棄兒養育

明治十年五月内務省乙第五十二號(府縣)達

棄兒養育致候寄留人へ養育米渡方ノ儀自今寄留中ハ其寄留地ノ管轄廳ヨリ可下渡此旨相

達候事

▲明治九年六月内務大藏兩省乙第七十五號達

年額月額有之御手當金渡方ノ儀ニ付テハ明治七年(一月)第十五號公達ノ趣モ有之候處棄兒養育米ノ儀ハ來ル七月一日ヨリ全月未滿端日數ノ分ハ日割ヲ以テ支給可致此旨相達候事

但病死等ノ節渡過相成候分ハ明治八年(四月)兩省乙第六十三號達但書ノ通可相心得候事

▲明治六年三月第七十九號布告

三子出產ノ者其家困窮ニシテ孳養行届兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與致シ候間地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省へ可申出候事

○第五款 人身賣買ノ禁

明治三年八月十三日布告

各港在留ノ支那人共竊ニ童男女ヲ買取リ海外へ可運越奸計相企候者有之既ニ捕押ニ相成候ニ付追テ嚴重ノ御處置可有之候得共元來外國人へ御國民賣渡シ候儀ハ第一御國躰ニ於テ不相濟事ニ候間向後地方官ニ於テ管内屹度取締相立教育届行候様厚ク相心得可申此旨相達候事

▲明治五年二月第五十五號布告

各港在留ノ支那人共我窮民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相達候得共未タ右
様ノ所業致候者モ有之哉ノ趣畢竟内國人ヨリ買渡シ候故支那人ニ於テモ買取本國へ進行
販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シテ不易儀ニ付向後右様不心得ノ者於有之ハ嚴重處
置ニ可及候間地方官ニ於テ管内取締厚ク可加教育候事

○第六款 傳染病ニ係ル赤貧者處分方

明治十六年二月 第八號(府縣)達

明治十四年(四月)第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發
病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時宜ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

○第三章 契約及證書

○第一款 預金穀證書處分方

明治七年三月 第廿七號布告

預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ルノ明文ナキ分ハ
出訴候トモ本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同様ニ裁判可致候條此旨布告候事

○第二款 契約證書解釋方法

明治十年十月司法 省丁第七十五號

大審院諸裁判所へ達

契約證書解釋方法ノ儀太政官へ相伺候處別紙ノ通御指令相成候ニ付心得ノ爲メ此旨相達
候事

裁判上契約證書解釋方法ノ義ニ付上申

抑モ契約證書ナル者ハ雙方ノ權利義務ヲ定メ其旨趣目的ヲ確實ナラシムルモノニシテ素
ヨリ輕易ニ付スヘカヲサルナリ然ルニ各人契約ノ證書動モスレハ疎漏ニ流レ訴訟トナル
ニ及テ意義ノ解釋ニ苦シム文意汎漫立言曖昧ニシテ契約ノ趣旨目的明劃ナラサル者アリ
意義兩端ニ渉ル者アリ其他地方ノ慣習ニ因リ文言ノ其趣旨ニ適セサルモノアリ裁判官タ
ルモノ活眼以テ之ヲ解シ明察以テ其要旨ヲ採ラサレハ裁判其當ヲ失ヒ冤ヲ吞ミ憾ヲ含ミ
却テ人民ヲシテ冤屈ニ沈マシム慎マサルヘテソヤ

現今裁判上ノ景況ヲ視ルニ特リ其文詞ニ拘泥シ其契約ノ主旨ヲ誤リ或ハ文意ノ曖昧ナル
者ハ概シテ無効トナスカ如キノ弊害アルヲ免レサルナリ果シテ然ルハ權利者却テ權利
ヲ失ヒ義務者却テ義務ヲ免ル、ニ至リ雙方ノ權義ヲ錯亂シ各人ノ權利財產ノ安固ヲ妨害
スル實ニ鮮少ナラサルヘシ是ニ於テ道理ニ基キ便益ヲ測リ猶佛國民法ノ法理ニ據リ契約
證書ノ解釋法ヲ指示シテ裁判上ノ謬誤ヲ豫防スルコト目今ノ一大急務タリ

因テハ別紙ノ通疑シキ契約證書ノ解釋方法兼テ於當省議定メタシ置キ斯主旨ヲ以テ伺出
ノ向キへ指令ニ及ヒ度又時宜ニ因リ各裁判所爲心得相達候儀モ有之ヘク存候仰モ是等ノ

事ハ事理ノ然ラサルヘカヲカル者ニ候得共爲念一應相伺候條至急御裁令ヲ請
明治十年六月廿二日 司法卿大木喬任

右大臣岩倉具視殿

御指令

伺之趣ハ修正ノ通相心得ヘシ

明治十年七月十七日別紙原案ハ之ヲ略ス

(修正) 契約書解釋心得

- 一 契約書ヲ解釋スルニハ其文字ノミニ依著スルヨリハ寧ロ其契結ヲ爲シタル雙方ノ者ノ旨趣如何ヲ考察スヘシ
- 二 一個ノ條款ニ様ノ意ヲ帶ル片ハ其契約ノ効ナカヲシム可キ意ニ之レヲ解スルヨリ寧ロ其効ヲ生セシムヘキノ意ニ之ヲ解スヘシ
- 三 文詞ニ様ノ意ヲ帶ル片ハ其契約ノ目的ニ最モ適シタル意ニ之ヲ解スヘシ
- 四 文意ノ曖昧タルモノハ其契約ヲ結ヒタル地方ノ習慣ニ從テ之ヲ解スヘシ
- 五 習慣上通常記載スル條款ヲ契約書中ニ記セサルモ仍ホ之ヲ記シタルモノト看做ス可シ
- 六 契約書中ノ條款ハ皆其全文ノ大意ニ從ヒ互ニ相解釋スヘシ
- 七 疑ノ場合ニ於テハ契約ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ利益トナル様之ヲ解釋ス可シ
- 八 契約書中ノ文詞如何ニ泛キトモ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ者互ニ相思擬シタル可シト推

知スルヲ得ヘキ者ヲ除クノ外ハ之ヲ包含セシ

九 義務ヲ解釋スル爲メ契約書中ニ一箇ノ事項ヲ掲ケタリトモ其契約上當然ニ包含ス可キ事件他ノ事項ヲ除去シタル者ト看做ス可ラヌ

○第三款 代人

明治十八年六月大藏省 第貳拾九號(府縣)達

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサル片ハ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戸長役場へ届置カシムヘシ
右相達候事

○第四章 貸借

○第一款 金穀公借共有物取扱規則

明治九年十月第 百三十號布告

各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則自今左ノ通相定候條此旨布告候事

- 第一條 凡ソ一區ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル片ハ正副區戸長並ニ其區内町村ノ總代二名ツ、ノ内六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ
- 第二條 凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ正副區戸長並ニ其町村内不動產所有ノ者六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ
- 第三條 但右不動產所有者ヨリ其總代ヲ撰メテ之ヲ代理タラシムルハ其都合ニ任スヘシ

第二條 代人 戸長所有之地所建物船舶質入書入賣買公証法 五百四十五

第三條 凡ソ區内若クハ町村内ニテ土木ヲ起功スル時ハ其區ト町村ナルトニ隨ヒ各第一條若クハ第二條ニ倣フヘシ

第四條 若シ第一條第二條及ヒ第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯正副區戶長ノ印ノミヲ鈐シ其須要ナル連印ナキモノハ總テ之ヲ該區戶長限リノ私借若クハ私ノ土木起功ト看做スヘシ其正副區戶長ノ印ノミヲ以テ共有ノ地所建物等ヲ賣買シタルモノハ總テ賣買ノ効ヲ有セス

○第二款 同則施行ノ方法

明治十二年六月 第二十三號布告

區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年(十月)第三百三十號布告金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スヘシ此旨布告候事

○第三款 戶長所有之地所建物船 船質入書入賣買公證法

明治十八年三月內務省 甲第六號(府縣へ)達

戶長所有之地所建物船舶等ヲ質入書入及ヒ賣買セントスル片ハ其次席ノモノ次席ノモノ無之片ハ隣町村戶長ヲシテ公證爲取扱來候處自今戶長ニ於テ成規ノ公證ヲナシ郡區長(戶長役場ヲ兼ヌル區役所ハ府知事縣令)之檢閱ヲ爲受候樣可致此旨相達候事 但檢閱之證トシテ公證帳簿ト證書トニ郡區役所之割印ヲナスヘシ

○第四款 坑物抵當貸借禁令

明治七年十一月 第二百二十四號布告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

○第五款 社寺負債處分方

明治十年五月 第四十三號布告

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキモノト爲スヘシ此旨布告候事

○第三類 商法編

○第一章 專賣

○第一款 專賣特許條例

明治十八年四月
第七號布告

專賣特許條例別冊之通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣畧規則及明治五年(三月)第百五號布告ハ廢止ス
右奉 勅旨布告候事

專賣特許條例

第一條 有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セシト欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受ク
ヘシ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許證ヲ下付スヘシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書并必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ
依リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條 專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 左ノ諸項ニ觸ル、モノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

一 他人ノ既ニ發明シタルモノ

一 但他人ヨリ讓受タルモノハ此限ニアラス
 二 專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ
 三 治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ

四 醫藥

第五條 軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條 專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス
 相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條 專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ願出ヘシ

第八條 專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ
 專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十條 專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十一條 專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條 專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第十三條 專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許証ヲ返納セシムヘシ

一 第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ
 二 願書並明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ
 一 專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ届出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二 專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條 專賣特許證ヲ下附シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條 專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ

- 一 五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾圓
- 二 十年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾五圓
- 三 十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金貳拾圓
- 四 讓與分與ヲ願出ル者 金五圓
- 五 追加特許ヲ願出ル者 金五圓
- 六 專賣特許証ノ再渡ヲ願出ル者 金壹圓
- 第十八條 專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス
- 第十九條 專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ并要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但
- 第十條ノ標記ヲ爲サレトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三十條 專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二十一條 專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三十二條 第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル

- ル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス
- 第二十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二十五條 第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サレル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十六條 此條例ヲ犯シタル者テハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十七條 第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第二十八條 專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

明治四年四月七日專賣容規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年(三月)第百五號布告但書ニ依リ届出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料同一ノ金額ヲ納ムヘシ

第三類 專賣特許手續